

岡山県学校図書館研究集録

第 59 号

令和4年

——2022——

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

発刊によせて

岡山県学校図書館協議会

会長 藤井省吾

各学校におかれましては、学校図書館の魅力増進や児童・生徒の読書指導の推進等にご尽力いただくとともに、本協議会の取組へのご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の流行から3年目となりました。本年度も感染の拡大と縮小が繰り返されましたが、昨年度と比べ、規制が緩和された部分もありました。そのため、事業の多くをオンラインで行ってきた昨年度に比べ、本年度は安全面に配慮しながら、参集、対面での事業も多く行われました。皆様のご協力とご理解のおかげです。ありがとうございました。

この度、その活動記録として、「岡山県学校図書館集録59号」を発刊する運びとなりました。平成26年度までは、印刷製本してまとめていましたが、より多くの方に読んでいただくために、平成27年からはホームページに掲載し、公開させていただいております。

ところで、学校図書館の役割とはどのようなものでしょうか。学校図書館第一条には「この法律は、学校図書館が、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることにかんがみ、その健全な発達を図り、もって学校教育を充実することを目的とする」とあります。つまり、学校のカリキュラムマネジメントを支援するとともに、子供たちが生きていくうえで必要な情報収集能力を身に付けるとともに、子供たちの豊かな心を育み、読書の楽しみを知る手助けをする役割を担っていると言えます。この役割はいつの時代も変わることはないと思います。しかし、読書を取り巻く環境は大きく変化しています。今後も児童・生徒が発達段階に応じた形で読書活動や図書館を活用した学習に主体的に関わったり参加したりできるよう、学校図書館に携わるもの同士がさまざまな面で協働・連携し、その環境を整えていくことが大切です。引き続き学校図書館の充実に、ご理解・ご協力をいただけますと幸いです。

最後になりましたが、この研究集録を発刊するにあたり、多大なご尽力・ご協力をいただきました関係者に厚く感謝申し上げます、巻頭のあいさつとします。

目 次

発刊によせて

第44回 岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）……………1-1～25

第68回青少年読書感想文岡山県コンクール……………2-1～15

第34回読書感想画岡山県コンクール……………3-1～5

絵本研究部会……………4-1～5

優良図書研究部会……………5-1～9

指定図書選定委員会……………6-1

司書部会

その他

- 1 令和4年度 岡山県学校図書館協議会 事業報告……………7-1
- 2 令和4年度 岡山県学校図書館協議会 支部協議会事業報告……………7-2-1～14
- 3 岡山県学校図書館協議会組織図……………7-3
- 4 岡山県学校図書館協議会規約……………7-4-1～2
- 5 岡山県学校図書館協議会司書部会会則……………7-5
- 6 岡山県学校図書館協議会72年の歩み（略年表）……………7-6-1～6

第44回岡山県学校司書研究協議会(岡山大会) 要項

主催 岡山県学校図書館協議会
岡山県学校図書館協議会司書部会
共催 岡山市学校図書館協議会
岡山県学校図書館協議会備前支部
後援 岡山県教育委員会
岡山市教育委員会

1 日 時 令和4年7月28日(木) 14:00~15:30

2 開催形式 web 会議システム(ZOOM)によるオンライン開催

3 主 題 「 つづける つながる 切り拓く ~これからの学校図書館~ 」

4 日 程

14:00	15:00	15:25	15:30
開会行事・総会		全体会	閉会

5 総会

- (1) 議長選出
- (2) 2021(R3)年度活動報告(地区活動報告・理事会活動報告)
- (3) 2021(R3)年度決算報告
- (4) 2021(R3)年度監査報告
- (5) 質疑応答・承認
- (6) 役員改選
- (7) 2022(R4)年度活動方針(案)
- (8) 2022(R4)年度予算(案)
- (9) 質疑応答・承認
- (10) 情勢報告(地区活動報告・実態調査報告)
- (11) 議長解任

6 全体会 ※事前に動画配信いたします。詳しくは後日送信するEメールをご確認ください。

発表①「コロナ禍での研修」

発表者 小橋 康智(岡山県立西大寺高等学校)
二部野 陽子(岡山県立大安寺中等教育学校)
細田 優子(岡山県立岡山南高等学校)

発表②「授業との連携～子どもたちが主体的に、深く学ぶために～」

発表者 風早 絵里子(岡山市立大野小学校)
金林 誉子(岡山市立岡南小学校)

発表③「学校図書館で大切にしたいこと～学校図書館における合理的配慮を中心に～」

発表者 分島 沙帆里(岡山市立牧石小学校)

発表④「児童生徒の情報活用能力の育成を目指した学校図書館の取組」

発表者 坂本 佳子(岡山市立西大寺中学校)

発表⑤「新聞活用、はじめの一步」

発表者 大倉 益美(岡山市立福浜小学校)

発表⑥「SDGsに関する資料研究」

発表者 辻 妙子(岡山市立桑田中学校)

【全体会発表①】

発表者 小橋 康智（岡山県立西大寺高等学校司書）
二部野 陽子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校司書）
細田 優子（岡山県立岡山南高等学校司書）
記録者 小橋 暁子（岡山県立玉野光南高等学校司書）

I 事例発表

コロナ禍での研修
～各回担当班の取り組みより～

岡山県立西大寺高等学校 小橋 康智
岡山県立岡山大安寺中等教育学校 二部野陽子
岡山県立岡山南高等学校 細田 優子

第44回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）

全体会発表①

コロナ禍での研修
～各回担当班の取り組みより～

発表者 小橋 康智（岡山県立西大寺高等学校）
二部野 陽子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校）
細田 優子（岡山県立岡山南高等学校）

目次

1. 備前支部司書部会について
2. 令和3年度 第2回司書部会
3. 令和3年度 第3回司書部会
4. 令和3年度 第4回司書部会

岡山県高教研学校図書館部会

備前支部司書部会
備中支部司書部会
美作支部司書部会

備前支部の研修

- 年に4回
- 1回目：4月～5月頃
- 2回目：夏休み頃
- 3回目：12月
- 4回目：2月～3月頃

研修の計画

第1回
第2回 担当班
第3回 担当班
第4回 担当班

令和3年度 第1回は中止に

通常は1日開催
→半日開催・できるだけ短時間で計画
→コロナ感染拡大につき、
関係各所と連絡の結果、急遽中止に

令和3年度（今回の発表）

第1回はコロナ感染拡大により中止

第2回～第4回は支部ごとの研修

7

第2回

令和3年8月3日開催

8

令和3年度 第2回は…

研修機会の確保のため

オンライン研修を計画

9

オンライン研修は

- コロナ禍での研修手段の確保
- 参加したことはあるが…
- 主催したことはない

10

オンライン研修を

- やってみる
 - 参加してみる
 - 試してみる
- 次の研修機会につなげる

11

オンライン研修計画



県立高校ではアカウント配布され、
私立高校でも利用があった
『Google Meet』を利用

12

研修内容

- 各校の図書館を紹介しよう
- リアルタイム配信をしよう
- 画面共有をしよう

13

YouTube動画の一場面（事前配信）

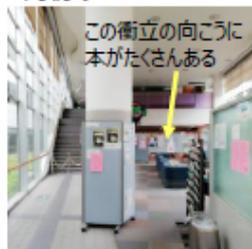


15



16

6月初め



この書架の向こうに
本がたくさんある



案内サインがない

27

初めて訪問したときの印象

- ・入口から奥が見えない
- ・中に入ってみようと思わない
- ・どこに何の本があるか分からない
- ・とにかく本が古い

28

10月末



棚に空きスペースができていた

29



司書部会当日の玄関に！



校長先生からのご挨拶

30

研修テーマ「アイデアを貸してください！」



考えたのは3カ所。1グループが2つのコーナーを検討。

31



最後に各グループからの提案を聞いた

32

提案内容は
高校司書部会HP
に掲載



33

参加者のアンケートより

- ・他校の図書館を訪問できた
- ・グループ内で意見交換ができた
- ・自分の図書館の参考にもなった
- ・ちょっとした相談事が解決した

34

第4回

1月下旬

Googleフォームとスライドを使った、アンケート形式の研修

35

第4回研修

- ・開催形式決定の経緯
- ・方法（実際の流れ）
- ・事例の掲載
- ・第4回研修を終えて

36

開催形式決定

選択肢

対面

オンライン

Googleフォームでのアンケート

+

Googleスライド

37

テーマの設定

「自己紹介シート」より

- ・所属・氏名・役割分担
- ・自校の写真
- ・現在困っていること、相談したいこと など

38

自己紹介シートとは？

Googleスライドを共有→各自記入



39

テーマの決定

・現在困っていること、相談したいこと

- ①本や文字を読む習慣のない生徒が図書館にくるきっかけづくり
- ②図書委員会の活動でやってみたこと

※Google Classroomでの活用事例もぜひ

40

方法（実際の流れ）

アンケート

Googleフォーム準備 → [投稿] → データ編集 → 共有

質問と回答

Googleスライド準備・共有 → [質問] → [回答]

41

事例の掲載（司書部会HP）



42

(例) 生徒を呼び込むきっかけづくり

入口前壁面装飾



廊下展示



43

(例) 図書委員会活動

140文字のラブレター



生徒による図書館紹介動画



図書部誌日



44

質問と回答



45

質問と回答



46

発表者 風早 絵里子（岡山市立大野小学校司書）
金林 誉子（岡山市立岡南小学校司書）
記録者 谷本 淳子（岡山市立興除小学校司書）

I 事例発表

授業との連携

—子どもたちが主体的に、そして深く学ぶためには—

岡山市立大野小学校 風早 絵里子

岡山市立岡南小学校 金林 誉子

1 研究の概要

岡山市学校司書部会では、学校司書としての専門性を、理論と実践から学びあうことを目的に研修を行っている。今回は、私たちが「授業との連携」をテーマに、令和2・3年度に研修してきたことを中間発表として報告する。

学校図書館が授業と連携する活動は、学校図書館の設置目的が「教育課程の展開に寄与する」とされていることから、常に各学校図書館で取り組み、また司書部会としても長年研修をしてきた。さらに、小学校・中学校学習指導要領総則編第3章第3節に、授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学び」が示されている。そこで、私たちのグループは、研修の目的を「子どもたちが主体的に、そして深く学ぶためには、学校司書が授業にどのように関わることが有効なのか、授業実践を持ち寄り、検討しながら、各校の取り組みを充実させる」とし、研修を行った。

2 授業との連携を行うために、

大切にしていきたいこと

いくつかの実践レポートを聞いたり、先進事例から学校図書館の授業に活用される姿を情報収集したりした。そこで学校図書館が授業と連携するのは、「学習内容への意欲付け」や「学習内容を深めるための調べる学習」「授業での疑問の解決」「学習内容の発展学習」「総合的な学習の時間などの個々の探究的な学習」などがあげられることがわかってきた。その中には、読書活動や利用教育も

含まれる。そしてこれらの研修を踏まえ、各校の授業連携の時に、大切にしていきたいことをまとめてみた。

①子どもの主体的な学びを大切にする。

調べ学習などでは、子どもたちが問題意識を高め、問いや調べるテーマについて考えることが大切である。そのためには、学校図書館の役割を活かして、知りたい資料や情報を子どもたちが自由に選び、入手できることを保障し、子どもたち自身の視野を広げたり、子どもの身近な体験に近づけたりする支援をしたいと考える。そして一人ひとりの問いに向き合い、的確な資料提供を行う。また、子どもたちの意欲・学びの過程をよくみて、その声に耳を傾け、随時必要な検索援助や資料提供などを行う。授業との連携の過程で、教師との打ち合わせ、めあての共有、振り返りなど、教師と学校司書との専門性をいかして子どもの主体的な学びを支援する姿勢が大切と考えた。

②GIGA スクール構想の中で、学校図書館教育と情報教育の連携を大切にする。

図書館資料は多種多様であり、その中で子どもたちが必要なメディア・情報を選択できるように支援することが必要となってきている。事前に教師と相談・検討・打ち合わせを行い、子どもたちに、どのタイミングで、資料を手渡すのか、タブレット端末を利用させるのかを共有しておく。また、発達段階に応じた学校司書による利用教育の内容なども教師に伝え、図書館と図書館資料を活用する方法を教師と一緒に考え、学校図書館を使うことで有効な情報活用の力を育むことができるようすすめていく。そのためにも、

学校図書館側からの利用教育や情報リテラシー育成の全体計画を提案し、情報教育との連携をしていくことが重要である。

③「情報活用能力」の土台となる「読む力」の育成を大切にす。

読む力や読書活動をすすめることは、情報活用の力を育む際にも重要である。学習のねらいや子どもたちにつけたい力を教師と共有し、資料を検討・精選・提供することが大切である。そして読み聞かせや資料紹介などを通して、読む楽しさ・面白さを子どもたちに伝え、読む力を育てていく必要がある。読書を通して、考える幅を広げたり、物事の内容をつかんだり、また豊かな人間性・人権尊重について考える支援も大切にしていきたい。こうした読む力が、情報を吟味し活用する際に重要な力となる。

④図書館活動の根幹である日常活動を誠実に行う。

授業との連携の際に、当該の授業時間だけでなく、学校図書館がいつでも活用できることが欠かせない。学校司書が常駐し、レファレンスや予約制度、的確な資料提供、資料案内などの学校図書館サービスがあり、児童・生徒・教職員から信頼される学校図書館を構築していくことが大切である。こうした日常活動は、授業と連携した学習を支える。子どもたちが書架を周ることで、自分が知りたいことが可視化されていることに気付いたり、新たな発見や学びがおこったり、多様なメディアから発想を広げたりできることなどが可能な、ラーニング・コモンズ(学習空間)としての学校図書館へと発展させることも大切である。

こうした内容を意見交換しながら、各校の取り組みに活かし、授業連携の取り組みを情報交流している。また、実践に取り組むにあたり、どの単元・どの分野で学校図書館と連携できるのかといった年間計画も、小・中学校ごとに洗い出している。

このあと紹介する実践は、この1年目の研修で共有したものを意識しながら、2年目に各校で取り組んだものである。

3 中学年グループ実践報告

岡山市立岡南小学校

1~6年までが各2クラス、特別支援学級7クラス、合わせて19クラスの中規模校である。児童、教職員から日常的に資料を使いたい時には気軽に相談があり、昨年度の図書館の利用状況は、授業に関連して図書館の資料を提供したのは77単

元、このうち調べる学習が行われたのが15単元、一人当たりの貸出冊数は114.4冊であった。

岡山市学校司書部会「授業との連携グループ」では、小学校低・中・高学年と中学校の4つの小グループで研修を行っている。中学年グループでは、各校が同じ単元で実践し、意見交換、検討をすることになり、3年生国語科の「パラリンピックの目指すもの」を選択した。

以下の実践は岡南小で令和3年度の2学期に行った授業のもので、国語科での学習後、パラリンピックについて知ろうという総合的な学習へ移っていった。

3年総合的な学習の時間「パラリンピックを調べよう」

この学年の子どもたちは、1学期に学校図書館で図鑑の使い方の利用教育を受け、理科や総合的な学習で昆虫を中心に生き物のことについて調べる学習をしていた。教室や学年の廊下にはいつも生き物や植物などの実物が置かれ、関連するクイズが掲示されていた。その隣に図書館の本を置き、いつでも子どもたちが調べられるようにしていたので、子どもたちの中で実体験と本が結びついており、日常的にわからないことはすぐ本で調べようとしたり、「総合で図書館を使いたい!」「調べたい!」と声が挙がったりするようになっていた。

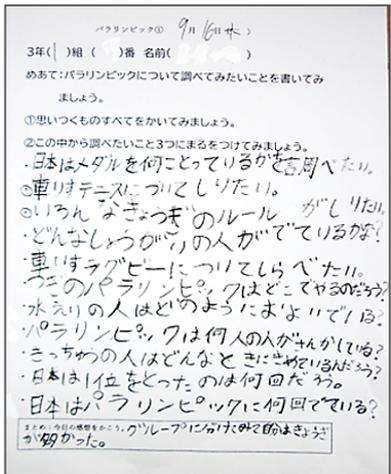
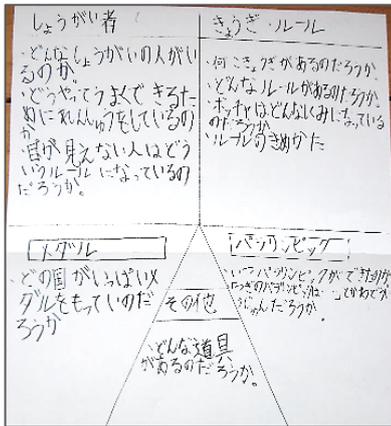
(1) 打ち合わせ・利用教育

まず、打ち合わせの時には、教師からは総合的な学習の時間での「パラリンピックを調べよう」というテーマと、学習のめあてが示された。情報収集では、図書資料とタブレット端末の両方を使って、収集した情報の比較もさせたいということだった。そこで、学校司書から図書の時間に新聞や、雑誌なども使ってパラリンピックに興味を持てるよう関連する資料を紹介すること、総合的な学習の時間に入る前には学校司書が百科事典の利用教育を行い、子どもたちが使えるメディアの幅を広げることを提案した。3年生なりに、自分の知りたいことをどのメディアから調べるのが良いのか、子どもたち自身で考えて選びながら、情報収集させる方向で決まった。利用教育後、百科事典は学年へ貸し出し、教室にパラリンピック関連記事が掲載されている雑誌や、複数の小学生新聞を置いたので、授業以外の時間にも百科事典で何かを調べたり、新聞を手にとったりする子どもの姿が見られた。

(2) 学習活動の様子

【1】ワークシート

最初に教師が用意していたのは、情報カード形式のワークシートだったが、学校司書の方から、情報を調べる前の段階で「問いを絞り込む」プロセスを入れることを提案した。3年生だ



と調べたいことを、思いつくままに調べていく子どもも多い。知りたいことに優先順位をつけたり、仲間分けしたりすることで、自分の興味関心がどこにあるのかを視覚化できると考えた。

上が、実際のワークシートである。まず子どもたち自身が知りたいことを挙げ、優先順位をつけたり、仲間分けしたりして、自分の中にある興味関心を視覚化し、確認できるようにした。

下のワークシートの

感想を書く欄に、この子どもは「グループ分けをしたら、自分は競技のことが多かった」と書いている。自分が挙げたことを整理してみて、自分の興味関心が競技にあることに気付いたので、この後、様々なパラリンピック競技について調べ、その中でも一番興味を持ったアーチェリーについてのパンフレットを作成していた。ほかにも競技マークの移り変わりや競技に使われる道具についてなど、自分の知りたいことを明確に認識し、「調べてパンフレットで伝えたい」と、最後まで継続して主体的に活動できていた。

【2】タブレット端末を使った調べる学習

タブレット端末を使った調べる学習は、学校司書も参加して教室で行った。実態として、子どもたちだけで検索して、出てきた情報を適切に選ぶことは難しいので、教師が例を示したり、アドバイスをしたりした検索ワードから検索し、どの情報を選ぶかは教師と学校司書が個別に対応や支援をした。

車いすテニスと車いすラグビーについて検索した子どもが「どれを選んだらいいん？」と聞いてきたので、画面を確認しながら、「これは大人向けのHPだから書いてあることが難しいね」「これは競技の日程だね」と話をしながら使う情報を選び、その後、「実は車いすテニスと車いすラグビーのことは本でも調べられるよ」と、本を手渡した。その児童はそれぞれの競技について調べ、さらにその本の中にあつた競技用の車いすの進化

についても興味を持ったようで、調べてパンフレットにも書いていた。

また子ども同士で使いたい資料が重なってしまうこともあったため、解決策として、必要な箇所をタブレット端末のカメラ機能を使って写真を撮り、それを自分の席でじっくり見るという方法をとった。コロナ禍で近くに寄って資料と一緒に使うのが難しい状況なので、タブレット端末はこんな使い方もできるのだなと思った。

【3】適切なメディアを選択して調べる

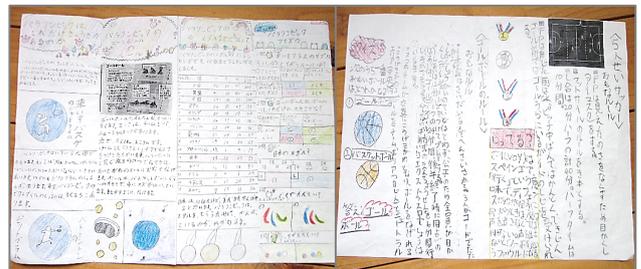
調べる活動をしている時の図書の時間には、

- ・わからない言葉がある場合は国語辞典を使う。
- ・そもそも何なのかがわからない場合は百科事典を使う。
- ・最新の情報が知りたいときは、タブレット端末や新聞、雑誌を使うと良い。

など、自分が知りたいことに合ったメディアが何か考えて選ぶことを伝えた。その後、児童は「何を使って調べるかわからない」「何でもいいからとりあえず調べる」ではなく、自分の知りたいことに合ったメディアを考えて、選んで調べることができていた。そして、集めた情報を比べたり、確かめたりしながら、わかったことや自分の考えなどをワークシートに書いていった。

【4】パンフレット完成!!

そして、こちらが、子どもたちが学習のまとめとして作ったパンフレットである。(最終ページに拡大したものを掲載)



折り方は子どもたちが自分で載せたい情報の量などを考えて、見開きや三つ折り、四つ折りなど、選んで作っている。子どもたちが自分で知りたいと思ったことや調べたこと、そして考えたことが詰まったパンフレットが出来上がった。

(3) 児童の活動のふりかえり、その後の展開

子どもたちの学習のまとめには、「調べてわかると面白かった」「本で調べる方が知りたいことがまとまっていてよい」という意見があった。教師との振り返りでは、「子どもが調べる際に使うメディアを幅広くし、自分で選んで調べてみたからこそ、本で調べる良さが分かったと思う。学習している最中に、北京で開催された冬季オリンピック・パラリンピックのニュースも流れ始めたので、クラスでも話題になり、興味を持ってパラリンピックを見る児童が多くいて、それも良かった」という話も聞いた。

またこの学習を通して、パラリンピアン、競技や練習している時以外の普通の生活について、疑問をもつ子どももたくさんいた。そこで、ユニバーサルデザインの本や、障がいのある人の生活の様子が出ている本を紹介したところ、本は全部借りられた。

また、2学期には4年生が総合的な学習の時間で福祉について学習しており、まとめの発表を3年生も聞かせてもらうことができた。盲導犬は育てるのが大変で、数が少ないので目が不自由な人もなかなか持てないことや、車いすを使う人は、押しってもらう時にはゆっくりと押し、「今から動きます」など声をかけてもらえることなどが伝えられた。4年生の発表の中には子どもたちが知りたいと思っていた情報もあったようで、「普通の生活で大変なことがあってもいろいろな工夫をしている」「パラリンピアンってすごい!」という気持ちが更に強まったり、もっと詳しく知りたいと思ったりしたようである。学んだことが深まり、次の学年の学習に繋ぐことができた。

(4) 学校司書がどのように関わることが有効なのか

今回の授業との連携で「学校司書がどのように関わることが有効なのかについて」の成果は、まず、問いを立てる段階で、学校司書の専門性を生かし、新聞・雑誌・百科事典などの多様な図書館資料で、子どもたちの興味関心・意欲を高められたことと、問いを絞るプロセスを提案することで知りたいことが明確になり、子どもたちが最後まで主体的に学び、活動することができたことである。そのため、やはり教師との打ち合わせを丁寧に行うことが、本当に大切だと感じた。

また、子どもたちが様々なメディアの中から自分で選んで調べる活動をしたからこそ、子どもたち自身が、知りたい、調べたいと思った情報をネットと書籍の両方で確認できたのだと思う。

課題は、今後の調べる学習では、タブレット端末を当たり前のように使うようになっていくからこそ、どのような図書館資料をどのタイミングでどのように一人一人に手渡していくことが、子どもたちの主体的な学び、深い学びに結びつく支援になるのか、常に探り続けることが必要だということだ。そのため、時間を確保し、教師と丁寧に授業の打ち合わせをしっかりと行うことが重要だと感じている。

また、タブレット端末をもっとうまく活用できるように学校司書も学んでいき、子どもたちがメディア・情報リテラシーを身に付けられるように、情報の活用法について機会を捉えて知らせ、学校の中で一番たくさんのメディアを扱う場所として、学校図書館ができることは何かを、常に、そして具体的に学年ごとの学習に合わせて探っていくことが必要だと思っている。

4 今までの研究の成果とこれからの課題

今までの研究の成果としては、授業連携について、各校の取り組みや先進事例から学び、その重要な点を考えながら研修を進めたことで、各校の取り組みで改善が行われた点である。

まずは、一つの単元においても様々な授業支援の仕方があることを知り、学校司書自身の視野が広がった。

二つ目は授業との連携という視点を持つことで、蔵書構成や資料の収集、精選、提供の方法などの構想を持つことができるようになってきたことで、授業連携が改善した点である。出版社が変わった国語科を中心に、学校図書館が関わることができるようになった。学校の洗い出しを行ったことで、蔵書形成や資料提供についての観点からも資料を充実させることができ、授業に関連する資料を準備することができるようになった。

教師との事前の打ち合わせの内容も、学習のねらいや子どもたちにつけたい力、学習の流れ、図書資料とタブレット端末をどう併用するかなど、学校司書として確認しておきたいこと、共有しておきたいことが明確になってきた。相談がしやすくなり、打ち合わせの機会も増加している。

また、授業との連携の際に、学校司書の専門性を活かした読書支援や、利用教育について考えたことも成果である。そのことを教師に提案し、授業に活かすことができた。

例えば、子どもたちが調べる課題を考える、いわゆる「問い」を持つという学習の過程で、ブックトークなどで多様な資料を紹介・提供する活動を行うことで、教科書だけでは気づけない分野にも子どもたちの視野を広げることができた。教師と学校司書がお互い専門性を活かして、多様な情報を提供することや継続した支援をしていくことで、子どもたちが課題を自分の事として捉えることができ、主体的な活動へとつながる事例の報告もあった。

また、学校司書が授業内容に合わせて、新聞記事の紹介や、インターネット情報の活用の仕方などのガイダンスを行った事例では、子どもたちは各種メディアに視野を広げ、最初に図書資料で調べ、その後タブレット端末を使って情報を比べ補完するなど、必要に応じて使う姿が見られた。図書資料とタブレット端末を併用することで、信頼できる情報かどうかを確かめる姿も見られるようになった。

子どもたちが調べる時に必要な目次・索引の見方、百科事典の使い方、引用・要約の仕方、著作権などについて、情報活用の基礎的な力を系統的に習得できるように学校司書が支援する活動も、一度の利用教育だけでは定着しないので、教科学

習と関連づけるなど機会をとらえて繰り返し行い、情報を活用できる力として育てることが大切と考えている。

今後の課題と考えていることは、一つ目は、授業との連携における「主体的な学び」についてである。子どもたちがどのような学びができたのか、子どもたちが主体的に学ぶために、学校図書館としてどんな支援ができるのかを、今後も継続して取り組み、実践の中から支援できることを整理して考えていくことが大切と思っている。

二つ目は、学校図書館では図書資料、新聞・雑誌・インターネット資料など、多様な資料・情報を提供することが強みだが、GIGA スクール構想の中で、学校内のタブレット端末の配備と通信ネットワーク整備は進んだものの、現在の岡山市の学校図書館ではオンライン作業が困難な状況である。どの学校図書館でもタブレット端末のオンライン作業ができる環境整備がなされ、子どもたちが多様なメディアの中から、適切な情報を吟味・活用していけるメディアリテラシー教育の支援をしていくことが必要である。

三点目は、「情報活用能力」の土台となる「読む力」についての研修が必要な点である。現段階では、小学校低学年で調べ学習を行う際には、インターネットの情報より図書資料で情報を読み取る学習が必要であり、低学年のうちから情報を読む力を育てていくことが大切であることは確認できた。しかし、その力を発達段階に応じてどのように発展させていくかという研修はこれからである。調べる課題の概念をつかむことや、その背景を読み解くこと、吟味して考える力などは読書だけで育つものでなく、話し合いやその他の学習を総合して育つものと考えられるが、「読む力」と情報活用の力がお互いに関連し合っているということも合わせて考えていきたい。こちらも、今後も各校で実践を重ねながら、模索し、整理していく必要がある。

学校図書館が教育課程の展開に役立つためには、学習に役立ち、魅力ある蔵書の構築、使いやすく探しやすい環境整備、利用者の資料要求に迅速かつ丁寧に応えるなどの、日常の図書館活動の充実が欠かせないと考える。いつでも気軽に相談できる楽しい学校図書館の雰囲気づくりも大事である。それと並行して、学校司書が学習活動の中で効果的な資料紹介や利用教育を行い、教師と協働しながら授業を作っていく活動が積み重なっていくことが、子どもたちの個々の学びをより主体的に、豊かにしていき、さらには集団での学習へと活かされていくのでは、と考える。それには、学校司書の地道な研修と実践が重要と考えている。

II 質疑応答

Q 岡南小の実践では、タブレット端末での検索の際に、一緒に調べて助言をされたということだが、児童が使うタブレット端末のデータ制御などはなかったということか？

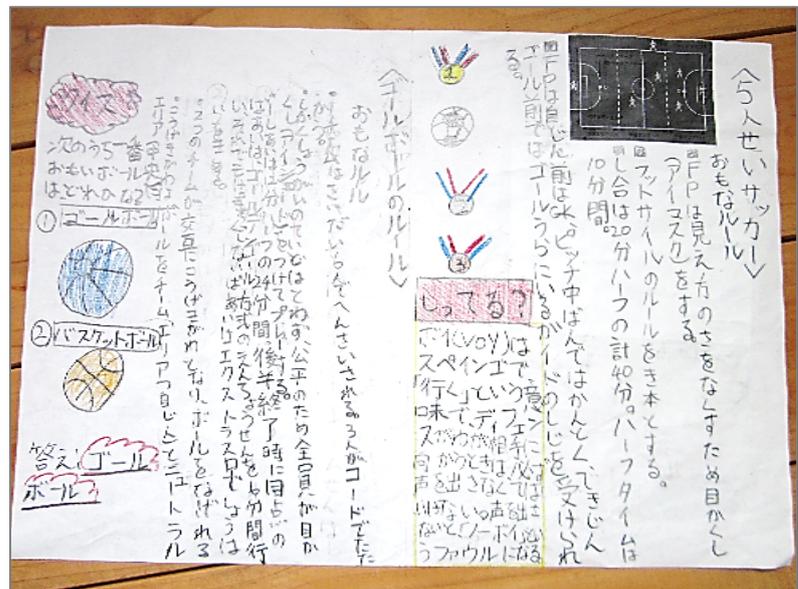
A 岡山市の小中学校で使われているタブレット端末は、文科省のサイトに載っている Google 社の内容の通りに制御されているようだ。各校でフィルタリングはできず、すべて市教育委員会の情報教育推進室がおこなっている。詳しくは「GIGAスクール構想現に向けた1人1台端末整備 安心・安全な端末活用について 安心・安全な端末の活用方法について各OS事業者の概要説明資料」をご紹介する。「端末の安心安全な活用について概要説明(Google) (PDF:154KB) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_01172.html」をご参照いただきたい。あらかじめ、不適切なページを見えないようにするための設定が行われている。

今回の実践の中では、教師の考えで、フィルタリングがかかっているだろうということ、入力のおたすけツールなどもあることから、Yahoo キッズから検索し始めるようにしていた。

Q 実りある授業との連携のために、教師と丁寧な打ち合わせを行うことはとても大切だと思う。しかし、勤務時間の関係で、なかなかその時間を確保するのが難しいと感じている。教師との打ち合わせに、どのような時間を使っているのか？ また、打ち合わせをする際におさえおくべきポイントがあれば教えてほしい。打ち合わせにワークシートなどは活用されているのか？

A 岡南小の場合は、放課後の時間はもちろん、図書の時間の時間割に空きもあり、教師も空き時間は職員室で仕事をする事になっているので、それが重なったタイミングで打合せをすることもある。「〇〇の件で打ち合わせ(相談)がしたい」と、前もってメモを教師の机の上にはっておき、都合を合わせることもある。年間計画などを見て、単元の学習が始まる時期にこちらから早めに教師に声をかけたり、教師側からも早めに相談をしてもらえるようにしたりしている。打合せのポイントとしては、どの教科のどの単元で、何について調べる学習を行うのか、本の紹介が必要か(学習前、途中、最後、どのタイミングが良いのか)、調べるための資料提供については、どのような本がど

の程度(1冊以上など)必要か、どのような形でまとめ(発信)を行うのか、その学習を通じてどのような力をつけたいのかは、必ず聞いて相談している。その過程で教師側にワークシートの案があれば、提案してもらっている。こちらからも教師の狙いを知った上で、学年に応じてワークシートの中にこういう項目を入れるのはどうかなど、案を出すこともある。今回の実践では、3年生だったので、知りたいこと、調べたいことに優先順位をつけること、仲間分けをしてみるなど提案した。



発表者 分島 沙帆里（岡山市立牧石小学校司書）
記録者 濱本 彩（岡山市立西大寺南小学校司書）
小川 由美（岡山市立小串小学校司書）

I 事例発表

学校図書館で大切にしたいこと

—学校図書館における合理的配慮を中心に—

岡山市立牧石小学校 分島 沙帆里

I 学校図書館として大切にしたいことを

どう考えるか

(1) 学校図書館の役割を共通理解

私たち【学校図書館で大切にしたいこと】グループでは、まずは学校図書館の役割を共通理解するとともに、塩見昇氏の著作『学校図書館の教育力を活かす』（日本図書館協会）と「学校図書館研究資料集録 No.24」（岡山市学校司書部会）掲載の学校図書館像グループの研究内容を元に、岡山市の学校図書館として何を大切にしたいかの意見交換を行った。意見として多く挙がったのは次のようなものである。

- ・資料を核とした図書館サービス。図書館として機能し、あらゆる図書館活動に取り組み、知的好奇心を触発することが大切。
- ・学校にある図書館として、教育課程の展開に寄与するため、授業で活用されること。学び方を学ぶ利用教育の重要性について。
- ・司書資格を持つ学校司書が継続的に専任で一校一名ずつ全校配置されているからこそできる学校図書館づくり。常時開館し、いつでも誰でも利用できること。また一人ひとりに寄り添い読むこと学ぶことを保障し、子どもたちの居場所として機能する図書館であること。
- ・各学校の教育活動に寄り添った蔵書形成や教職員へのサービス。

これらは塩見氏が提唱する七つの「学校図書館の教育力」に集約される。「学校図書館の教育力」とは学校に図書館機能をもった学校図書館があることで、学校教育において発揮することができる力=教育力を七つの項目で

整理し、定義したものである。

- ①知的好奇心を刺激する多様な学習資源の選択可能性
—個が自由に選択する学習内容の重視と広がり
 - ②体系的、組織的なコレクションの存在
—学びの系統性の自覚と、未知のこと、知るべきことの多いことの発見
 - ③個別の要求、ニーズに即したサービスとしての相談・援助の仕組み
—図書館の専門スタッフによって提供されるサービスに込められた教育性
 - ④どこまでも所要のものを探求できる組織性（ネットワーク）の具備
—知の世界の連環と探求の可能性を裏付ける図書館ネットワークの力
 - ⑤資料・情報のコントロール、再構成、そして発信
—ニーズにそった付加価値を生みだし、共有から創造・交流・発信へ
 - ⑥知的自由、プライバシーの尊重
—学校が一般的に備える価値観、文化との乖離も生まれがちだが、学校文化の覚醒にも？
 - ⑦学び方、学ぶ力（リテラシー）を身に付けた生涯学習者の育成
—図書館を使いこなせる情報への主体的な生き方を生涯の生きる力に
- そこで私たちはこの七つの教育力を学校図書館像の基盤として共有し、研究を進めていくこととした。学校図書館のはたらきを通して子どもたちが生涯自分らしく学び、自立した市民として成長できることを目指したいと考えた。

(2) 学校図書館を取り巻く現状から

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(2016年4月施行)、「視覚障害者等の読書環境の整備推進に関する法律(通称バリアフリー法)(2019年6月施行)により、学校図書館も合理的配慮・基礎的環境整備が求められるようになった。

また2020年度からは小学校、2021年度からは中学校の学習指導要領が改訂され、小学校・中学校共に「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実すること」と記されている。

さらに文部科学省のGIGAスクール構想によるICT環境の整備・充実により子どもたちの学び方が大きく変化する中で、情報活用能力の育成も喫緊の課題となっており、学校図書館として取り組んでいくことも必要になっている。

(3) 研修目標の決定と三つのテーマ

このように学校図書館を取り巻く現状が大きく変化している現状を踏まえ、研修の目的を「誰もが利用しやすい学校図書館、教育を支える学校図書館とはどういうものかを考える。合理的配慮、GIGAスクール構想等、今日的な課題を見据え、学校図書館活動を検討し、実践していく。」と設定した。具体的には「学校図書館で大切にしたいこと」という大きなテーマのもと、「資料提供」「利用教育」「合理的配慮」という三つの小テーマを設け、それぞれのグループに分かれて研修した。

資料提供グループでは資料提供の本来の意味を確認しながら各校の取り組みを交換し、「読む力の育成」が課題として挙がった。「自分で本を選んで読み、楽しむことができる子ども」を目指して、各校が読む力に繋がる活動に取り組み、研修を進めた。

利用教育グループでは七つの教育力のうち、「学び方、学ぶ力(リテラシー)を身に付けた生涯学習者の育成」の一端を担う図書館の利用教育について研修した。利用教育とは「すべての利用者が自立して図書館を含む情報環境を効果的・効率的に活用できるようにするために、体系的・組織的に行われる教育」ととらえ、単に図書館の使い方を学ぶだけでなく、メディア・情報リテラシーも含む教育であると共通理解した。

合理的配慮グループでは、合理的配慮・基礎的環境整備について考えることが誰もが使いやすい図書館をつくる

ことにつながると考えた。今回は、特に合理的配慮グループでの研修内容を詳しく報告する。

2 学校図書館における「合理的配慮」

(1) 合理的配慮と基礎的環境整備

① 合理的配慮とは

合理的配慮とは国連で採択された「障害者の権利に関する条約」(2006年採択、2008年発効)で「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。

図書館に関しては日本図書館協会(JLA)が発表した「図書館利用における障害者差別の解消に関する宣言」(2015年12月策定)「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン」(2016年3月策定、以下「ガイドライン」)、学校図書館についてはJLA学校図書館部会作成の「学校図書館における特別なサービスと資料の提供に関する基本方針-図書館利用に困難のある児童生徒のために-」(2020年6月策定、以下「方針」)がある。これらをよりどころとしながら、学校図書館活動全般を見直し、取り組んでいく必要がある。

② 基礎的環境整備とは

基礎的環境整備については「ガイドライン」で「障害者が個別に合理的配慮を求めなくてもよいように、あらかじめ施設・設備・サービス・ルール・研修による人材育成等を整備して不特定多数の障害者が使えるようにしておくこと」と定義されている。基礎的環境整備を充実させることは、すべての利用者にとって使いやすく、よりよい図書館を作ることであり、合理的配慮を含むさらに丁寧で進んだサービスの提供につながる。

「学校図書館」2019年10月号(全国学校図書館協議会)に掲載された「読書バリアフリー法を推進するために」という文章の中で、宇野和博氏は「ニーズに合った読書方法があるにも関わらず、それと巡り会えないが故に、読書をあきらめてしまうのは不幸といえる。」と述べている。

利用者がまだ自分の特性に気づいていない場合も想定される小・中学校図書館では、リーディングトラックやLLブックなど自分に合った読書方法に出会うための道具や資料を備えておくことも基礎的環境整備に含まれる。こ

れらは合理的配慮を求める利用者の有無にかかわらず、すべての学校図書館で考えられるべき必要な取り組みと言える。

(2) 研修をすすめる上で大切にしたこと

学校図書館が「誰もが使いやすい、利用しやすい」「安心してそれぞれの考えや思いが実現できる場所」であるために、学校司書ができることとは何か。私たちはこれまで行ってきた支援について、「方針」に挙げられている10項目を使い、利用者のどんな困り感に対してどんな支援を行ったのかに注目した事例シートを作成していくこととした。

<方針1>学校全体で取り組む

<方針2>司書教諭・学校司書などは個別の支援を行う

<方針3>見やすい・わかりやすい配布資料を作成する

<方針4>読書補助具・機器を準備する

<方針5>サイン・レイアウト・施設・設備を改善する

<方針6>アクセシブルな資料を収集する

<方針7>アクセシブルな資料を製作する

：「著作権法」第37条に基づく複製

<方針8>アクセシブルな資料を製作する

：オリジナルな作品づくり

<方針9>電子図書が読める環境整備を行う

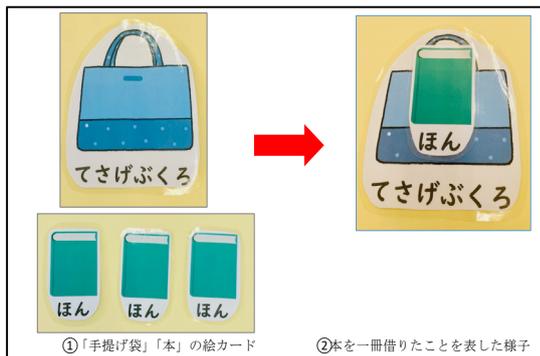
<方針10>図書館協力を行う

(3) 具体的な取り組みより

集まった事例は利用者の実態から「外国にルーツがある利用者への事例」「コミュニケーションに困り感がある利用者への事例」「読むこと・書くことへの困り感のある利用者への事例」「身体に配慮が必要な利用者の事例」の四つに分類した。

●事例1 外国にルーツがある利用者

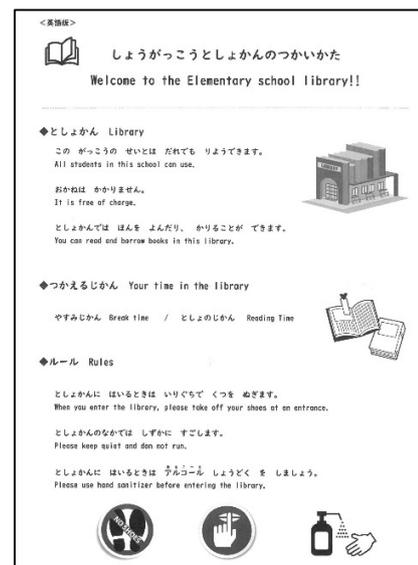
母国語がロシア語で、言語を介したコミュニケーションが難しく児童の要求を聞きとることも困難だった。しかし学校司書が絵カードの利用などのサービスを工夫して行い、



母国語で書かれた資料も準備することで本を選ぶことへのハードルを下げ、児童の読書意欲や興味・関心を引き出すことができていた。絵カードを活用した利用教育は他の児童にもわかりやすかったようで、他の国からの転入児童が来た際にも活用できた。

●事例2 コミュニケーションに困り感のある利用者

この事例は外国にルーツがある利用者の事例でもあった。母国語ではないが英語を話せる児童だったので、事例1とは異なり学校司書が積極的に児童とコミュニケーションをとりながら対応することができた。英語表記の案内板、筆談用ホワイトボードの設置、また担任やALTの先生と連携した英語表記のオリエンテーション資料の作成も行った。図書の時間の内容をルーティーン化することで、他の特別支援学級の児童にとっても見通しをもって活動できるように繋がっていた。サインや分類表記・分類板の工夫、活動の明示化も効果的だった。





●事例3 読むこと・書くことに困り感のある利用者

読書意欲は高いものの数字の概念の理解に困り感がある児童で、貸出冊数が分からず間違えてしまうことで他の児童から注意を受けてしまうことが度々あった。そこで学校司書が本の掲示物や指文字を使って冊数を表すなどの支援を行った。このことにより児童の「できない」が「他の児童と同じようにできる」ことに変化し、課題の解決へと導くことになった。この時作成した貸出冊数を示す表示は遠くからでも見えやすく、わかりやすかったため、他の児童にも効果的だった。



●事例4・5 身体に配慮が必要な利用者

事例4は化学物質過敏症の児童で、特に対応に慎重さを必要とした。学校図書館が独自で動くのではなく、学校全体で対応できるよう教職員・保護者と情報共有し、サービスを行った。学校司書が本人とコミュニケーションを密に行い、児童が学校図書館から遠ざかることなく利用に繋げることができた。

事例5は車椅子の生徒に対して、動線を確保したり段差をなくしたりする図書館整備を行った事例。この生徒に対する図書館整備により、他の生徒にとっても利用しやすい環境になった。掲示物や館内掲示も、車椅子からの視線を意識することで利用者からの見え方について改めて考えることができた。

(4) 事例から見えてきたこと

これらの事例を分類・比較してみることで、児童生徒の

困り感や有効な支援は一人ひとり違うことが見えてきた。事例1と事例2のように外国にルーツをもつ利用者への支援も、本人のルーツとなる国、本人や家族の希望など様々な要因で異なってくる。ルーツとなる国が違えば考え方や習慣も異なり、日本語に親しませたいといった家族の希望もあるかもしれない。また、車椅子についても利用者の身長差や車椅子自体の大きさにより利用しやすい環境は異なる。いずれは、車椅子から松葉杖になることも想定される。利用者の実態が似ていても、同じ視点が有効に働くとは限らず、反対にある利用者に対して行った支援が別の想定していなかった利用者に対して有効であることもしばしばあった(事例1の絵カード、事例3の掲示物、事例5の館内整備など)。困り感を抱えている利用者がいなくても、基礎的環境整備として日頃からの準備を心掛けたい。

(5) 合理的配慮の視点から考えた

「学校図書館で大切にしたいこと」

研修を開始した当初、合理的配慮は新たに取り組みなくてはならないサービスのように考えていた。しかし実は「個に応じたサービスを提供する」という本来の図書館の姿勢に含まれている考え方であり、これまで学校司書として行ってきた活動の中にも合理的配慮と呼べる活動が多く含まれていたことに気がついた。誰かのために行った支援が他の誰かの使いやすさに繋がっており、結果的に隠れたニーズに気づくことで誰もが利用しやすい図書館に繋がっていくこともわかった。

文部科学省の GIGA スクール構想により子どもたちに一人一台端末が整備されたことで、これからは新たなサービスの可能性も広がっていくと考えられる。岡山市では現在 Chrome Book が使われているが、今回の研修の中でも classroom の機能を使ったアンケート調査の取り組みの報告もあった。こうした ICT を活用することで、コミュニケーションが苦手であったり、登校が難しかったりする児童生徒に向けた情報発信や図書館サービスの提供なども、今後は合理的配慮の一環として考えていく必要があるのではないだろうか。

合理的配慮の視点を含めた学校図書館サービスを提供するには、利用者をよく知り、そのニーズにきめ細やかに対応しようとする学校司書の存在が欠かせないことが見えてきた。学校司書は利用者が何を求めているのか、学校図書館としてあらゆるサービスの可能性を考え、校内で連携しながら取り組みを続けていかななくてはならない。

3 成果と課題

私たち【学校図書館で大切にしたいこと】グループでは、「資料提供」「利用教育」「合理的配慮」という三つの視点から、各自が自校の利用者や学校図書館の現状を見つめ直し、課題を見つけて具体的な活動に取り組み、それを検証し合うことを通して、「誰もが利用しやすい学校図書館、教育を支える学校図書館とはどういうものか」を追求してきた。そこから見えてきた「大切にしたいこと」は、以下の三点に集約できる。

- ①一人ひとりの利用者寄り添い、個に応じたサービスを提供すること
- ②利用者の主体性を尊重し、「自分からやりたい」という気持ちをもてるように触発すること
- ③資料提供と利用教育によって利用者の学びや育ちを支えること

こうしたことを具現化していくためには、専門性を持った学校司書がいて、次のようなことに意識を向けなくてはならない。

- ・幅広く豊かな蔵書を備え、どの利用者も安心して居心地よく過ごせる図書館をつくること
- ・利用者をよく知り、触発することで、潜在的なニーズを掘り起こすこと
- ・学校図書館を取り巻く状況を把握し、常に図書館活動全般を見直しながら、学校図書館も成長し続けていくこと
- ・教育課程を理解し、教職員と連携することで、より効果的で継続性のある図書館活動を作っていくこと

学校図書館の利用者は日々成長していく子どもたちである。その興味関心や一人ひとりがもつ課題は日々変化し、学校や図書館を取り巻く状況も刻々と変化している。それに応じて柔軟に活動を見直し、工夫を重ねていく必要がある。学校司書として、私たちも日々成長し、より良い学校図書館サービスが提供できるよう、これからも研修を進め深めていきたい。

II 質疑応答

Q 中学校では他にどんな事例があったのか。

A 外国にルーツがある生徒の例では、中国からの転入生で、会話に問題はないが日本語の読み書きができない生徒に対しての資料提供の事例があった。入試の面

接に向けて「何か日本語の本が読みたい」と相談を受けたため、学校司書が生徒のリクエストを聞き、国語科の教師とも相談した上で中国語訳された日本の小説を図書館で購入して提供した。生徒はその本を持ち歩く程喜び、「面接の時に好きな本を聞かれたらこれで答えられる」と安心した様子だったようだ。この事例で購入した本は他の中国籍の生徒へも薦めることができ、結果的に隠れたニーズを掘り起こすことにもつながった。

コミュニケーションに困り感のある生徒の例では、場面緘黙症により学校で言葉を発することが難しい中、放課後一人で図書館を利用している生徒の例があげられた。その中学校では本の貸出時にカウンターで「学年・クラス・名前」を伝えなくてはならないが、このことに生徒が負担や不安に感じるのではないかと図書館側が様子を見て配慮をした例だった。元々その学校では希望者には利用カードを作成していたので、そのことを知らせると申し込みがあり、カードの作成を行った。またカウンターに「借りる」と「返す」のサインを設け、本を置くだけでも意思表示ができるようにすることで話すことなく図書館利用ができるように工夫をしていた。生徒自身はそのことから図書館利用にも慣れ、緊張が少し緩和されたように感じられたようだ。

他にも特別支援学級では漢字が読めない生徒のために、オリエンテーション資料を拡大し、ふりがなをふった資料に作り替えた事例もあった。一人だけそのような資料だと本人が周りの目を気にするので、その支援学級全員で同じ資料を活用してオリエンテーションを行った。資料にふりがながあれば自分で読もうとする姿勢が見られ、他の生徒も読めない漢字があっても読むことができていた。さらに、言葉を聞き取ることが難しい生徒には1対1の対応を行い、対面でゆっくりはっきりと対話することを心掛けた例もあった。話を聞いてくれることがわかると生徒自身から話しかけてくれることも多くなったと聞いている。

特に人の目が気になる中学生は、周りから見て特別になりすぎない配慮が必要になってくると思われる。学校司書が利用者の気持ちや実態を把握し、その子にあったサービスを提供することが大切だと感じた。

発表者 坂本 佳子(岡山市立西大寺中学校司書)
記録者 赤畠 祐枝(岡山市立岡山中央小学校司書)

I 事例発表

『児童生徒の情報活用能力の育成を目指した 学校図書館の取組』について

岡山市立西大寺中学校 坂本 佳子

1 研修の目的

私たちの研修グループでは、研修の目的を「『メディア・情報リテラシー』について共通理解し、これからの学校教育の中で求められる学校図書館の役割について考え、さまざまな場面での実践を重ね紹介し合う」とし、

- ・情報スキルを活用して、自ら問いをもち、課題を研究し、表現していく力を身に付けるために、具体的に図書館で何ができるか
- ・新学習指導要領や岡山市の目指す「教育の情報化」の情報活用能力の育成をpushしながら研修を積み重ねる

以上の2点をpushして研修を行った。

2 「児童生徒の情報活用能力の育成を目指した 学校図書館の取組」の紹介

3つの取組について紹介する。

①小学校版図書館情報活用ファイル

授業や日常活動の中での「メディア・情報リテラシー」を育てる取り組みを実践する中で、取り組みが一過性に終わることが課題として挙げられた。そこで解決策として、図書館資料の活用方法などを児童が理解しやすいようにまとめ、年間を通して活用できるようにすることを考え、すでに作成されていた中学生・図書館情報活用ファイルを参考に、小学校版を作成している。

小学校版図書館情報活用ファイルは、教科学習で学ぶ際の補助教材のようなイメージで作成し、学年が上がっても振り返りとして活用できるようにした。児童や学校司書、教師が利用しやすいように、学習過程に沿った内容に

し、探究的な学習を目指した学びのプロセスを意識した目次を作り、項目ごとに資料を作成している。

情報カード



情報の3密

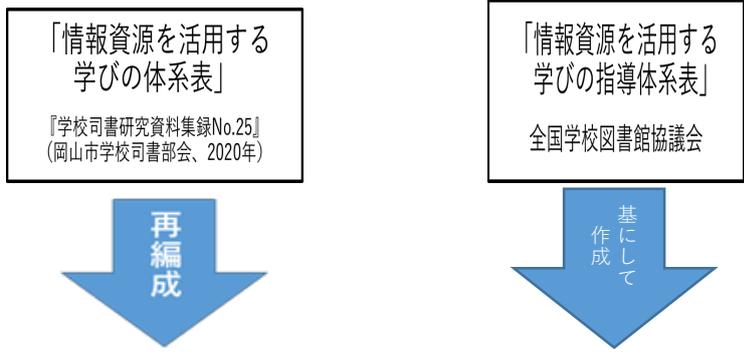


「情報カード」は、印刷して図書館に置いたり先生に渡したりして、調べものをする時に児童が使えるようにし、「情報の3密」は、図書館だよりに載せて配布したり、図書館に掲示したりして紹介する。情報活用ファイルがあれば、どの学校も授業や日常活動の中で気軽に使うことができ、児童の情報活用能力の育成に役立てることができる。

②「学校図書館(情報資源)を活用する学びの指導 体系表」モデルプラン

各学校の学校図書館教育の年間計画などを作成し、「情報資源を活用する学びの体系表」を、新学習指導要領のもとで改訂された教科書に合わせて再編成して、「学校図書館(情報資源)を活用する学びの指導体系表」モデルプランを完成させた。このモデルプランをアレンジして自校用の「学びの指導体系表」を作成して活用している。

「学校図書館（情報資源）を活用する学びの指導体系表」モデルプラン



学校図書館（情報資源）を活用する学びの指導体系表モデル（小グループB考案）

凡例 「◎」：指導項目 「◇」：内容 「※」：例示

	I 課題の設定	II メディアの利用	III 情報の活用	IV まとめと情報発信	
小学校低学年	◎課題をつかむ ◇教科学習の題材、日常生活の気づきから考える ◇見学や体験での気づきから考える ◎学習計画を立てる ◇学習の見通しをもつ ◇テーマが適切かどうか考える ◇テーマ設定の理由を書く	◎学校図書館の利用方法を知る ※図書館のきまり ※学級文庫のきまり ※本の借り方・返し方 ※図書館の分類の概要 ※目次や索引の使い方	◎学校図書館メディアの利用方法を知る ※絵本、児童な読み物、自然科学の本、図鑑 ※コンピュータ、タブレット	◎情報を集める ※観察、見学、体験 ※インタビュー ※図書資料、図鑑 ※コンピュータ、タブレット	◎記録の取り方を知る ◇カードやワークシートに書き抜く ◇タブレットやデジタルカメラで写真を撮る ◇日付や資料の題名・著者を記録する
		1年 課題「とよかんはどこにどこ？」 学校図書館の利用を知る。			
		2年 課題「とよかんへ行こう」 本の分け方・並べ方・探し方について知る。		1年 課題「いろいろなふね」 本から必要な情報を見つけて、調べたことをカードに書く。	

③「情報活用能力の育成カリキュラム 年間指導計画 学校図書館教育関連単元」の作成（中学校）

岡山市では新学習指導要領が示す「児童生徒の情報活用能力の育成」を受けて、岡山市が目指す「教育の情報化」の一環として、各校で「情報活用能力の育成カリキュラム」を作成することを決定した。

そこで、岡山市が目指す教育の情報化に学校図書館の活用を対応させるために、「情報活用能力の育成カリキュラム」作成の意図とタイムスケジュールを視野に入れながら、研修を進めた。

学校図書館の活用を盛り込んだ「情報能力の育成カリキュラム」作成のねらいは、岡山市が目指す教育の情報化に対応した学校図書館の運営を考えていくことであり、また、中学校区の「情報活用能力の育成カリキュラム」に、学校図書館を活用できる単元の記載を提案する目的も兼ねた。

今回の中学校区の「情報活用能力の育成カリキュラム」作成において、研修メンバーのほとんどの中学校で、図書館を活用する単元を盛り込むことができた。

令和3年度 R中学校 情報活用能力の育成カリキュラム 年間指導計画 学校図書館教育関連単元

学年	学期	1学期				2学期					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1年	1	●「図書館の役割」について知る。また、図書館の役割について知る。また、図書館の役割について知る。									
	(A-2)	(B-1)	(C-1)	(A-2)	(B-1)	(C-1)	(A-2)	(B-1)	(C-1)	(B-1)	(C-1)
2年	2	●「図書館の役割」について知る。また、図書館の役割について知る。また、図書館の役割について知る。									
	(B-1)	(C-1)	(C-2)	(A-2)	(B-1)	(C-1)					
3年	3	●「図書館の役割」について知る。また、図書館の役割について知る。また、図書館の役割について知る。									
	(B-1)	(C-1)	(C-1)	(B-1)	(C-1)						



- ・岡山市が目指す教育の情報化に対応した学校図書館の運営を考えていくこと
- ・学校図書館の活用単元の記載を提案すること

II 質疑応答

Q 活動内容を作る上で、注意した点、ポイントがあるか？

A 「学校図書館(情報資源)を活用する学びの指導体系モデルプラン」及び「情報活用能力の育成カリキュラム 年間指導計画 学校図書館教育関連単元」の作成については、岡山市が目指す「教育の情報化」に学校図書館の活用を対応させるため、新学習指導要領の教科書に即した学校図書館教育の年間計画などを参考に、図書館を活用できる単元の中でも特に、児童生徒の情報活用能力育成に係る単元に絞って作成した。単元を選ぶ際のポイントは、各校でこれまで図書館を使って行われた調べ学習に加え、児童生徒が図書資料をはじめとした多様なメディアの中から情報を引き出し、学習活動を充実させるための支援ができるものを選んだ。

Q 「小学校版図書館情報活用ファイル」は、ワークシートがファイル等に綴じてあって、児童に配布し、少しずつ情報について学習しながら、卒業まで持ち上がるというものか？ 情報カードも、そのファイルに綴じてためていくという理解でよいか？

A ファイルという名前をつけているが、シート集のようなイメージで現在作成している。冊子にしたりファイル等に綴じたりすることは現時点では考えていない。データで持っておき、タブレット端末からも見るようにして、必要があれば印刷することを考えている。情報カードは、教科の調べ学習で使用する場合は、記入した情報カードを各教科のノートに貼るなどして児童が手元に保管し、報告書や新聞等の成果物にまとめるために活用している。情報カードは、図書館にも置いて、何か調べたいことがあるときにいつでも利用できるようにしている学校もある。それぞれの学校図書館や児童の様子、担任の先生の授業の進め方などにより、活用の仕方は異なってくると思う。

発表者 大倉 益美（岡山市立福浜小学校司書）
記録者 川上 圭代（岡山市立箕島小学校司書）

I 事例発表

「新聞活用、はじめの一步」

岡山市立福浜小学校 発表者 大倉 益美

1 はじめに

本校の図書館では「毎日小学生新聞」と「山陽新聞」を児童の利用のために置いている。しかし、ほとんどの児童が新聞を手にとっていないようだ。調査したところ家庭で新聞を購読しているのは66人中15人で、その中で継続して新聞を読んでいる児童は3人であった。全体の4.5%しか新聞を読んでいることになる。

そこで5年生の国語科の授業「新聞記事を読み比べよう」に関連付けて、児童が新聞を実際に読んでみることで新聞活用の第一歩とし、あわせて、新聞と比較しながらニュース雑誌の特徴も知り、今後の活用につなげていきたいと考えた。

2 授業との関わり

(1) 授業の構成、進め方

ワークシートを配布し、新聞の特徴を4つ説明した。

- ①新聞が印刷物の中では最も早く伝えられる。
- ②同じ出来事を時間を追って確認できる。
- ③2紙以上を読み比べることで、様々な見方を知ることができる。
- ④地方紙と全国紙の地元の記事の取り上げ方には違いがある。



④については地方紙と全国紙の違いがはっきりと分かる、「東京パラリンピック開催」と「岡山県で緊急事態宣言の対象地域に追加」の記事が載っている8月25日の一面を比較した。児童は地方紙と全国紙の違いに驚いていた。

次にニュース雑誌の特徴を「ジュニアエラ」と「ニュースがわかる」を見せながら説明した。どちらのニュース雑誌にもふりがながふってあり、図や表があって分かりやすく説明していること、特集を組んでテーマを深く掘り下げているので調べ学習に使いやすいこと、最近の出来事を調べられることを確認した。新聞やニュース雑誌も図書館にあるので気軽に読んでみるように伝えた。

最後に二人一組になり、全員で新聞を読んでもらった。

目次の役割をしている「インデックス」やページの役割をしている「面」の説明を聞いたあと、実際に場所を探した。なかなか見つけられず、児童同士で指さして教え合う姿が見られた。ワークシートに「興味をもった新聞の見出し」を一つ以上書き出す作業をした後、残った時間で新聞を自由に読んだ。

(2) 児童の様子

新聞には日本や世界の出来事だけでなく、スポーツや文化、漫画、広告など、いろいろなことが載っていることが分かったようだ。周囲の児童と興味がある記事を見つけ合い、楽しんでいた。「インデックスってどれ?」と教え合う様子や、全面広告をみて「広告だけじゃ」、スポーツ面を見て「〇〇が勝った日じゃないな」などの会話がでていた。パラリンピック開催期間中の昨年8月の新聞だったためか、スポーツの見出しを書いている児童が多かった。新聞のたたみ方が分からなくて戸惑う児童も多く見られた。



3. 図書館での展示

(1) 授業と関連させた展示

図書館の一角に新聞記事を掲示するコーナーをつくり館内展示を行った。記事の切り抜きを貼り、関連の図書を展示している。3 学期に 5 年生の社会科「情報産業とわたしたちのくらし」など授業と連携した展示をしている。

(2) 時事問題に関する展示

時事問題に関連して、日本人のノーベル賞受賞や大谷選手の MVP 獲得、お正月の特集、2022 年 1 月にトンガ沖で起こった海底火山の噴火に関する記事と本などを展示した。

(3) 担任の感想

- ・一学期に教えたのに「見出し」を忘れている児童がいた。繰り返し学習できてよかった。
- ・新聞に関して、読み方などいろいろなことを教えてもらえてよかった。
- ・その後の調べ学習では、新聞記事などの見出しを確認して必要な事柄を探す児童が増えてきた。見出しに伝えたい事柄が載っていると意識しているのか、まとめ方もうまくなってきている。

4 成果と課題

新聞を購読していない家庭が多い中で、実際に新聞を手にとって読む機会ができてよかった。新聞は難しい読み物だと思っていようで、案外おもしろく読めるものだと思った児童もいたようだ。

また、掲示している新聞を読む児童や、図書館に置いている新聞を黙々と読んでいる児童が見られるようになった。教員と相談しながら、新聞の読み方を児童が学習する機会も作って

いきたい。これからも図書館の新聞のコーナーもより工夫して、児童が新聞を見る機会を増やしていこうと思う。

今回は「まず読んでみる」という新聞の利用教育の「はじめの一步」だったので、今後は調べ学習などにも活用していきたい。

II 質疑応答

Q: 新聞を今後どのように活用していこうと思っているか。

A: 今後も、ここで紹介したような、児童が興味関心を持ちそうなニュースを、新聞記事と、関連の本も併せて展示を続けていく。この発表でとりあげた、現在の 6 年生へは、図書の時間に新聞記事を紹介している。1 学期の 5 月に社会科で「国の政治と選挙」を学習したので、参議院選の記事などを紹介したり、ロシアのウクライナ侵攻などの時事ニュースを紹介したりした。これからも、最新の情報を得るために新聞を読む、ということが、少しでも定着するように、記事の紹介も続けていく。

他の学年では、小学生新聞の記事のスクラップや、ニュースの雑誌の特集を、調べ学習に使用できるように提供している。5 年生の環境問題の調べ学習などで使われているが、ほかにもいろいろな調べ学習に使えるよう、準備していく。

また、司書教諭などと連携して、他の新聞に関する学習も、図書館利用年間計画に組み入れて、新聞の利用教育が系統的にできるように進めていけたらと思う。

発表者 辻 妙子（岡山市立桑田中学校司書）
記録者 猪原 裕子（岡山市立操南中学校司書）

I 事例発表

SDGs に関する資料研究

岡山市立桑田中学校 辻 妙子

1 研修の経緯

「主体的・対話的で深い学びに求められる資料とは何か？」という問いから始め、具体的なテーマとして社会的関心が高まる SDGs を選んだ。5 つの要素「People(人間)」「Prosperity(豊かさ)」「Planet(地球)」「Peace(平和)」「Partnership(パートナーシップ)」をもとに、国谷裕子さんの著書を参考にしながら4つのグループ①「人間」②「豊かさ」③「地球」④「平和とパートナーシップ」に分かれて研修した。

令和元年度の資料研究グループが用いた 6 つの観点、「基礎・基本がわかる」「興味・関心を喚起する」「答えを導き出せる」「問いを見つけられる」「視野を広げられる」「複数の資料を読み込み比較することで自分の考えや意見を持つことができる」これらをふまえて作られたワークシートを利用し、実際の資料にあたっていった。

次に資料研究を行ったその図書の一例を載せている。

2 ワークシート作成時の選書の視点

ワークシート作成にあたり、9 つの選書の視点を考えた。

SDGs の 4 つの視点「SDGs の基礎知識が理解できるか?」「問題や課題の原因が記載されているか?」「社会問題の現状が記載されているか?」「SDGs の目標を達成するための取組が記載されているか?」と授業に related 5 つの視点「児童生徒にとって分かりやすいか?」「本の構成やグラフ、表が使いやすいか?」「調べ学習ではどんな場面で利用できるか?」「不足している情報は何か?」「併用すべき資料は何か?」である。

これらをもとに、多くの資料に目を通していった。

3 ワークシートにおける選書の視点

ワークシートの大枠は令和元年度のグループのものを踏襲し、新たにチェック項目を追加した。SDGs に関する 4 つの視点について示し、小学校むきなら(小)に、中学校むきなら(中)にマークし対象を分かりやすくしている。

また授業に related 5 つの視点で、実際に利用する場面を想定して記述した。こうしたワークシートを 17 の目標全てで作成した。

4 成果と課題

今回の研修で得た「選書の視点」が今後の蔵書構築に有効なものではないか。今後はワークシートや関連図書にあげた資料を授業などで活用しやすくするため、どのようなまとめ方が有効かを考え、検討していく。また、児童生徒が実際に資料を活用した結果どうであったか、実践にも取り組みたい。

II 質疑応答

Q SDGs の関連は幅広く範囲分けがあるとよい。

A 「各目標の範囲」という意味なら、目標は幾重にも重なっているため、範囲を分けるのは難しい。

Q 今後データの入替えをする予定はあるか?

A 現在、研修の成果をまとめた「学校司書研究資料集録」を作成中であり、その過程で新しく効果的な資料があれば、差し替えていく予定である。

第 68 回読書感想文岡山県コンクール

I 日 程

- 6月16日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議
- 9月28日(水) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局
*小・中・・・岡山市立高松中学校
池田 麻子
*高校・・・岡山県立倉敷南高等学校
平松 玲子
- 10月 6日(木) 第1回合同審査会
～ 《審査期間》
- 10月27日(木) 第2回審査会(最終審査)
〈小学校・中学校・高等学校 校種別〉
- 12月15日(木) 表彰式

II 県審査員

審査委員長 (SLA 会長)

藤井 省吾 岡山県立倉敷天城高等学校

審査副委員長 (SLA 副会長)

相原 洋 毎日新聞社岡山支局長

松原 弘 岡山市立高島小学校

中田 隆宏 岡山市立妹尾中学校

審査委員

木村佳寿美 岡山市立鹿田小学校

山中 真子 岡山市立吉備小学校

東 智子 岡山市立三勲小学校

神原 媛乃 岡山市立財田小学校

佐栞 正隆 岡山市立開成小学校

柗中ひなの 岡山市立開成小学校

岩井智恵子 岡山市立高島小学校

田辺 弥子 岡山市立高島小学校

古田 彩歌 岡山市立高島小学校

本間 早紀 岡山市立高島小学校

片山 遥 岡山市立芳泉小学校

小崎 典子 赤磐市立笹岡小学校

吉岡 秀晃 赤磐市立軽部小学校

吉田 典子 備前市立片上小学校
太田 千尋 備前市立伊里小学校
太立 憲隆 玉野市立鉾立小学校
宮武 歩 玉野市立胸上小学校
岸 沙織 倉敷市立万寿小学校
田井英里奈 倉敷市立中島小学校
傍田 可奈 倉敷市立連島神亀小学校
西 めぐみ 倉敷市立琴浦東小学校
河井 亜希 倉敷市立玉島小学校
宮本 礼佳 倉敷市立川辺小学校
西山 寛子 浅口市立寄島小学校
鯉口 愛理 浅口市立鴨方東小学校
山根 成子 笠岡市立吉田小学校
井上 峰 高梁市立宇治小学校
横田 美穂 新見市立千屋小学校
高橋 智美 新見市立千屋小学校
宇谷 陽子 津山市立成名小学校
有元 理紗 勝央町立勝央北小学校
二司季代子 真庭市立余野小学校
藤本 直子 真庭市立天津小学校
辻本 良和 真庭市立八束小学校
田口 夏生 真庭市立富原小学校
首藤未勇士 岡山市立足守中学校
引野 希 岡山市立吉備中学校
長江 正行 新見市立哲西中学校
畑 絢二郎 津山市立津山東中学校
藤本 久美 倉敷市立南中学校
片岡 由佳 赤磐市立高陽中学校
佐藤 成悟 玉野市立荘内中学校
池田 麻子 岡山市立高松中学校
湯浅 憲一 岡山市立中山中学校
清水 梨恵 玉野市立玉野商工高等学校
伴 俊文 岡山県立備前緑陽高等学校
藤本 健一 岡山県立瀬戸高等学校
金田 好史 岡山高等学校
村上 靖彦 明誠学院高等学校
小川 美穂 岡山県立高梁城南高等学校
大嶋 弓枝 岡山県立玉島商業高等学校
守屋 琢智 岡山県立笠岡高等学校
平松 歩 おかやま山陽高等学校
大髭 侑生 岡山龍谷高等学校
平松 玲子 岡山県立倉敷南高等学校

Ⅲ 岡山県指定図書

学年向	書名（シリーズ） 著者名	発行所
小 (低)	『すきなこと にがてなこと』 新井 洋行	くもん 出版
	『ねこのふくびき』 木内 南緒	岩崎書店
	『ニャンタのさくぶん』 北川 チハル	文研出版
小 (中)	『ぼくんちのねこのはなし』 いとう みく	くもん 出版
	『ひとがつくったどうぶつの 道』 キム・ファン	ほるぷ 出版
	『登り続ける、ということ。 山を登る 学校を建てる 災害とたたかう』 野口 健	学研 プラス
小 (高)	『ぼくらのスクープ』 赤羽 じゅんこ	講談社
	『青いつばさ』 シェフ・アールツ	徳間書店
	『命の境界線 保護されるシ カと駆除される鹿』 今西 乃子	合同出版
中 学 校	『あしたの幸福』 いとう みく	理論社
	『ゴースト・ボーイズ ぼく が十二歳で死んだわけ』 ジュエル・パーカー・ローズ	評論社
	『世界でいちばん幸せな男 101歳、アウシュヴィッツ生 存者が語る美しい人生の見 つけ方』 エディ・ジェイク	河出書房 新社

2) 特別賞受賞者（最優秀賞受賞者）

岡山県知事賞

岡山芳泉高等学校 内田 紗弥

岡山県議会議長賞

赤磐市立山陽北小学校 北川明矢子

岡山県教育委員会教育長賞

岡山市立芥子山小学校 宮崎 菫

岡山商工会議所会頭賞

総社市立総社小学校 江原 諒

岡山市長賞

瀬戸内市立邑久中学校 片山 祐

岡山県読書推進運動協議会会長賞

津山市立向陽小学校 後藤 由真

備前市立片上小学校 小川 陽葵

岡山県立倉敷天城高等学校 山本亜生子

毎日新聞社岡山支局長賞

岡山市立吉備小学校 奥山 結月

倉敷市立西阿知小学校 安田 葵

瀬戸内市立長船中学校 頓宮 琉太

岡山県学校図書館協議会会長賞

総社市立常盤小学校 上田 大翔

吉備中央町立吉川小学校 田村 快生

玉野市立日比中学校 福本 美咲

3) 全国コンクール入賞者

サントリー奨励賞

玉野市立日比中学校 福本 美咲

Ⅳ 結果

1) 応募作品数・応募校数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校低学年	3,481 編	5,381 編	4,970 編
小学校中学年	5,329 編	8,478 編	7,997 編
小学校高学年	6,084 編	9,150 編	8,453 編
中学校	19,118 編	21,107 編	19,933 編
高等学校	8,546 編	11,367 編	11,051 編
計	42,558 編	55,483 編	52,404 編
応募校数	556 校	593 校	594 校

小学校低学年の部

●自由読書

今年度の県審査対象作品は、一年生が二十一編、二年生が三十三編、計五十四編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族や友だちとの関わりをテーマにしたもの、動物や生き物に関するもの、戦争・平和について訴えたものなど、多岐に渡っていた。

本との出会いについては、本の題名にひかれた、家族に紹介してもらった、一度読んだことがあった、好きなシリーズの本から選んだ等であった。生活の中で、本との様々な出会いをしていると感じた。

審査を進めていく中で、児童は、物語の主人公と自分の姿を重ね合わせ、共感したり比較したりしながら、感じたことや考えたことを素直に綴っていると感じた。主人公の言動から、日頃の自分の思いや行動をふり返り、今後の自分を成長させようとする意欲が伝わってくる作品が多かった。

家族に関する作品では、読書が、家族との関わり合いを見つめ直すきっかけになったものが多かった。お母さんの行動を観察・分析し、感謝の気持ちが芽生えたもの、おばあちゃんとの別れの経験から家族の繋がりを考えたもの、普段けんかの多い兄弟へ対して新たな気づきがあったもの等、家族への思いを強めたり、気持ちが変容したりするものが多かった。トカゲやカブトムシ等の生き物に関するもの、虫歯や食べ物等の生活に関するものは、自分の興味・関心を深めるだけでなく、得た知識によってこれからどうしていきたいかという思いが伝わるものが多かった。戦争や平和に関する作品については、平和を願い、命を尊ぶ純粋な思いが強く伝わってくるものだった。また、低学年ながらにジェンダー平等について純粋な思いをもったり、あいさつの大切さを自分の経験から伝えようとしたりする等、人権に関する作品にも目を引かれた。

表現の方法としては、選書の理由、あらすじ、感想という基本的な構成で綴ってあるものが多かったが、自分の思いを最初に述べて始める作品もあり、

印象に残った。また、主人公や家族に語りかける形で表現したものは、低学年らしく、読んでいてほほえましく感じられる作品であった。いずれにしても、低学年の児童が八百字の中で自分の思いを文字数いっぱい表現しようとする姿が素晴らしいと感じた。

審査を終えて、低学年の児童が、興味をもった本を読み、自分の素直な思いを一生懸命に表現しようとする姿が作品から感じられ、大変感動した。一冊の本との出会いから、読書の楽しさを感じ取り、本の世界が児童一人ひとりの世界を広げていくように感じられた。低学年の時期に良い本と出会うことは、心の中に自分の考えの土台を作り、知識を蓄え、感性を磨き、考える力の基礎を養ってくれるものである。これからも多くの本と出会い、新しい発見や感動と出会ってほしい。何より、楽しんで読書をしようとする児童が増えることを願うばかりだ。

担当 二司季代子

●課題読書

今回の県審査対象作品は、一年生十三編、二年生二十三編、合計三十六編でした。これを図書別に見ると次の通りです。

『つくしちゃんとおねえちゃん』 五編
 『ばあばに えがおを とどけて あげる』 十二編
 『すうがくでせかいをみるの』 七編
 『おすしやさんにいらっしやい！』

生きものが食べものになるまで』 十二編

感想文が書かれた作品には、偏りがありましたが、自分の体験と重ね合わせ共感したり、新たに知ったことや驚きを抱いたりしたことを、素直に表現した作品が多く見られました。

『つくしちゃんとおねえちゃん』

お姉ちゃんのことが大好きな主人公のつくしちゃんの物語ですが、兄弟・姉妹がいる児童は共感しやすく、自分の体験と照らし合わせて考えを深める作品が多く見られました。物語中の姉妹の会話や行動と、自分の事を比べて、「登場人物のつくしが私に思えてならない。」と表現するものもありました。

『ばあばに えがおを とどけて あげる』

元気がないばあばに笑顔を集めて届けるお話ですが、自分の祖父母との関わりについて書かれた作品が多かったです。ほとんどの作品に、離れて暮らしていたり、入院したりしている祖父母を喜ばせるために、家族と相談してしたことやその時の気持ちが詳しく書かれていました。

『すうがくでせかいをみるの』

「さんすう」ではなく「すうがく」、この本の題名の数学が気になって読んだ児童が多く見られました。そして、「だれにだってすきなことがあって、それぞれのやりかたでせかいをみている・・・」のところから自分に振り返って自分の好きなことについて考えている作品が見られました。

『おすしやさんにいらっしやい！ 生きものが食べものになるまで』

子供たちが大好きなお寿司のネタは、生きていた魚をさばいて料理されたものです。この寿司ネタがどのような構造でどのように裁かれるのかが詳しく紹介された食育の写真絵本ですが、家庭で生きている魚を料理したことと関連させて書かれた作品が多くありました。そして食べものの命をもらって自分たちが生きていることや、食べものへの感謝の気持ちが表現されていました。

全体として、低学年ながら自分の生活に根ざし、読書を通して自分の生活や意識を変えていこうとする様子が見られました。これからも素敵な本と出会い、感動や学びを積み重ね、心を豊かにしてほしいと思います。

担当 井上 峰

●指定読書

今年度の県審査対象作品は、一年生五編、二年生十七編、合計二十二編であった。これを、図書別に見ると、次の通りである。

『すきなこと にがてなこと』 十六編

『ねこのふくびき』 六編

どちらの本も、表紙や挿絵が親しみをもちやすく、共感したり不思議に思ったりしながら興味をもって

読み進めることができたのではないと思われる。

それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめると、次のようになる。

『すきなこと にがてなこと』

人それぞれ、好きなことがある。人それぞれ、苦手なことがある。でも、誰かの好きなことが、誰かの苦手なことを助けている。そんなふうにして、みんながつながっていることに気づき、自分や自分の周りを振り返って考えてみた作品が多かった。いろいろな人がいていいんだという、低学年なりの気づきがよく表れていた。

家族や友達、近所の人、動物など、自分の身近な存在が苦手なことを助けてくれたり、自分が助けたりしている。また、苦手なことは直さなくてはいけないと思っていたが、周りの人が助けてくれたり、誰かのおかげで苦手が好きに変わったりすることもあるから安心したということを書いている作品もあった。自分の苦手を劣等感と感ずることなく、また、周りの人の苦手を責めることなく、身近な人と助け合っていきたいという温かい気持ちが伝わってきた。

『ねこのふくびき』

ある日、学校へ行く途中で、みゆを追いかけてきた知らない男の子。その子は、実は、ねこのふくびきで一等賞を当てたみゆの飼いねこのルークだった。一日だけねこをお休みできるという賞を当てたルークは人間の姿になり、みゆと学校に行く。学校では、みゆの困ることや恥ずかしいことばかりするルーク。でも、道徳の時間に、ルークがみゆの良いところをたくさん発表してくれた。

みゆとルークの仲の良さや心のつながりを感じると共に、自分も友達や兄弟の良いところをもっと見つけて伝えていきたいと書いている作品が多かった。良いところを見つけることで、より仲良くなれると感じたようだった。

全体として、本の内容を自分の生活と結びつけて素直に共感している作品が多かった。また、新たな気づきや、これから自分が大切にしていきたいことを表現することができていた。これからも、さまざまな本と出会い、多様性に気づき認め合える豊かな

心を育ててほしいと思う。

担当 宇谷 陽子

小学校中学年の部

●自由読書

自由読書の部で審査の対象となった作品は、五十七編であった。学年別に見ると、三年生が二十編、四年生が三十七編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族・友達、環境問題、自然や動物、目標や夢など多岐にわたっていた。中学年が読み進めやすい内容の本だけではなく、高学年向きの本まで選ばれており、中学年として読書に対する興味や関心の広がりを感じられた。

本との出会いについては、本の表紙に心をひかれた、家族や先生に薦められた、授業で取り扱った内容に関する題名であったなど、様々なものがあつた。

作品の内容については、登場人物の行動や考え方や、自分の生活経験を比較したり重ね合わせたりすることで、感じたことを表現している作品や、家族や友達との関わり方を見つめ直した作品など、自分のこれからの人生を豊かにしていきたいと考えているものが多かつた。また、障害やジェンダーについて取り上げ、人それぞれ違いがあることを受け入れて相手の思いを大切にすることのよさに気付いた作品や、環境問題や自然保護などの現代社会が抱える問題について、今の自分ができることは何かを考えた作品、今世界で起きている戦争を自分事として捉え、平和を守っていくために自分も行動していきたいという思いをつづった作品なども見られた。このような、中学年の児童にとっては難しいと思われるテーマにも、本との出会いをきっかけに、しっかりと向き合い、中学年の子どもなりに考え、自分の思いを表現することができていた。

文章表現については、選書の理由、あらすじ、読後の感想という基本的な構成の作品が多かつた。本と出会ったきっかけや心に残った言葉の引用など、読書感想文の読み手を作品の世界に引きこむよう

な様々な表現の工夫も多かつた。また、難しい言葉で表現しようとするのではなく、感じたことを中学年らしい素直な言葉遣いで書き表した作品からは、その子の思いがしっかりと伝わってきて、印象に残つた。

今後の課題としては、自分自身の考えの記述が中心になっている作品が多かつたということだ。子ども達が本との出会いから得た思いを、さらに存分に表現してほしい。また、かぎ括弧の使い方や、促音、拗音の位置など、基本的な原稿用紙の使い方についての取得の必要性も挙げられる。

今回の審査に携わり、本のもつ力、読書のすばらしさを改めて感じることができた。読書は、子ども達の中に新しい世界を見せ、心を豊かにさせる力をもっている。出会い方は様々だが、一冊の本との出会いは、子ども達が読書のおもしろさに気付くきっかけになったり、新しい考えをもつための方法になったりする。子ども達は、本を読んで得た、新しい見方や考え方を日常生活でも活かしていこうという意欲をもっている。また、自分の思いを様々な言葉で表現することで、自分の気持ちを見つめ直すこともできるだろう。今回感じた思いを忘れずに、これからも、自分の世界を広げる新しい本との出会いを大切にしていってほしい。そして、自分の世界をより一層豊かに彩ってくれることを願っている。

担当 神原 媛乃

●課題読書

今回の県審査対象作品は、三年生十四編、四年生二十三編、計三十七編であった。これを課題図書別に見ると次の通りである。

『みんなのためいき図鑑』	十五編
『一一一本の木』	十編
『チョコレートタッチ』	四編
『この世界からサイがいなくなってしまう』	八編

作品全体として、自分の経験や生活と重ね合わせながら、素直な感動や感想を書いている作品が多かつた。図書別にまとめると、次のようであった。

『みんなのためいき図鑑』

授業参観に向けて、たのちんの班は「ためいき図鑑」をつくることになった。どんな時に人がため息をつくのか調べて発表するというものである。だが一緒に班の加世堂さんは、毎日保健室登校で教室には来られない。たのちんが、加世堂さんにも図鑑づくりに参加してほしいと思い、イラストを描いてほしいと提案したところ、班のメンバーともめてしまう。子どもたちの中にあるさまざまな気持ちがため息として現れる。家族や友達とも関係にゆれる子どもたちの気持ちを、鮮やかに描いた物語。

児童の感想では、ため息という身近なものを、自分の生活を結び付けて考えるものが多かった。「怒られたとき」「上手いかなかったとき」に出る落胆のため息をイメージしていたが、本を読み終えたときに、ため息の中には、落胆だけでなく、安心感や達成感、満足感といったプラスの感情のものがあるということに気付いたという児童が多かった。ため息に込められたさまざまな感情に心を寄せ、思いやりをもって生活したいという気持ちが感じられた。

『――一本の木』

インドに、女兒の誕生を百十一本の木を植えて祝う村がある。ジェンダー平等を提唱するこのエコロジー活動によって、村は豊かな自然を取り戻しました。女兒に学ぶ機会を与え、児童婚から守るために行動した村長を描く実話。

児童の感想では、自分達の住む日本では考えられないことが、別の国では起きているという驚きをもった児童が多かった。読み進める中で、百十一本の木に込められた村長の思いに共感し、今の自分にできることを考え生活の中で実践していきたいと書かれていた。当たり前のようにできていることを、当たり前と思わず感謝の気持ちをもち過ごしていきたいという思いが伝わってきた。

『チョコレートタッチ』

ジョン・ミダスはいい子だが、一つだけ困ったところがあった。それは、お菓子が大好きすぎることに。特にチョコレートがお気に入り、食べ過ぎるために湿疹が出てパパとママを悩ませていた。ある日曜の午後、小さなお店でおいしそうなチョコレートが売ってあるのを発見した。ジョンはそこでチョコレー

トを買い、あとでこっそりと食べた。それからジョンの周りには、不思議な出来事が立て続けに起きる。

児童の感想では、チョコレートが大好きな主人公に自分や兄弟の姿を重ね、ごはんの前に我慢できずに食べてしまうこと、食事の時間でもゲームがすぐにやめられないこと、好きなことにしか目がいていない状態を想像し共感していた。主人公のように度を過ぎてしまうと、大切なものを見失ってしまう。物事を多面的に捉えることの大切さを自分自身の言葉でまとめられていたと思う。

『この世界からサイがいなくなってしまう』

密猟により絶滅が心配されるサイ。なぜ、狙われるのか。どうしたら守れるのか。記者でもある著者が現地での取材を通して迫った一冊。第一章では、サイの歴史やユニークな生態について書かれている。第二章では、今アフリカでサイが絶滅に瀕していることを紹介している。第三章では、科学の力でサイを守ろうとする動きを取り上げている。第四章では、サイが狙われる理由には、アフリカの貧困問題が関わっており、根深い問題だと指摘している。

児童の感想では、サイが絶滅の危機に瀕していることに驚き、怒りを覚えたという感想が多かった。「密猟」について学び、大切な命が人間の手によって奪われている現実に対して、「レンジャー隊」の命がけの活動に感銘を受け、環境保護や動物達の住みよい世界について考えるきっかけになったようだ。

担当 宮本 礼佳

●指定読書

今年度の県審査対象作品は、三年生十一編、四年生十八編、合計二十九編であった。これを図書別にみると次の通りである。

『ぼくんちのねこのはなし』 七編

『ひとがつくったどうぶつの道』 十五編

『登り続ける、ということ。』

『山を登る 学校を建てる 災害とたたかう』

七編

全体として、自分の経験や生活と重ねながら、素直に感動や感想を書いている作品が多かった。ま

た、いずれの図書も、自分の生活を振り返り、今、自分に何ができるかについて、中学年の子ども達に考えさせる内容であった。読書体験が、子ども達に与えるものの大きさを実感した。

それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめると次のようになる。

『ぼくちのねこのはなし』

小学校四年生の一真の家にいる猫のことは十六歳。最近、体調が悪く、ベッドの上で眠っていることが多くなった。餌も食わず、ヘンな鳴き方をしてぐったりしてしまったことを病院に連れていくと、もう治らない腎臓の病気だと分かった。

一真や両親のこらとの関わりを通し、命について考えた作品が多かった。一緒に暮らしている動物のことや、自分や家族の病気のことなどを重ねて考え、正解のない命の問題に向き合っている様子が素直に表現されていた。

『ひとつが作った どうぶつの道』

森を分断して、人が豊かに暮らすために作った道路。山に道路ができ、車が増えると、野生の動物たちは食べ物に困ったり、仲間に会いに行けなかったり、車にひかれて死んでしまったりすることを問題提起している作品である。また、そういう動物を一匹でも減らすために、動物のための道があることも教えてくれている。

人と動物との共生について考えている作品が多くみられた。ロードキル、生息地の分断等々巻末の解説まで読み、自分が今できることや、今後できそうなことについて真剣に考えて表現できている作品も多かった。人のためだけではなく、人間以外の野生動物に対して、同じ高さの目線で、共生について考えてほしいという作者のメッセージが子ども達に届いていた。

『登り続ける、ということ 山に登る 学校を建てる 災害とたたかう』

世界最年少（当時）で、七大陸最高峰登頂に成功した世界的アルピニスト野口健さん。過酷な登山を続けながら、ネパールでの学校設立や植林、エベレストや富士山での清掃活動、ネパール地震や熊本地震での被災地支援などに取り組んでいく。共

通することは、「自分にできることは何か」を考えて行動すること。ゆるぎないメッセージが詰まった一冊である。

世の中には「日なた」と「日かげ」があり、人目につかない「日かげ」にこそ、取り組むべきテーマがあることや、人は立場が変われば、ものごととの見え方もかわることなど、子ども達は筆者からメッセージを受け取り、自分にできることは何かを考えることができていた。筆者が、体験・体感してきた言葉だからこそ、説得力があり、子ども達の心に響いていた。実際に自分の行動に移すことができていく子どもも多く見られた。

担当 山根 成子

小学校高学年の部

●自由読書

今回、自由図書の部で県審査の対象となった作品は五十七編であった。学年別でみると、五年生が二十三編、六年生が三十四編である。

感想文に取り上げられた作品の内容は、戦争、障害、動物、家族、友達などの多岐にわたっていた。特に戦争を取り上げた作品が多く、原爆の恐ろしさや戦争と児童の出来事、実際に広島に行き原爆の悲惨さを肌で感じた作品が目立った。また、人間の勝手な都合で命を粗末に扱ったり動物実験の真実を知り命の大切さや動物愛護について考えを深めたりする作品もあった。また、心に残る本と出会い、自分の弱点を知り克服をしていきたいという前向きな気持ちを表す作品も多く見られた。高学年らしく幅広く多様なジャンルの本が読まれ、心に響く本との出会いによって大きな主題も身近なものとして考えることができたのだろう。

審査を通して感じたことは、本と自分自身の経験や生き方をつなげて考えたり比較したりする作品が数多く見られたことである。自分が挫折した経験を本の主人公とつなげて考えたり、戦争や家族、動物から命の尊さについて本を読んで再確認したりするものであった。差別や障害をテーマにして身近な人や自分自身を振り返り葛藤する作品は、本との出会

いによって、自分自身を奮い立たせて未来を明るく生きようとする書きぶりが見られ、深く心を動かされた。また、身近な友達関係に着目し、自分らしさを大切に、勇気を出して行動することで本当の仲間に出会えることを感じた作品も見られた。心に残った本を自分事として真剣に考え、今、自分にできることは何かを具体的に書いていた。自分の経験を本の内容と結びつけることで、本の世界に入り込むことができているように思う。

感想文を書く上で、導入の表現方法にも様々な工夫が見られた。心に残る言葉の引用。本の表紙や帯、写真に興味を惹かれ、内容を想像する場面からの導入。自身の体験と本との繋がりについて書く表現方法。また、自分の考えを数点に絞り、本の内容と自分の心の変容を順に書き、核心に近付いていく表現方法もあった。

思いの限り自分の考えを述べ、書き方を工夫している中でいくつかの課題点もあった。読書感想文は自分の生活体験と結び付けて書くことが求められる。しかし、あらすじの紹介が多く、自身の経験や考えなどの感想の部分少ないもの。逆に、経験についての記述が多くなり、本の記述が薄くなっているもの。また、本の内容と自分の意見がずれてしまっているものもあった。出会った本が自分にどのような影響を与えたのか、読書後にしっかり整理する必要がある。一貫性のある文章を書くことで、本の内容と自分自身の考えの変容などをしっかり結びつけることができる。

本には様々な力がある。良い本に出会えば、直接的に経験がなくても自分自身に変容したり、自分の行動を振り返ったりすることができる。読書を通して、今の自分にとって足りないものは何か、そして、これからどのように行動すればよいのかを考えることによって、自分の生活をより良いものにすることができる。読書感想文を書くことで、自分の弱さや課題に気付いたり自分にとって大切なものに改めて気付いたりすることにつながる。読書感想文を書くことは時間と労力を費やすが、自分の思いを素直に言葉にし、その感動を忘れないよう記録に残すことの素晴らしさに価値があると思う。

これからも多くの本と出会い、心豊かな人間に成長することを願っている。

担当 田井英里奈

●課題読書

今回、課題図書部の県審査対象となった作品は四十一編で、これを図書別に見ると、

『りんごの木を植えて』 十九編

『ぼくの弱虫をなおすには』 七編

『捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ』 十五編

どの作品も、読書をきっかけに自分の生活や経験と結びつけ、自分を振り返ることができていた。また、同年代の主人公が祖父との関わりの中で生き方を見つめたり、誰もが持つ人間の弱さを前向きにとらえたりする姿に共感しやすい本が、多くの児童に読まれていた。また、社会でも学校の学習の中でも取り上げられている環境問題を扱っている本にも高学年の児童が関心をもったと思われる。三編の課題図書について、それぞれの感想をまとめると次のようになる。

『りんごの木を植えて』

小学五年生のみずほのおじいちゃんは重病が見つかったが、病院の治療を受けない方法を選んだ。みずほがおじいちゃんと一緒に生活していく中で、「生と死」を見つめ直す物語である。みずほにとってのおじいちゃんのように、自分のまわりの大切な人が亡くなってしまった自分の経験をふりかえり、生きることの大切さを表現している作品が多かった。また、「明日世界が終わると分かっているもりんごの木を植えるのは『希望』があるからだ」とおじいちゃんがみずほに教えてくれた言葉に触れ、一人の命がなくなっても、その人の思いは子孫へとつながっていくのだということに気付き、「希望」をもって生きる大事さを考えている感想が印象深かった。

『ぼくの弱虫をなおすには』

怖いものがたくさんあるゲイブリエルは怖い上級生と同じ校舎になる五年生には進級したくない。親

友フリータが「ぼくの弱虫をなおす」作戦を考えてくれ、夏休みにその作戦と一緒に取り組む。アメリカを舞台に、偏見や人種差別の問題に触れつつ、苦手を克服する子どもたちの成長を描いた物語である。誰にでもある「弱虫」に共感し、この本を手にとった児童が多かった。「弱虫をなおすには」の答えは「愛を信じること。そうすれば自然と勇気がわいてくる」自分の周りにいるフリータのような人の存在に気づき、自分の弱虫リストを更新しながら前に進んでいこう思いにあふれた作品が多かった。改めて、自分のまわりの応援団に感謝し勇気がわいたと自分の言葉で素直に表現することができていた。

『捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ』

「捨てないパン屋」を開いた田村さんを取材した話である。「食品ロス」の問題に悩んだ田村さんがモンゴルに滞在したり、フランスで修行したりして、パンを捨てないためのレシピを作り出した。捨てないパン屋になるまでの葛藤を通じて、食品ロスのない未来への希望を描いている。

食品ロスは、子どもたちの身近な環境問題だと感じ、自分にできることは何かを真剣に考えている作品が多かった。また、従来の「無駄を減らそう」という動きとは違い、「本当に必要な分だけを作る」ということや、「本物の食材を使わないことが環境問題につながっている」という事実など、読者に新しい視点を与えてくれる内容でもあった。

読書を通して発見したり、新しい知識を得たりすることができる。たくさんの本と出会うことで、さらに心豊かに育ってほしい。

担当 吉田 典子

●指定読書

今回、指定読書の部で県審査対象となった作品は、三十編で、学年別では、五年生十四編、六年生十六編で、これを図書別に見ると次の通りである。

『ぼくらのスクープ』 五編
『青いつばさ』 二編
『命の境界線 保護されるシカと駆除される鹿』

図書によって作品数に偏りが見られ、物語についての感想は少なく、ノンフィクションについての感想が多数であった。どの作品も、自分の生活や経験と結び付けて考えを述べることができていた。三編の指定図書についての感想の傾向をまとめると、次のようになる。

『ぼくらのスクープ』

小学校五年生のイダッチは、社会科見学をきっかけに新聞記者にあこがれて、学級新聞を作ることになったのは、ほとんどしゃべらず、雨が降っただけで学校を休むような変わり者の魔王。みんなが驚くようなスクープを追い求め、真実を載せたいと言うイダッチに対して、魔王は「人によってものの見方が違うから真実かどうかは簡単には決められない」と冷静だ。初めはうまくいかない二人の新聞作りだが、様々な事件と向き合い、真実を追求する中で成長していく物語である。イダッチと魔王の掛け合いが面白く、お互いの主張をぶつけ合う中で、新たな価値観を見出していくことに共感した作品が多かった。児童は自分の気持ちを伝えることの大切さに気づき、自己の家族や友達との関わりを振り返り、言いたいことを言い合えるような関係づくりについて考えを深めていた。

『青いつばさ』

十一歳のジョシュは、いつも十六歳の兄ヤードランの面倒をみている。ヤードランは知的障害があり、体は大きいけど小さな子どもみたいで、興奮するととんでもないことをしてしまうからだ。二人は、翼をケガして群れに置いていかれた鶴の子を見つける。ヤードランは鶴に飛び方を教えることに夢中になり、ジョシュにケガをさせてしまう。そのせいで引き離されそうになった二人は、鶴の子を連れて家を出て、旅を始めるという物語である。兄のせいで苦勞することがあっても、ジョシュはヤードランが大好き。そんな兄弟や家族の絆に共感し、自分と重ねて、家族への感謝や愛情といった思いを新たにするような感動的な作品が見られた。しかし、物語とは離れて自分の家族への思いに終始する内容も

多かったように思われる。自分の生活や経験と結び付けることは大切だが、もっと物語の世界へ浸ってほしかった。

『命の境界線 保護されるシカと駆除される鹿』

近年、日本各地で野生動物が町に出没し、大きな社会問題となっている。奈良県では、シカはマスコットの存在として人々に愛される一方、近隣の滋賀県では、シカは有害獣として駆除されている。同じ種類の野生動物なのに、「保護される側」と「駆除される側」の命の境界線はどこにあるのか探っていくことで、人間と野生動物の共存について考えるノンフィクションである。ニュースや新聞等でよく目にする野生動物の駆除がテーマということもあり、今年の指定図書の中では題材としてもっとも多くの子童に選ばれた。著者の考えや思いが本文中に書いてあることもあり、児童も感想をもちやすく、はっきりとした考えが書かれた作品が多かった。その中でも目を引く作品は、テーマである野生動物との共存を、自分の生活や興味のあることに結び付け、他人から与えられたものではなく、読書を通して新たに獲得した自分独自の考えや価値観が書かれているものであった。

物語にのめり込むこと、書かれている話題に興味をもつこと。読書は読むことを楽しみ、その本を好きになることから始まると考える。子どもたちには読書をする中で、登場人物の変化や成長を感じ取ったり、書かれているテーマについて共感したり批判したりしながら、自分なりの感想をもってもらいたい。そしてその過程の中で、自己の中に生まれる新たな考えや新たな価値観と出会い、自分のよりよい生き方に生かしていくことを願っている。

担当 太立 憲隆

中学校の部

●自由読書

本年度、県審査に出品された作品は九十一編であった。その内訳は、一年生二五編、二年生三〇編、三年生三六編。内容としては、「人とのつながり」や、「自分らしさ」、「どう生きるべきか」などに関する

内容が多かったが、コロナ禍で、何事においても実体験が不足している中で、自分の体験を書くことができず、抽象的な内容になってしまうものもあった。しかし、当たり前前が当たり前でなくなった生活を、どう考えて乗り越えていくかについて、本気で考える作品が多く、感心した。優秀作品については、本の内容と自分の体験、本を読むことで、どのような変容があったかが、バランスよく書かれたものが選ばれた。あらすじが多くなれば、紹介文になるし、自分の体験が多くなれば生活文になる。また、印象に残った場面に感想を述べていく書き方も、それらの感想を総じたまとめがないと、何に感動し、どんな変化があったのかが伝わりにくい感想文になる。テーマを絞って、自分事として捉え、自分の生き方に生かせるような作品にしてほしい。

最優秀の頓宮琉太さんの「『相手に自分の思いを伝える』ために」は、『きよしこ』を小学校五年生と、中学校一年生で二回読み、自分の読みの深まりについて書いている。自身の幼い頃の発音の不自由さを思い出しながら、「思いを伝える」ことの難しさや大切さについて、清と共に考えを深めていく。そして、マスクをつけての会話やスマホの文字やスタンプでの伝えにくさについても、体験からしっかりと述べられているので、とても説得力のある文章になっている。これからも、会話の大切さを様々な人に伝えていってほしい。

山本芽生子さんの「生きる」は、末期癌で余命宣告をされた雫さんのホスピスでの生活から、「生きる」こととはどういうことかを考えた作品である。ホスピスで患者がリクエストするおやつに込められた思い出の一つ一つから、人には「使命」があるのではないか、と考えた山本さん。自分の名前に「生」が入っていることにも意味を見出し、丁寧に生きようと決意する姿は、とてもすばらしい。

高橋冴羽さんの「世界の見方」は、本の題『世界を、こんなふうに見てごらん』の漠然とした投げかけに対して、自分なりに具体的な答えを探していった作品である。筆者に導かれながら、世界とは何か、「なぜ？」と問う気持ちと、人が見ている世界はイリュージョンだと考えることを忘れない態度が「こんなふ

う」の中身だ、という答えにたどり着いた。答えのない課題に取り組むことが増えていく時代に必要な力を身に付ける礎が、高橋さんの中にできあがったことが分かる作品である。

石川瑞樹さんの「大人になること」は、『星の王子様』に出てくる大人を分析した作品である。大人になることは、つまらないことなのか、大人になるとはどういうことなのか。薬剤師になるという夢をもつ自分と比較しながら分析は続く。そして、理想の大人像を見つけ出し、夢に向かって歩き出すことができた。それを、星の王子様に報告する最後の手紙文が、すてきな締めくくりとなっている。

岡田蒼彩さんの「52ヘルツの声からみつけた人生」では、黄璐の人生を通して、聴こうとする気持ちを大切にしようと気付くことができた。世の中には、様々な人生があり、知ろうとしなければ気付けないことがある。たくさんの登場人物の中には、共感できる人もいれば、信じがたい行動をする人もいる。それは、現実社会でも同じで、それを一冊の本の中で知ることができるというのは、読書をするこの意味でもあり、良さでもある。岡田さんは、これからもどんな出会いも、大切に成長していけるだろう。

担当 藤本 久美

●課題読書

今年度の課題図書（中学校の部）は、『セカイを科学せよ！』『海を見た日』『江戸のジャーナリスト 葛飾北斎』の三冊である。

もっとも出品数が多かったのが『セカイを科学せよ！』を題材とした感想文であった。これは、ミックスルーツの二人の中学生が中心人物となる物語である。その舞台はごく普通の日本の中学校であり、部活動や人間関係の悩みなど、どれも中学生の身近な日常であるが、そこに「人種」や「自分のルーツ」という、多くの人が普段あまり意識をしていないような要素を（悲壮感のない語り口で）絡めることによって、新鮮な切り口の物語になっている。また、二人の主人公の性格が正反対に描かれている

ことで状況が明確に整理されていること、登場人物の心理の変化が捉えやすくなっていることなども、感想文が書きやすいポイントであった。

感想文の内容としては、やはり「ミックスルーツ」に関するものが最も多かった。国際的な問題そのものを取り上げるだけでなく、この考え方を敷衍して通常の間人関係に落とし込んだものなど、論の進め方に工夫を凝らした感想文が多かった。また、登場人物の性格に焦点を当てたものや蟲そのものを取り上げたもの、部活動のあり方（研究の進め方）に共感したものなど、書き手によって異なる多様な視点からの感想文は、どれも読み応えのあるものであった。

『海を見た日』は、アメリカの児童福祉制度を題材とした海外文学作品である。アメリカの児童福祉制度には、その制度が必ずしも実態に即していない面もあり、虐待やネグレクトも珍しくないという。作者自身も、その現場で現状を変えようと奮闘している一人であり、精緻な取材に裏打ちされた説得力のある舞台設定となっている。わかりやすくキャラクター付けされた登場人物が、それぞれの目線で進行する物語であり、単純にあらすじを追うのではなく、登場人物の心理の変化に着目してじっくりと味わうような読み方が期待される。

感想文の内容としては、「家族の在り方」についての考察を深めているものが大半であった。大枠のテーマ自体は身近なものだが、里親制度や虐待、ネグレクトのような問題を実生活へ関連づけるのに苦心しているものが多かったように感じられる。単純に論じるのではなく、本質を深めるような論の展開がなされているものも多々あり、これもまた読み応えがあった。

『江戸のジャーナリスト 葛飾北斎』は、実在の人物である葛飾北斎について、膨大な調査結果をもとにその人物像を明らかにする、という説明文の手法で著述されている。著作者の想いが書かれている場面も多く、随筆として読むこともできるが、前述の二冊のように、『物語』として読むことはできない。

図書の性質上、通常の手法で作文するのは難しい。興味を持った点や心に残った点を単純に抜き出

しても、まとまりのある文章にするのは困難であったはずだが、多くの作文が工夫を凝らし、一貫性のあるものに仕上げられていた。図書の内容から独自の解釈を発展させて論を展開してあるものも多く、多様な広がりが見られた。

このように、それぞれの図書で異なる読み方が特徴であり、そこから広がる読書感想文も、予想を超えた展開や帰結を導くことができる。大卒のテーマ自体は「人権や差別」「家族とは」「人生とキャリア」など、すぐに読み取ることができるので、読みが浅ければ誰が読んでも同じ感想、似たような感想文になってしまう。であればこそ、この読書感想文を書くという行為をきっかけとし、ぜひ独自の考え方や論の発展、そして自己の変容へとつながっていくような『深まりのある』読書体験ができることを願う。

担当 長江 正行

●指定読書

今年度の指定図書は、『あしたの幸福』『ゴースト・ボーイズ ぼくが十二歳で死んだわけ』『世界でいちばん幸せな男 101歳アウシュヴィッツ生存者が語る美しい人生の見つけ方』の三冊である。県の審査対象になった感想文は全部で四十三編。その内訳は、『あしたの幸福』十編、『ゴースト・ボーイズ ぼくが十二歳で死んだわけ』十編、『世界でいちばん幸せな男 101歳アウシュヴィッツ生存者が語る美しい人生の見つけ方』二十三編であった。また学年別では、一年生八編、二年生十六編、三年生十九編であった。

『あしたの幸福』は、突然の事故で父親を亡くした中学生の雨音が、親戚の世話になりたくなくて、自分が赤ん坊のときに出て行ったきりの産みの母「国吉さん」と住みはじめる話である。さらに亡くなった父の恋人である「帆波さん」も加わり、三人で生活をしていくうちに、雨音の知らなかったつながりが明らかになっていく。

感想文としては、「欠陥人間」と呼ばれた国吉さんの考え方や言動を読み、自分の価値観に変化が生まれたことを書いたものや、雨音と国吉さん、雨音

とヤングケアラーである幼馴染の廉太郎の関係と、人と人のつながりについて考えたものが多かった。

『ゴースト・ボーイズ ぼくが十二歳で死んだわけ』は、おもちゃの銃をもっていた十二歳の少年ジェロームが、警官に撃たれ亡くなることから始まる。ジェロームはゴーストとなり、そんな彼の姿を見ることができる人間は、彼を射殺した白人警官の娘セアラだけである。ジェロームとセアラとの交流や、他のゴースト少年たちの過去が語られる中で、私たち「生きている」読者に人種差別問題について訴えかけている。

感想文としては、人種差別をはじめとした様々な差別や偏見、いじめに対して、自らの経験を基に論じたり、実在したエメット・ティルやBLMに関して調べ、自分の考えを深めたりしているものがあつた。

『世界でいちばん幸せな男 101歳アウシュヴィッツ生存者が語る美しい人生の見つけ方』は、アウシュヴィッツ強制収容所の生存者であるエディ・ジェイクが自らの経験を記した話である。エディは家族を失い、自身も何度も命の危機にあつたが、自分のもつ知識や技術、収容所で出会った親友クルトとの友情に助けられる。壮絶な経験の中でも希望を捨てず、アウシュヴィッツから生還したエディは、世界をよりよくするために自らの経験を語り続けている。

感想文としては、ユダヤ人への人種差別をテーマに差別や人権問題に対して自分に何ができるかを考えたものが多かった。それにとどまらず、エディの考え方や生き方に感銘をうけ、自分の生活を振り返り、どのように変わりたいか述べたものもあつた。

私たちは、読書を通して、自分の普段の生活とは違う視点で世界を見たり、経験することのない体験をしたりすることができる。様々な家族のかたちや人と人のつながり、生き方、価値観、過去に実際に起きた出来事。それが今までふれたことがないものであつたとしても、登場人物や筆者からのメッセージを受け取ろうという姿勢を生徒たちの感想文から感じることもできた。

高等学校の部

●自由読書

自由読書の部は、課題図書以外の作品を読んだ感想文すべてを扱う。そのジャンルは、小説や詩、短歌・俳句、評論文やノンフィクションなどあらゆる分野にわたる。

本年度、自由読書の部には、県審査へ三十四校から二百三編の応募があった。これは昨年度より応募校数で六校、応募数では二十編の減少であり、新型コロナウイルス感染流行の影響を強く受けた一昨年の三十二校、百九十八編に次ぐ少なさであった。これは、まだまだ平常の生活への復帰が困難であったことを示しているのであろうか。

今回の応募作品二百三編中、百五十一編、タイトルにして百十五編が小説であり、残りがエッセイやノンフィクションであった。

小説で最も多かったのはブレイディみかこ氏『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』で、辻村深月氏『ツナグ』、小坂琉加氏『余命一〇年』、汐見夏衛氏『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』が続く。作家別に見ると、住野よる氏と瀬尾まいこ氏の作品が多く取り上げられていた。

ノンフィクション作品では、岸見一郎・古賀史健両氏の『嫌われる勇気～自己啓発の源流「アドラー」の教え』を始め、若者らしく「どう生きるか」を問うものが多く見られた。

また、小説・ノンフィクションともに例年にまして戦争と平和について考えるものが多かったのは、ロシアのウクライナ侵攻が影響していたと思われる。

本来、高校時代は様々な体験を通して大人へと人間的に成長していく時期であるが、この三年間は、新型コロナウイルス感染流行の影響で、学校生活の様々な場面で体験が失われてしまった。これはとても悲しむべきことではある。がそれはまた、これまで出くわすことのなかった新たな体験を我々が経験したということでもある。

元来、一個人の実体験などというものは、ごく限られたものでしかない。その体験を軸に、我々は他人の体験・情報を取り入れて、日々判断をしている。メディアを通じての情報・読書体験などもその一つだ。

読書感想文を書くということは、自分のこれまでの経験を元に、読書を通して他人の体験を迫体験し、自分を見つめ直す作業である。フィクション・ノンフィクションを問わず、登場人物の行動・心理を迫体験することで新たな自分と出会い、世界を広げていってもらいたい。

最近の読書感想文では、多様性について述べるものも多く見られるようになった。これらも、自分の世界に閉じ籠もってはいは得られない見識であり、そういう新しい世界を開いてくれるのも読書の醍醐味である。

審査にあたって目についたのは、こういった自分の読書体験を通しての心の成長を、二千字という字数すべて使って書ききろうという姿勢の薄い作品もやはり多くあったということである。本題にはあまり結びつかないきっかけや、自分のこれまでの常識から一歩も踏み出すことがなく、したがって読書体験が自分の心に響いたことが感じられない、本を読んだの上っ面な感想を、^る縷々書き綴っただけにすぎないもの、中には、作品分析的な要素の強いものも見受けられた。

また、受賞作も含めて、口語表現が多々混じっていることも気になった。公的な文書はきちんと校正し、書き言葉で綴ることができる能力を身に着けたい。

本年度の最優秀に選ばれたのは、内田紗弥さんの「伝えること」である。辻村深月氏の『ツナグ』を読んだもので、物語の中で「ツナグ」と出会って、自分の体験をふり返り、自分の思いと真摯に向き合い、伝えられなかった後悔を乗り越えて、「伝える」ことの大切さを確認している。自分の体験と物語とが相俟って、自らの思いを素直に表現した飾らない文章が高く評価された。

優秀作品の菱川心愛さんの「語られない物語～『同士少女よ、敵を撃て』を読んで～」は、戦争で傷つけられる人々を増やさないために「語られない

事実」に目を向けるという覚悟がしっかりとした文章で語られていた。中原健さんの「砦の中」は、新型コロナウイルスと戦った小さな病院を舞台としたドキュメント小説『臨床の砦』を読んだもので、主人公の言葉に自己を反省する潔さとともに、前に向かって進んでゆこうとする力強さを感じさせる作品であった。山磨実生さんの「夜空が教えてくれたこと」は、知ることとは、単に知識を増やすことではなく、思いを深め、そして自分を変えていくことなのだということが伝わってくる優れた文章であった。小坂美結さんの「『チーズ』を追い求めて」は、登場人物の行動から自分の「変化」への対応を振り返り、「自分にとっての『チーズ』とは何か」へと移っていく思考の過程がわかりやすく書かれていた。間野結さんの「力が湧いてくる」は、できないことがあるところから現実に向き合い踏み出す中村さんや現地の人たちの姿にふれ、自分と向き合おうとしている。片山実歩さんの「宙のごはんみたいになりたい」は、人にはそれぞれの人生があることに気づき、その人生と向き合おうとしている姿がよくまとまった文章で書かれている。中島菜乃さんの「傑作は『これから』」は、「さとし」の当たり前が本当は当たり前ではないことに気づき、身近な人たちを温かい目で見ようとしていることをうまくまとめて書いている。堀野桃花さんの「『置かれた場所で咲きなさい』を読んで」は、今の自分を懐疑的に見つめることでこれからの自分を模索するという姿が今回のコンクール応募作品中出色であった。

優れた文章を書くことができるということは、ただ自分の考えを飾る技術がうまいのだということではない。自分の思考そのものを、深く、精密に組み立てることができるということなのである。今回読書感想文を書くことを通して、「如何に自己表現を完成させるか」の努力をしてきた諸君には、是非、今後もその努力を続けて、より豊かな人生を築いてほしい。

担当 藤本 健一

●課題読書

課題図書部門の三作品（『その扉をたたく音』、『クジラの骨と僕らの未来』、『建築家になりたい君へ』）には、二十二校から七十二編の応募があった。どの作品にも人生の悩みを解決する手がかりがあり、夢や出会いの大切さを再確認できるものとなっていた。

課題作品の中で多くの生徒が選んだ『その扉をたたく音』は、夢を捨てきれないまま怠惰な生活を送っていた青年が、ある日訪れた老人ホームで神がかったサクスの音色を奏でる介護士と出会うことから始まる。介護士との関わりや、人生の終わりを老人ホームで過ごす人達との出会いを通して、人生の行き止まりで立ちすくんでいる人間でも他者の生きる力になれることに気づき、自身の生き方を見直していく物語である。

この物語を読んで今年度の最優秀賞に輝いたのは、山本亜生子さんの作品である。進路選択という大きな分岐点を前にして、悩みを抱えながら高校生活を送る彼女は、様々な職に就きながら、それぞれの思いを持って今を生き抜く大人と心を通わせることで、「人との繋がり」がそれぞれの今を形作っていることに気づく。そして、「人生」を一曲の歌にたとえ、自分が奏でる主旋律に、繋がりの方にいる人々の奏でる音が重なり合い、特別な一曲を作り上げていくのだと考えた。また、未曾有の事態が続き、不安が蔓延する社会を生きている自分たちだからこそ、他者を幸せに、そして笑顔にする「音」を奏でられるはずだと希望を語り、かけがえのない人生という一曲を温かく彩ることのできる人になりたいと、優しくも力強い言葉で締めくくってくれた。

優秀賞四作品のうち二作品も『その扉をたたく音』を読んだものとなっている。田中洸太郎さんは、扉をたたく音を「新たな出会いへの第一歩」と位置づけ、人生は心の扉を開きながら歩むものだと考えた。コロナ禍で自由に外出できない状況が続いたとしても、何気ない日常の中の出会いを大切に、心に響く音を聞き逃さないことで、より豊かな人生を送ることができる強く訴えた。蓮池日菜璃さんは、夢中になれることも目標もない自身の現状と主人公の姿を重ね、心を揺さぶる言葉に出会えたと語る。一

人では変えがたい人生の奔流も、傍にいて関わり合う他者の力があれば変えられることに気づき、「人のために働く」ことで誰かの人生を動かすことのできる大人になりたいと、未来に向かって決意を新たにしました。

『クジラの骨と僕らの未来』では、著者が「未来に突き進むためには好きなことへの強い思いと周囲の支えが必要である」という考えに至るまでの経緯が述べられている。幼い頃から「骨」に興味を持ち、ペットの墓を掘り返して骨格標本を作ろうとした著者を否定しなかった両親や、進路選択に迷った際に背中を押してくれた先生らの支えが、好きなことに向き合い続けるための、そして夢を叶えるための原動力になったという。

本作を読んで優秀賞を受賞した山本直実さんは、進路選択という岐路に立ちながらこの本を読み「夢を追う原動力」を見つけるためのヒントを得ることができたようだ。漠然とした「憧れ」を夢の動機とすることに不安を感じていた彼女は、著者の夢に対する動機が「悔しさ」であったことに安堵する。しかし、その感情だけが著者の原動力を生み出しているのではないと気づき、様々なことに興味を持ち、挑戦し続けなくてはならないと語る。そんな彼女の強い意志に、「夢を追う原動力」の片鱗が見えた。

『建築家になりたい君へ』では、十歳で建築家を志し、国内外で活躍する著者が、未来へ羽ばたこうとしている子供達にメッセージを送っている。やりたいことをやるだけではなく、自分に求められていることに気づく力を持ち、様々な環境で学び、多くの経験を積むことが、成長の糧になると述べている。

本作を読んで優秀賞を受賞した水川愛結さんは将来の夢がないことに悩み、進路選択に行き詰まる中でこの本に出会った。「自分でやらなければ人は何もしてくれない」という著者の言葉について考えた彼女は、様々なことに興味を持つきっかけは自分で掴むしかないと綴る。また、著者の生き方と自身の経験から、臆さずに周囲を頼ることの大切さに気づいた。この本を読んで一步踏み出すきっかけを手に入れ、夢を見つけるために行動しようとする彼女の姿勢に好感が持てた。

今年度の感想文に共通していたことは、コロナ禍によって制限された日常を送る高校生が、悩みながらも明るい未来を描き出し、自分の夢に近づくための手がかりを得ようとする姿である。そして、優しく見守ってくれる家族や先生、励まし合える仲間などの大切な存在と出会い、夢に向かって努力し続けるという決意に満ちた文章からは、新時代を担う彼らの強さを感じた。

紙上に奏でられた言葉は、彼らの心にどんなふうにも響いたのだろうか。この夏出会った言葉を胸に、歩み続ける勇気を忘れずにいてほしい。彼らの一人ひとりが、自分らしい音色で鮮やかな人生を奏でられるよう、心から祈っている。

担当 平松 歩

第34回読書感想画岡山県コンクール

I 日 程

- 6月16日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議
- 12月16日(金) 応募締め切り(小学校・中学校)
- 1月6日(金) 応募締め切り(高校)
- 応募先・事務局
- *小学校・・・岡山市立浮田小学校
山崎 博之
 - *中学校・・・倉敷市立南中学校
藤本 久美
 - *高校・・・岡山県立倉敷南高等学校
平松 玲子
- 1月6日(金) 小学校の部審査
(岡山市立浮田小学校)
- 1月11日(水) 中学校の部審査
(倉敷市立南中学校)
- 1月10日(火) 高等学校の部審査
(岡山県立倉敷南高等学校)

- 平松美佐子 岡山市立浮田小学校
- 矢部 菜月 岡山市立浮田小学校
- 大月美保子 岡山市立浮田小学校
- 小谷 政晴 岡山市立浮田小学校
- 山崎 博之 岡山市立浮田小学校
- 稲田 千恵 岡山市立中央中学校
- 相川 美穂 岡山市立芳田中学校
- 奥井 晴香 倉敷市立東中学校
- 眞賀 芳郎 岡山市立吉備中学校
- 松崎 千恵 岡山市立足守中学校
- 藤本 淳平 岡山市立高島中学校
- 渡邊 枝里 倉敷市立南中学校
- 松永美紀子 倉敷市立北中学校
- 藤本 久美 倉敷市立南中学校
- 藤原 光 岡山県立備前緑陽高等学校
- 高取 亨一 岡山県立瀬戸高等学校
- 神坂友梨奈 岡山県立総社高等学校
- 宮添栄美子 倉敷市立精思高等学校
- 國光 滋宏 岡山県立倉敷南高等学校

II 県審査員

審査委員長 (SLA 会長)

藤井 省吾 岡山県立倉敷天城高等学校

審査副委員長 (SLA 副会長)

松原 弘 岡山市立高島小学校

中田 隆宏 岡山市立妹尾中学校

審査委員

平坂多恵子 岡山市立幡多小学校

眞賀 典子 岡山市立横井小学校

田村 敬子 岡山市立灘崎小学校

小橋 諒 岡山市立福浜小学校

古谷 浩子 岡山市立平井小学校

上森 麻衣 岡山市立東疇小学校

難波伊津美 岡山市立福島小学校

田中 満史 岡山市立蛍明小学校

佐藤 泰之 岡山市立第一藤田小学校

III 結 果

1) 応募作品数・応募学校数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	1,226点/21校	755点/16校	591点/15校
中学校	75点/13校	64点/10校	67点/6校
高等学校	28点/9校	28点/10校	30点/9校
計	1,329点/43校	847点/36校	688点/30校

2) 最優秀賞受賞者

小学校低学年の部・指定

岡山市立庄内小学校 1年 村上 結夢

小学校高学年の部・自由

岡山市立御南小学校 6年 戸光 楓子

中学校の部・自由

岡山大安寺中等教育学校 2年 近藤 愛里

岡山操山中学校 2年 山形 陽奈

中学校の部・指定

倉敷市立北中学校 2年 矢吹 梨愛

倉敷市立北中学校 2年 山本 絢葉

高等学校の部・自由

岡山操山高等学校 1年 石川 三玲

倉敷南高等学校 2年 井上 南風

高等学校の部・指定

岡山操山高等学校 1年 丸山 菜緒

総社高等学校 2年 松岡 明香

3) 全国コンクール入賞者

該当なし

IV 審査報告

【小学校の部】

岡山市立浮田小学校 山崎 博之

○ 審査事務の流れ

第34回読書感想画岡山県コンクールへの応募校は、15校と前年度より減少、応募作品総数も昨年度より減少し591点であった。そのうち、応募要項にもとづいて各校の校内審査を経た作品52点が県コンクールに出品された。（高学年指定図書の応募は、0点でした。）

審査会は、1月6日（金）に岡山市立浮田小学校で、行われた。図画工作・国語等に造詣の深い13名の先生方にお集まりいただき、厳正かつ慎重に審査をしていただいた。

司書の尽力により、感想画の図書がアイウエオ順に並べられ、参考図書が傍らにあることで内容や挿絵の模写などの確認がスムーズであった。応募の規定に関する違反が数校で見られたので、指導者や担当者が、指導の段階から応募の決まりや趣旨などをしっかりと把握しておく必要があると感じた。

3学期はじめのご多用の中、ご協力くださった審査員の先生方に心より感謝申し上げます。

	自由読書	指定読書
最優秀	低0点 高1点	低1点 高0点
優 秀	低3点 高4点	低2点 高0点
入 選	低4点 高4点	低3点 高0点

【最優秀作品】

自由読書・低学年

「該当なし」

指定読書・低学年



自由読書・高学年



指定読書・高学年

「該当なし」

○ 審査概評・今後の課題等（※審査員の声を含括）

・「子どもたちが読書を通して得た感動や気持ちの変容などを表現豊かに一枚の絵に表していることに、まず驚かされました。彩色や画面構成にも多くの工夫が見られ、子どもたちの創造力の豊かさに感動しました。残念なのは、年々その応募作品が減少してきていることで、読書離れだけでなく、別の要因もあるのではないかと感じています。これについて対策を考えていく必要があると思いました。」

・「審査（低学年自由読書）は、かわいい作品が多かったように思います。中には、表紙をそのまま写しているような作品もありましたが、読書をして、自分の思いを絵に表したいという気持ちで作品づくりに取り組んでいる子どもたちが多くいました。入賞するか、しないかは少し横に置いておいて、気軽に読書感想画を描く機会がもっと多くなるといいですね。そうすると、応募作品も増えるのかもしれませんが。」

・「高学年の作品の審査を担当しました。高学年は、作品が集まりにくいですね。本が好きだけではダメ。絵が上手いだけでもダメ。なかなかハードルが高いです。「絵も本も好き」そんな子どもが増えてくれたらと心より願います。」

・「低学年向けの本・絵本には、挿絵がほぼ毎ページに出てきます。挿絵に引っ張られずに描き切ることに難しさを感じました。読書と自分の実体験とを結びつけて描いている作品もあり、面白かったです。」



読書感想画に取り組むには、伝え合う力、想像力、表現力、読書に親しむ態度などが、求められる。そして、作品に表現することで様々な能力や態度の育成が期待できる。このコンクールの趣旨やよさを一層啓発し、各学校で積極的に取り組み、本コンクールが一層、発展・充実していくことを期待している。

【中学校の部】

倉敷市立南中学校 藤本 久美

募集要項に基づき、各校で応募作品を募り、校内審査を経た作品がコンクールに出品されました。本年度は、参加校6校、全応募作品集57点、県コンクールには、29点の作品が応募されました。審査会は1月11日（水）午後2時30分から、倉敷市立南中学校図書館にて行われました。県内の国語科、美術科担当の8名の先生方にお願ひし、厳正な審査のけった、最優秀作品4点を中央コンクールへ出品しました。新学期スタート直後の多忙な時期にも関わらず、審査を担当して下さった先生方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

指定図書部門に応募された作品については、今年度も出品数が少なかったのですが、しっかりと本を読み込み、物語の内容を工夫の凝らされた構図で表現した作品が集まりました。自らの思いを色彩や形に表現を楽しんでいるのが伝わり、自身の解釈をどのように画面に落とし込むか試行錯誤している様子が伺えました。また、自分の得た感動を何後も反芻し、1つの世界観として一場面をリアルに表現した作品、写真集的な本のを自分なりの視点でおさえた色調と大胆な構図で表現した作品など、生徒の豊かな感受性が表現されていました。

自由図書部門に応募された作品については、主人公の心の動きや変化を緻密なタッチで表現しようとする作品が多く見られました。画面に描かれたモチーフ一つ一つが丹念に描かれ、思いの深さを表していました。また、超現実主義的な構成の工夫に、作者の個性も感じられました。イメージしたものを目に見える形にすることは容易なことではないため、見た人に伝わるような説得力のある描写にするためには、写真や映像、虫や花のスケッチなどの資料を集めて、制作に臨んでいる生徒も多く見られました。目の前になくても、まるで目の前にあるかのような明暗表現に感心させられました。一方、自由図書は、選書の段階から大切だという感想も審査員から出されました。しっ

かり読み込んで他者に伝えたいと思うような感動が得られる本かどうか、また、自分が想像力をふくらませていける内容かどうかを吟味して選んでほしいです。自由図書の中には、もう少し筆を重ねていたら深みが出たり、もう少し構図を工夫したら立体的に表現できたりした作品もありました。

年々、出品作品が減っている理由として、指定図書の公示が遅く、制作時間がとりにくいという声がほとんどです。夏休みに時間をとって制作できたらもう少し出品数が増えると思うと美術科からは意見が出ていました。また、出品校も少なく、案内は全校に配布されていても、衆知されていくよう工夫が必要だと思われます。

今年度も、本コンクールに応募・参加して下さった多くの学校の先生方にお礼申し上げます。来年度、さらに多くの皆様にご参加いただけますよう、ご協力お願いいたします。

【高等学校の部】

岡山県立倉敷南高等学校 國光 滋宏

○審査事務の流れ

読書感想画岡山県コンクールは、2004年度から小学校・中学校・高等学校の部に分かれて事務局を置き、県SLA事務局と連携して審査事務を行っている。

本年度は支部事務局長会議で岡山県コンクールの募集要項を配付し、支部内の各校への要項配付と説明を支部事務局に依頼した。9月末には中央コンクールの募集要項が配付され、指定図書が発表された。『はなの街オペラ』（森川成美・作 坂本ヒメミ・画）、『蛭と月の真ん中で』（河邊徹・著）、『ぼくたちのスープ運動：小さな思いやりが世界を変える！』（ベン・デイヴィス・作 渋谷弘子・訳）、『さばの缶づめ、宇宙へいく：鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち』（小坂康之、林公代・著）、『火星は…』（スザンヌ・スレード・文 千葉茂樹・訳 三河内岳・監修）の5冊が今年度の中学校・高等学校の部の指定図書であった。

1月6日（金）に締め切られた県コンクールへの応募数は以下の通りである。

〈コンクール応募総数〉

応募校数	自由読書	指定読書	作品合計
9校	23点	7点	30点

岡山県コンクール審査会は、1月10日（火）、倉敷南高等学校の会議室で行われた。国語・美術の担当教諭で、特に学校図書館に造詣の深い4名（備前支部2名、備中支部2名）に審査をお願いした。

事務局から応募点数・審査基準などの説明・確認をした後、指定読書・自由読書の順に審査を行った。応募作品の対象図書を手元に用意し、作品と参照しながら対象図書の表紙や挿絵の引き写しなどがいないか、対象図書が「募集要項」に適合しているかなどを確認し、厳正かつ慎重に審査を行った。

その結果、自由読書2点、指定読書2点、計4点の最優秀作品を決定し、中央コンクールに出品することができた。

〈受賞作品数〉

	自由読書	指定読書
最優秀	2点	2点
優 秀	2点	3点
入 選	10点	2点

○審査概評・今後の課題

審査の先生方から以下の講評をいただいた。

- ・全体的に作品の完成度としては拮抗していて、中でも描き込みや全体の構成・色使いなど、絵の中に光るものがある作品が入選した印象である。
- ・絵のテーマとしては、特に印象に残ったシーンをクローズアップした作品もあれば、全体のストーリーやキーになるシーンをたくさん絵の中におさめた作品もあり、絵づくりの多様性を感じた。
- ・例年に比べると、説明的・羅列的なものが少なく、抽象的・印象的なものが多かった。読書感想画コンクールの趣旨に合っていた。
- ・コンクール自体の認知度、特に指定読書の部の認知度はまだ低いと思われる。時期的な問題(絵画のコンクール等)もあるだろうが、粘り強い啓発活動が必要である。
- ・全体的にもう少し時間をかけた技量のあるものを見たい。作品としてのクオリティーがもう少し上がるとコンクールとしても盛り上がると思う。資料無のものが多く、ぜひ資料はたくさん集めて説得力のある画面を作ってもらいたい。
- ・時期としては、夏ぐらいから制作できるような十分な時間があると応募作品数が増えるかもしれない。指定図書は学校図書館と連携して、学校図書に入れてもらうと制作の取り組みが良くなる。
- ・「画」コンクールである以上、画力や創造性が重視されるのはもちろんであるが、応募者には「発達段階」に応じた適切な選書をしてほしい。

指定読書部門 最優秀賞



Taking the mackerel
can into space



大切なものを抱えて

自由読書部門 最優秀賞



ワニさんとわたし



呪いの核

絵 本 研 究 部 会

1. 令和4年度の活動状況

本年度は22年度から続けている「心をつなぐ絵本」というテーマのもと、サブテーマを「SDGsとつながる絵本」とし、研究を進めました。

研究部会では新刊絵本を中心に幼稚園から高等学校までの実践報告を持ち寄り、報告し合いました。

毎年発行している「読み聞かせたい絵本」はNo39を発行・配布しました。

2. 研究部会絵本研究部会設置要綱

(1) 設置について

岡山県学校図書館協議会規約第4条2項により、絵本研究部会を設置する。

(2) 目的

この部会は、絵本の指導のあり方を研究し、児童・生徒・父母の読書活動を促進する。

(3) 活動

① 毎月に開く部会で、研究する内容

- ア. 絵本の見せ方・選び方
- イ. 絵本の読ませ方・読み聞かせのあり方
- ウ. 絵本作りのあり方
- エ. その他 絵本研究のための必要な活動

② 研究成果の発表

- ア. 各郡市地区事務局を通じての内容紹介
- イ. 研究収録への収録
- ウ. 研究大会での発表
- エ. その他 絵本実践を推進するための発表

(4) 構成

① (部員の委嘱)

部員は、地区組織を通して募集し、会長が委嘱する。

② (部員数)

部員の人数は約10名とし、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭・司書を含める。

3. 令和4年度絵本研究部会委員

(敬称略 順不同)

部会長	松原 弘	岡山市立高島小学校長
事務局長	副島 佳成子	岡山市立竜之口小学校教諭
	森田 英莉	〃
研究部員	西垣 淳司	岡山市陵南認定こども園教諭
	篠 崇敏	岡山市鹿田認定こども園教諭
	難波 真	倉敷市立庄中学校教諭
	山田 宏美	倉敷市立福田南中学校教諭
	山本 泉	岡山県立西大寺高等学校教諭

4. 今年の取り組み

今年度は引き続き、「心をつなぐ絵本」というテーマのもと、サブテーマを「SDGsとつながる絵本」とし、実践を重ねていきました。コロナ渦で人との触れ合いが難しい中、絵本を通して命の大切さや、人との絆を感じてほしいという願いからです。また、ウクライナでの戦争について、心を寄せるという意味で戦争についての絵本を多く扱いました。幼児や小学校低学年向きには、絵本の面白さを味わうことのできる「ハラハラドキドキする絵本」や日常の一コマを切り取り、心があたたかくなるような「優しい気持ちになる絵本」で心をつなぐことを研究しました。子どもたちがよりよい絵本と出会えるよう、得られた情報をより多くの教育現場で実践にかけていただくために、今後も紹介文研究も引き続き進めていきます。

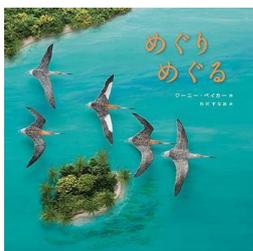
岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では、「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと今年度も「SDG s とつながる絵本」をサブテーマとし、研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から、読み聞かせたい絵本をお知らせします。

書名
著者

出版社 税込価格 出版年 実践学年

SDG s とつながる絵本



めぐりめぐる

ジーニー・ベイカー 作 わだすなお 訳

ポリフォニープレス ¥1,870 2021 幼～高

長い長い距離、北極圏から南半球まで1万キロ以上も移動していく渡り鳥。しかし地球環境の変化で、羽を休める干潟はどんどん減って……。自然への畏敬、生命の尊厳を深く考えさせられます。構図の素晴らしさ、緻密なコラージュにも見入ってしまう美しい絵本です。



森のおはなし

マーク・マーティン 作 おびただす 訳

六耀社 ¥1,650

2017 小～高

むかしむかし、あるところに林がありました。その林は深く生い茂った森になりました。その森の木を人間たちが切り始め、森はビルや工場に、そして都市にと姿を変えていきます。そうして残ったのは1本の木。1本の木から始まる自然のお話。自然の力を考えることができる一冊です。



おじいちゃんのがこしたものは・・・

マイケル・モーパーゴ 作 ジム・フィールド 絵

佐藤見果夢 訳 評論社 ¥1,760 2019 小～高

おじいちゃんが残した、孫娘のミアに宛てられた手紙。ミアは母親になった今も、クリスマスになると家族と一緒にその手紙を読み返します。この地球に生きるすべてのものが幸せに暮らすための願いがぎっしり詰まったおじいちゃんの手紙。SDG s を考えるきっかけにもなる心に響く一冊です。



おしっこ、うんこはどこに行く？

中川ひろたか 作 カワチ・レン 絵 アリス館 ¥1,540
2021 幼～高

「おしっこ、うんこってどこに行くのだろう？」というこどももの疑問。そこでお父さんとこどもは小さくなって一緒に探検し、ふたりで楽しく疑問を解決していきます。おしっこ、うんこが流れ着く先にはいったい何があるのか。生活排水を通して環境を考える絵本です。



せかいでいちばんつよい国

デビッド・マッキー 作 なかがわちひろ 訳
光村教育図書 ¥1,650 2005 幼～中

ある大きな国の人々は、自分たちの暮らしほど素敵なものはないと信じていました。その大きな国の大統領も、また同じように考えていました。国をもっと大きくして「世界中の人々を幸せにするため」に始まった戦争。最後に残ったのは、小さな国でした。そんな小さな国が教えてくれた平和の大切さ。戦争と平和について考える絵本です。



ブルーノ

Fukase 作 福音館書店 ¥1,650 2021 小高～高

ある日、すさまじい嵐がのどかな村を襲いました。村人のタルカスは王様の助けを待ちますが、王様はなかなかやってきました。その頃王様は……。両サイドが表紙になっていて、村人、王様それぞれの立場でストーリーが両端から進んでいく仕掛けのおもしろさも味わえます。



戦争をやめた人たち—1914年のクリスマス休戦—

鈴木まもる 文・絵 あすなろ書房 ¥1,650 2022 中～高

戦争中のドイツ軍とイギリス軍の兵士たちは、クリスマスイブの夜、共に戦うことをやめます。この絵本は第一次世界大戦で実際にあったクリスマス休戦を描いています。色鉛筆で描かれた落ち着いた色合いが、最後の空の色の鮮やかさを印象づけます。「この星に、戦争はいりません」という作者の言葉が強く胸に響きます。



そらいろのたね

なかがわりえこ 作 おおむらゆりこ 絵

福音館書店 ¥990 1967 幼～小

ゆうじは宝物の模型飛行機を、キツネの宝物の「そらいろのたね」と交換します。そらいろのたねを地面に植えて水をやると、空色の家が生えてきました。水をやるたびに大きくなる家に、聞いている子どもたちも大喜び。わくわくが詰まった夢いっぱいの絵本です。



いのちのたべもの

中川ひろたか 文 加藤休ミ 絵

おむすび舎 ¥1,540

2017 幼～小

今日の夕ご飯は寄せ鍋。お母さんとスーパーへお買い物。はくさい、とりにく、はまぐりにがんもどき。たくさんある食べ物は海の食べ物と陸の食べ物に分けられます。「人のからだは食べ物でできているの。」お母さんが話してくれた食べ物の話。読むと今日のご飯がおいしく感じられそうな食育にもびったりの絵本です。

ハラハラドキドキする絵本



ひー

りとうようい 作・絵

すずき出版 ¥1,430

2021 幼～高

ひー——！表紙のヒヒが逃げていきます。その後をヒョウが追いかけていきます。絵本を横に向けて下から上にめくっていくと、逃げるヒヒと追いかけるヒョウが絵本から飛び出てきそうで、なんとも迫力満点の展開です。



がっこうに まにあわない

ザ・キャビンカンパニー 作・絵

あかね書房 ¥1,650

2022 幼～中

家を飛び出してきた男の子は、おおあわてで必死に走っていきます。どうしてかって？今日は絶対に遅刻してはいけない日なのです。彼の行く手には、次々と想像もつかないような困難が待ち受けています。この男の子は学校に間に合うのかな？ページに書かれている時刻を見ながら、読み手も最後までハラハラドキドキの絵本です。

優しい気持ちになる絵本



あかちゃんがきた！

サトシン 作 松本春野 絵

アリス館 ¥1,430

2022 幼～小低

けんちゃんの家には赤ちゃんが来た。初めて見る小さな手、初めて触れる柔らかいほっぺ、初めて聞く大きな泣き声。けんちゃんはどんなことを感じたのでしょうか。だんだんとお兄ちゃんとしての気持ちが芽生え「大きくなったら一緒に遊ぼうね」と赤ちゃんに話すけんちゃん。子どもの目線でも、大人目線でも楽しめる心が温くなる一冊です。



はやくしなさい！

中川ひろたか 文 村上康成 絵

金の星社 ¥1,485

2022 幼～小低

「早く着替えて」「早く顔を洗って」朝から早く早く急かされる男の子。「ママはどうしてそんなに早く早くって言うの？」と質問する男の子。ママの話最後まで聞いた男の子は笑顔で急いで支度をします。ママが「早く早く」と急かせていた理由とは？読み進めると自然と笑顔になれる一冊です。

ユニークな絵本



ヒキガエルがいく

パク ジョンチェ 作 申明浩・広松由希子 訳

岩波書店 ¥1,980 2019 幼～高

山からおりてきたヒキガエルたちが、だんだんと集まってきて、さまざまな障害を乗り越えながら、産卵のために池まで旅をします。「トン!」「ドドン!」と太鼓のリズムで表現されたカエルの様子が、とてもユーモラスに描かれています。

優良図書研究部会

1 活動内容

当部会では、5月、6月、7月、8月、9月、11月、1月、2月の年8回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低学年・中学年・高学年）と中学校の4グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んではどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでおいてもらいたいなという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすめたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが・・・）

これらの本は、岡山県青少年保護育成条例に基づく推薦図書の中にも入れられ、「岡山県公報」に載せられて広く紹介されています。

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和55年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年3月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本の中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、3冊ずつを選んでいきます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいものです。

2 選定基準

1 内容事項

- (1) 教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。
- (2) 子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか
- (3) 分かりやすく、正確で、現代の進歩に応じているかどうか。

イ) 統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ) より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ) 事実の叙述は、科学的に正確で、実際的であるかどうか。

ニ) 引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ) 翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ) 断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあるものであるかどうか。

(4) 主題を単に解説したものはとりあげない。

2 編集・出版事項

(1) 短編集は採用しない。

(2) 多くの合さんのものは採用しない。

(3) 新刊書であること。

(4) 辞典、事典類は採用しない。

(5) シリーズ全巻を対象としない。

3 図書群の構成事項

(1) 特選図書全体を通して、ある分類ばかりに偏り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。

(2) 小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

4 装丁・体裁事項

(1) 製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。

(2) 用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

3 優良図書研究会部員

部会長 松原 弘 岡山市立高島小学校長

事務局長 副島佳成子 岡山市立竜之口小学校教諭

” 森田 英莉 ”

研究部員

〈小学校の部〉

木下由布子 岡山市立陵南小学校教諭

小川 薫 岡山市立芳泉小学校教諭

沖田 恭子 岡山市立御南小学校司書

森岡 香耶 岡山県立図書館司書

武田 綾子 岡山市立牧石小学校教諭

〈中学校の部〉

藤本 久美 倉敷市立南中学校教諭

吉川 里美 倉敷市立琴浦中学校教諭

西川 依里 岡山市立桑田中学校教諭

牧野 佳恵 岡山市立操山中学校司書

令和4年7月

みなさんにすすめたい本

岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることとなります。

しょうがっこうていがくねんむ

小学校 低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
E	汐見稔幸/監修	4・5・6さいのなぜなに SDGs せいかつからまなぶ!	世界文化社	44ページ 1760円

SDGsってなに？ むずかしそうだけれど、みのまわりのたいせつなことを、えやしやしんでわかりやすくつたえてくれます。みちかなぎもんにとたえてくれる、おもしろくてわかりやすいほんです。



913	荻田澄子/作 つちだのぶこ/絵	さかさまがっこう	文溪堂	46ページ 1430円
-----	--------------------	----------	-----	----------------



いつもわすれものをしてしまうだいくん。わすれものをしてもおこられないせかいになればいいな。さかだちして、じゅもんをとええると、あれ?? さかさまのせかいになっちゃった! わすれものをほめられ、ろうかをはしってほめられ、たのしいとおもったけど、あれれれ・・・。さあ、こまったぞ!!

913	別所芳子/作 しんやゆう子/絵	しりとり電車のハイイチくん	文研出版	78ページ 1320円
-----	--------------------	---------------	------	----------------

さくらちゃんのクラスには、しりとりがだいすきなハイイチくんがいます。みんなとはなすときもしりとり、じゅぎょうちゅうじつといすにすわっていないハイイチくん。さくらちゃんとハイイチくんはなかよくなれるのでしょうか。



小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	村上しいこ／作 高島那生／絵	げたばこかいぎ	PHP 研究所	78 ページ 1320 円

ある夜、はるとは「げたばこかいぎ」によばれ、「パパのかわぐつがくさくてこまるから、パパにいつてくれ。」とたのまれます。自分が言わないと、ほかのくつにパパがいじめられるかもしれない……。はるとは、心ばいになってパパのしごとばに行ったのですが、そこでのパパのすがたに……。パパとはるとのきずなに、心があたたまります。



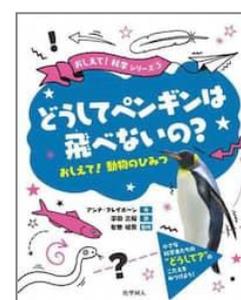
913	森絵都／作 たかおゆうこ／絵	チイの花たば	岩崎書店	79 ページ 1430 円
-----	-------------------	--------	------	------------------



おばあちゃんにあこがれ、花屋さんになりたいチイ。実は、花屋さんになるためには、花にためされるテストがあるんだって。チイはどんなテストを受けるのでしょうか。だれかのために心をこめてつくる花束に心が温かくなる一冊です。

480	アンナ・クレイボーン／作 平田三桜／訳 左巻健男／監修	おしえて科学シリーズ③ どうしてペンギンは飛べないの？ おしえて！動物のひみつ	化学同人	31 ページ 1540 円
-----	-----------------------------------	---	------	------------------

「どうしてネコは卵を産まないの？」「ラクダこぶにはなにが入っているの？」 絵や写真や図をつかって動物のひみつをくわしく解説してくれる一冊です。動物のぎもんをこの本で解決してみましよう。



小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
933	キャサリン・ブルートン／作 尾崎愛子／訳 平澤朋子／絵	シリアからきたバレリーナ	偕成社	302ページ 1650円

シリア人の少女アーヤは、内戦のため故郷を脱出し、イギリスで難民支援センターに通っています。アーヤは同じ建物にバレエ教室を見つけ、そこで新しい仲間や先生に出会い、少しずつ希望を取り戻していきます。



586	谷本雄治／著	天の蚕が夢をつむぐ 大島紬ものがたり	フレーベル館	207ページ 1650円
-----	--------	-----------------------	--------	-----------------



奄美大島の大島紬の織元をしている南修郎さんの夢は、「100パーセント大島産の大島紬」の着物を作ること。まずは、奄美で育てた蚕のまゆから糸をとることを考え、オリジナルのブランドまゆを作りました。

913	高森美由紀／作	ふたりのえびす	フレーベル館	237ページ 1540円
-----	---------	---------	--------	-----------------

おちゃらけキャラの太一と王子キャラの優希は、自分のキャラにふり回される毎日にヘトヘト。そんなふたりがお祭りで『えびす舞』を舞うコンビに選ばれます。ぶつかり合いながらも、ふたりが自分を見つめ直し、成長していく物語です。



中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
913	栗沢まり／作 中田いくみ／絵	あの子のことは、なにも知らない	ポプラ社	303ページ 1650円

卒業も間近なのに、突然1月になって転校してきた和也のことをクラスメイトは気にもかけず、彼のことを知ろうともしていませんでした。美咲はそれに疑問をもち、関わりをもとうとしますが、うまくいきません。無関心だった周りの生徒も少しずつ動き出し……。知ろうとする気持ちが人と人とをどんどんつないでいきます。



933	ベン・ディヴィス／作 渋谷弘子／訳	ぼくたちのスープ運動 —小さな思いやりが世界を変える！	評論社	366ページ 1760円
-----	----------------------	--------------------------------	-----	-----------------



小児病棟で出会ったジョーダンとリオは1杯のスープを届ける運動を始めます。2人の行動に心を動かされ、スープ運動がどんどん広がっていきます。イギリスであった実話を元に書かれた小説です。読むと、誰かのために何かしたくなります。

667	小坂康之／著 林公代／著	さばの缶づめ、宇宙へいく 鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち	イースト・プレス	205ページ 1650円
-----	-----------------	----------------------------------	----------	-----------------

2020年11月、野口聡一宇宙飛行士がISSで食べたサバ缶は、2006年、福井県立小浜水産高校で開発がスタートしたものでした。14年という長い年月と、約300人もの人が悪戦苦闘しつつも、誇りにしてきた壮大なプロジェクトの物語です。



指定図書選定委員会

令和5年3月2日（木）、岡山県立図書館において、指定図書選定委員会を開き、令和5年度第69回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定した。来年度4月に発表される全国コンクールの課題図書と照合し同作品が課題図書となった場合は、候補作の中の優先順位の高い作品から選定する予定である。

指定図書選定委員

県 SLA 会長	藤井 省吾	岡山県立倉敷天城高等学校
副 会 長	松原 弘	岡山市立高島小学校
〃	中田 隆宏	岡山市立妹尾中学校
小教研事務局長	古田 彩歌	岡山市立高島小学校
〃	本間 早紀	岡山市立高島小学校
〃	田辺 弥子	岡山市立高島小学校
〃	岩井智恵子	岡山市立高島小学校
〃	副島佳成子	岡山市立竜之口小学校
中教研事務局長	池田 麻子	岡山市立高松中学校
中教研事務局長補佐	湯浅 憲一	岡山市立中山中学校
県 SLA 事務局長	坂井 昌子	岡山県立倉敷天城高等学校
アドバイザー	矢吹 仁志	岡山県教育庁義務教育課
選 定 委 員	木下由布子	岡山市立陵南小学校
〃	武田 綾子	岡山市立牧石小学校
〃	片山のぞみ	岡山市立竜之口小学校
〃	森岡 香耶	岡山県立図書館
〃	吉川 里美	倉敷市立琴浦中学校
〃	藤本 久美	倉敷市立南中学校
〃	西川 依里	岡山市立桑田中学校
〃	牧野 佳恵	岡山市立操山中学校

岡山県指定図書について

1 内 容

読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他、岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。

2 目 的

- (1) 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
- (2) 何をどう読ませるか、図書の選択や読書指導の手がかりにする。
- (3) よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ、読書生活を豊かにさせる。
- (4) 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。

3 方 法

- (1) 岡山県指定図書は、指定図書選定委員会を設けて協議し、決定する。
- (2) 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。

- (3) 冊数は、小学校低学年3点、小学校中学年3点、小学校高学年3点、中学校3点とする

4 その他

- (1) 字数、用紙、応募作品、出品数、締め切り、送付先、審査、その他の注意事項については、他の区分の応募要項に準ずる。
- (2) 全国コンクールの応募については、自由読書と一緒にして再度審査し、規定どおり出品する。
- (3) 岡山県指定図書は、昭和55年度（第26回）から設けている。

令和4年度岡山県指定図書（県指定）

学年向	書名（シリーズ） 著者名	発行所
小 (低)	『すきなこと にがてなこと』 新井 洋行	くもん出版
	『ねこのふくびき』 木内 南緒	岩崎書店
	『ニャンタのさくぶん』 北川 チハル	文研出版
小 (中)	『ぼくんちのねこのはなし』 いとう みく	くもん出版
	『ひとがつくったどうぶつのだ』 キム・ファン	ほるぷ出版
	『登り続ける、ということ。山を登る 学校を建てる災害とたたかう』 野口 健	学研プラス
小 (高)	『ぼくらのスクープ』 赤羽 じゅんこ	講談社
	『青いつばさ』 シェフ・アールツ	徳間書店
	『命の境界線 保護されるシカと駆除される鹿』 今西 乃子	合同出版
中 学 校	『あしたの幸福』 いとう みく	理論社
	『ゴースト・ボーイズ ぼくが十二歳で死んだわけ』 ジュエル・パーカー・ローズ	評論社
	『世界でいちばん幸せな男101歳、アウシュヴィッツ生存者が語る美しい人生の見つけ方』 エディ・ジェイク	河出書房新社

岡山県学校図書館協議会司書部会 活動報告

1. 令和4年度岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）

令和4年7月28日オンライン開催

コロナ禍の中、オンラインという方法ではあるが、3年ぶりに岡山県下の学校司書が一堂に会し、日ごろの実践について校種を越えた交流を持つことができた。また実践発表を事前の動画配信とすることで、参加者が繰り返し視聴し考えることができるなど、集合型の研修にはない良さもあった。大会当日の全体会では質疑応答を行い、さらに研修を深めることができた。

初めてのオンライン開催であったため、運営側も参加者側も機器の操作に不慣れな面があり、校内で環境を整えることが難しい参加者もいるなどの課題もあった。研修や学校図書館活動の充実に向けてICTをどう活用していくことができるかを含め、今大会で得た経験を今後の研究活動に活かしていきたい。

2. 令和4年度学校司書実態調査

目的：学校司書の配置並びに雇用状況と、各地区での活動状況について情報収集する。
上記情報と会員名簿を作成し、大会で配布する。

但し、令和4年度は大会をオンラインで開催したため、情報のみをHPで公開。

日程：3月初旬 理事選出支部へEメールを送付して依頼。

4月中旬 支部事務局長へEメールを送付して依頼、支援学校へFAXで依頼。

5～6月 各支部事務局内の各学校に調査依頼・回収・集計。

6月4日 調査結果回収締切。

6～7月 まとめ作業、不明な点は確認、情報部分のみをHPで公開。
会員名簿は、理事会保管とする。

実態：

- ・岡山市では、小学校4校と中学校1校を再編、義務教育学校が新設された。義務教育学校には2名が配置されたため、司書数は3名減。正規職員は、退職（その後再任用職員）により1名減となった。
- ・備前市は、調査時点では未配置校1校となっていたが、該当の小学校に6月から会計年度任用職員が配置され、1校1名全校配置に戻った。
- ・倉敷市では2校が閉校・休校となり、司書数は1名減となったが、昨年度生じた未配置校は解消、1校1名全校配置に戻った。
- ・浅口市では会計年度任用職員が2名増員され、全校配置となった。
- ・笠岡市では小・中学校それぞれ1校ずつが休校となり学校数は減ったが、司書数は昨年度と同数を保持し、9名で22校の配置となっている。
- ・高梁市は小学校1校が休校となったが、会計年度任用職員が2名増え、全校配置となった。小学校には専任の司書が1名配置されていたが、今年度は中学校にも専任の司書が1名配置された。
- ・新見市と美作市は学校数や全校配置の体制は変わらないものの、司書数は減少し、1人当たりの兼務校数が増えている。
- ・久米郡美咲町では、公立図書館からの派遣が1名増え、小学校の未配置校は2校から1校に減少した。
- ・真庭市では、司書数の増減はない。公立図書館からの派遣先に昨年度未配置であった小学校1校が追加され、全校配置に戻った。

3. 司書部会ホームページ

URL : <http://okayamasisho.qee.jp/>

目的 : 学校司書の配置状況ならびに雇用の状況, 地区での活動状況, 司書部会沿革, 司書部会活動状況等を広報するために運営

内容 : 上記の他, 学校図書館関連ニュース(新聞記事や議会議事録), 図書館イベント情報(講演会や研修会), 学校司書採用試験情報, 司書教諭と学校司書の連携協力による実践事例, 学校図書館の活用方法や児童生徒の読書活動に関する情報収集・共有など

課題 : 広く情報収集をしていくことと, その情報を閲覧してもらうこと
情報がありましたら, 朝日塾中等教育学校・司書または, 司書部会HP【お問い合わせ】よりお願いいたします。

4. 司書部会理事会

◇第1回理事会 令和4年6月4日 岡山県立倉敷天城高等学校にて

- ・各支部の研修計画・学校司書実態調査について
- ・第44回岡山県学校司書研究協議会(岡山大会)について
- ・総会準備について

◇第2回理事会 令和4年9月15日 岡山県立岡山工業高等学校にて

- ・令和4年度活動方針に係る具体的な役割分担について
- ・学校図書館の充実に関する提案書について
- ・令和5年度岡山県学校司書研修会(玉野大会)及び今後の大会について

◇第3回理事会 令和4年12月5日 Web会議システムにて

- ・令和5年度岡山県学校司書研修会(玉野大会)について
- ・今後の大会ローテーションについて

◇第4回理事会 令和5年3月13日 Web会議システムにて開催予定

※学校司書研究協議会は開催地の実行委員会が運営。その前年度は理事会を年3回開催
学校司書研修会は司書部会理事会が運営。その前年度は理事会を年4回開催。

5. その他

◇「学校図書館の充実に関する提案書」の提出について

提出日 : 令和4年11月25日(金)

提出先 : 岡山県教育委員会

内容 : 実態調査の結果を踏まえ, ①県下すべての学校で一校一人体制の学校司書の配置促進 ②学校司書の資質向上のため, 継続的な研修とそれに伴う予算措置について, 各自治体へ働きかけを行うよう提案した。

◇令和5年度岡山県学校司書研修会(玉野大会)について

日時 : 令和5年7月26日(水)

会場 : オンライン開催

内容 : 司書部会総会(実態調査報告等)
実践発表/全体講座

研究協議会と研修会は隔年で行い, 各地域(岡山・倉敷・玉野・津山)が担当する。
岡山と倉敷は2年続けて研究協議会と研修会を受け持つ年度もある。

正規職員の減少に伴い, 研究協議会・研修会の新たな運営方法を検討している。

令和4年度事業報告

(2/16 現在)

	実施事項	期日	会場	内容
5月	新旧代表役員会及び研修会	5/12(木)	倉敷天城高等学校	・役員の確認 ・総会提出議案の協議
6月	第73回総会及び研修会	6/7(火)	ライフパーク倉敷	・令和3年度事業・決算報告 ・令和4年度事業計画・予算案
	第1回司書部会理事会及び研修会	6/14(火)	倉敷天城高等学校	・学校司書実態調査について ・学校司書研修会について ・岡山大会について、各地区情勢報告
	第1回支部事務局長会議及び研修会	6/16(木)	倉敷天城高等学校	・総会議決事項報告 ・事務連絡 他
7月	令和4年度岡山県学校司書研究協議会	7/28(木)	岡山市(オンライン開催)	・全体会、分科会、交流会 その他
9月	第2回司書部会理事会及び研修会	9/15(木)	岡山工業高等学校	・研究協議会報告について ・令和5年度研修会について
10月	読書感想文コンクール審査準備会及び研修会	10/4(火)	高松中学校	・審査会準備
	読書感想文コンクール第1回合同審査会	10/5(水)	ライフパーク倉敷	・審査日程・審査基準について
	読書感想文コンクール第2回審査会	10/27(木)	岡山県生涯学習センター	・小中高別の審査
		10/27(木)	高松中学校	
10/27(木)		倉敷南高等学校		
12月	読書感想文コンクール最終校正会議	12/1(木)	ライフパーク倉敷	・「読書感想文集2022」最終校正
	第3回司書部会理事会及び研修会	12/5(月)	オンライン開催	・令和5年度研修会について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告 他
	読書感想文コンクール表彰式及び研修会	12/15(木)	岡山県立図書館	・表彰式
1月	第2回支部事務局長会議及び研修会	1/11(水)	ライフパーク倉敷	・令和4年度事業中間報告 ・事務連絡 他
	読書感想画コンクール審査会	1/6(金)	浮田小学校	・小中高別の審査
		1/11(水)	南中学校	
1/10(火)		倉敷南高等学校		
2月	代表理事会及び研修会	2/16(木)	ライフパーク倉敷	・令和5年度総会提出議案の協議
3月	指定図書選定委員会	3/2(木)	岡山県立図書館	・令和5年度青少年読書感想文岡山県コンクールの県指定図書の選定
	第4回司書部会理事会及び研修会	3/13(月)	オンライン開催	・令和5年度研修会について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告 他

令和4年度 岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告書

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数	
岡山	第1回正・副会長研修会	5月30日(月)	岡山市立石井中学校	令和3年度事業報告、決算報告 令和4年度事業計画・予算案等	32名	
	第1回区別研修会	6月20日(月)	岡山市立石井中学校	第68回読書感想文コンクールに向けて		
	総会並びに第1回区別研修会	中止	紙面総会	【総会】 ・令和3年度事業報告、決算報告 令和4年度事業計画・予算案 【区別研修会】 ・第1回区別研修会(情報交換・読書感想文コンクール審査会日程調整)		
	第68回読書感想文コンクール 第一次審査会(区)	9月2日(金)	北1区 岡山市立野谷小学校	・岡山市二次審査に出品する作品の選考、入賞者作品名簿の作成 ・各区の応募総数の確認、二次審査の審査員の推薦		
		9月6日(火)	北2区 岡山県立大安寺中学校			
		9月7日(水)	中区 岡山市立旭操小学校			
		9月5日(月)	東区 岡山市立豊小学校			
		9月6日(火)	南区 岡山市立福島小学校			
	全体研修会並びに第2回区別研修会	中止	紙面開催	第68回読書感想文コンクール 岡山市一次審査に向けて		
	第68回岡山市読書感想文コンクール 第二次審査会(市)	9月16日(水)	岡山市ウエルポートなださき	特選(県出品)、金賞、銀賞作品の選考		
	第2回理事研修会	中止				
	第3回理事研修会	2月6日(月)	岡山市立石井中学校	読書感想文、賞状の仕分け		16名
	第3回区別研修会	2月10日(金)	北1区 岡山市立御津中学校	読書感想文集、県作品の返却および賞状等の受け渡し		
		2月15日(水)	北2区 岡山県立大安寺中学校			
		2月20日(月)	中区 岡山市立旭操小学校			
		2月22日(水)	東区 岡山市立豊小学校			
		2月21日(火)	南区 岡山市立福島小学校			
	第4回理事研修会	3月上旬頃開催 予定	岡山市立石井中学校	今年度の反省、次年度への引継ぎ		
	第2回正・副会長	3月中旬頃開催 予定	岡山市立石井中学校	令和4年度事業報告、令和5年度事業計画案		
反省と課題 ・年間を通して、コロナの影響があるときは研修会の開催ができないことがあった。特に8月頃に全体研修会を予定していたが、200人規模が集まる場所の確保も難しかった。 ・研究に関しては、研究部会は開催できなかったが、次年度の県大会で発表する中学校区の小中学校が、研究授業や研究協議を行い、発表の準備を進めている。 ・読書感想文の賞状に記入ミスをする学校が多くあり、追加配布することが多かった。全体へ周知徹底する方法を検討する必要がある。						
赤磐	<市全体>					
	令和4年度第1回赤磐市学校図書館司書連絡会	6月17日(金)	山陽東小学校	今年度の活動計画、「司書業務セルフチェック表」「蔵書管理の覚書」の活用状況ほか情報交換	15名	
	赤磐市図書館司書および学校司書連絡会	6月17日(金)	山陽東小学校	団体貸出についてほか市立図書館司書と学校司書の情報・意見交換、赤磐市立図書館だよりに学校図書館コーナー新設	17名	
	赤磐市学校図書館司書研修会	11月25日(金)	赤磐市立中央図書館	「パスファインダー」について外部講師による講義・演習	15名	
	赤磐市図書館司書および学校司書連絡会	11月25日(金)	赤磐市立中央図書館	図書館利用状況について、学校図書館の利用状況・読書活動についての情報・意見交換	17名	
	(赤磐市)					
	<山陽ブロック>					
	令和4年度山陽地域図書館司書および学校司書の連絡会	11月25日(金)	赤磐市立中央図書館	利用状況の報告や要望などの情報・意見交換	8名	
	<赤坂ブロック>					
	令和4年度赤坂地域図書館司書および学校司書の連絡会	12月14日(水)	赤磐市立赤坂公民館	利用状況の報告や要望などの情報・意見交換	5名	
	<熊山ブロック>					
	令和4年度熊山地域図書館司書および学校司書の連絡会	8月26日(金)	熊山ふれあいセンター	利用状況の報告や要望などの情報・意見交換	5名	
	<吉井ブロック>					
令和4年度吉井図書館司書および学校司書の連絡会	8月24日(水)	赤磐市立吉井図書館	利用状況の報告や要望などの情報・意見交換	5名		
反省と課題 赤磐市立図書館だよりのリニューアルに伴い、学校図書館のコーナーが設けられ、「司書おすすめの本」や「各校の読書活動」などを掲載し地域の方々にも学校図書館の活動を広く知ってもらうことができた。 また、研修や連絡会なども合同で行えたため市立図書館と情報交換が幅広く行えた。						

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
和気	岡山県読書感想文コンクール和気郡審査会	9月6日(火)	本荘小学校	読書感想文の審査、県出品と和気郡内準佳作の決定	8名
	反省と課題 ・学校によって取り組み方に違いがあり、特に中学校は全校で1作しか出品がない所もあった。 ・コロナ禍もあり各校の行き来がしにくい。感想文集の料金を子どもから直接集金し事務局に集める方式が難しい。QRコードなどで直接県の事務局に注文・購入できるようにしてほしい。				
備前	第1回 備前市学校図書館部会研修会 並びに司書部会研修会	5月2日(月)	備前中学校	○令和3年度の事業報告、令和4年度の組織作り・事業計画作成 ○各校の情報交換	15名
	第2回 司書部会研修会	6月28日(火)	吉永中学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	15名
	第3回 司書部会研修会	8月2日(火)	片上小学校	○全体研修(工作) ○連絡	12名
	第2回 国語部会研修会	8月26日(金)	備前中学校	○授業づくりにかかる情報交換	7名
	第3回 国語部会研修会並びに読書感想文審査	小学校の部 9月6日(月) 中学校の部 9月6日(月)	日生東小学校	○各校の読書指導情報交換、読書感想文の審査と反省	10名
			吉永中学校	○各校の読書指導情報交換、読書感想文の審査と反省	5名
	第4回 司書部会研修会	10月13日(木)	西鶴山小学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	15名
	第5回 司書部会研修会	12月26日(月)	伊理中学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	13名
	第6回 司書部会研修会	3月1日(水)	伊理小学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	
	反省と課題 (読書感想文審査会より) 小学校 ・指定図書を選んでいる児童が少なかった。「自由」で書くものが多かったが、課題図書や指定図書を読む声掛けをもっとしてもよいと思われた。 中学校 ・社会的問題にフォーカスしたものは、生徒にとって未知のものであり、今後の読書や生き方を広げるきっかけになると思われた。・「江戸のジャーナリスト北斎」は生徒にさまざまな感動を与えたようで、その感動が生き生きと伝わってくる感想文が多かった。 (司書部会より) 今年度、備前支部では新採用の司書が多数いたためグループで話し合い解決策を見いだしていく研修を多く行った。来年度は、図書の授業参観を計画し、オリエンテーションや読み聞かせ、授業の進め方についての研修を行う予定である。				
瀬戸内	第68回岡山県青少年読書感想文コンクール瀬戸内市審査会・研修会	9月15日(木)	瀬戸内市中央公民館	読書感想文の審査と審査に係る研修等	
	反省と課題 審査に係る研修を行う中で、指導のあり方についても情報共有ができた。				
玉野	玉野市学校図書館協議会総会及び研修会	6月30日(木)	玉野すこやかセンター	・令和3年度支部事業・決算等報告 ・令和4年度支部事業・予算等計画 ・読書感想文コンクール実施計画	23名
	青少年読書感想文コンクール支部審査会 及び研修会 (小学校)	9月15日(木)	玉野市立後閑小学校	・小学校低・中・高学年で各額ごとに審査	17名
		9月15日(月)	玉野市立荘内中学校	・中学校各額ごとに審査	12名
	司書研修会	11月15日(火)	玉野市立荘内中学校	・学校図書館の運営と事務、読書推進等の研修 ・学校図書館における情報端末の活用	21名
反省と課題 読書感想文コンクールの審査や、そのために必要な研修は効果的に実施できている。また、学校司書研修会については、司書の資質能力の向上に寄与している。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度の研修は必要に応じて、資料配付のみとしたり、オンラインで実施したりした。					
加賀郡	第1回研修会	9月13日(火)	大和小学校	・読書感想文の書き方指導等についての研修 ・読書感想文加賀支部出品作品の審査	11名
	反省と課題 ・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度始めに集まらずに計画をたてた。 ・研修会では、感想文の書き方の研修や読書感想文の審査会など、充実した活動ができた。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
倉敷	学校図書館協議会第1回理事会及び総会	6月8日(水)	書面開催	協議	105名
	学校図書館協議会第2回理事会	7月22日(金)	倉敷市立琴浦中学校	協議	28名
	令和4年度岡山県学校司書研究協議会(岡山大会)	7月28日(木)	オンライン	研修	85名
	学校図書館協議会研修会【中止】	8月5日(金)	くらしき健康福祉プラザ	中止	
	読書感想文コンクール倉敷地区審査(小)	9月1日(木)	天城小・万寿東小	読書感想文審査	22名
	読書感想文コンクール水島地区審査(小)	9月5日(月)	連島西浦小	読書感想文審査	10名
	読書感想文コンクール児島地区審査(小)	9月2日(金)	琴浦西小	読書感想文審査	11名
	読書感想文コンクール玉島地区審査(小)	9月5日(月)	長尾小	読書感想文審査	11名
	読書感想文コンクール船穂・真備地区審査(小)	8月31日(水)	川辺小	読書感想文審査	8名
	読書感想文コンクール倉敷地区審査(中)	9月5日(月)	東中	読書感想文審査	15名
	読書感想文コンクール水島地区審査(中)	9月7日(水)	福田南中	読書感想文審査	7名
	読書感想文コンクール児島地区審査(中)	9月7日(水)	琴浦中	読書感想文審査	6名
	読書感想文コンクール玉島・船穂・真備審査(中)	9月6日(火)	真備中	読書感想文審査	7名
	読書感想文コンクール中央審査(小)	9月1日(木)	ライフパーク倉敷	読書感想文審査	30名
	読書感想文コンクール中央審査(中)	9月13日(火)	ライフパーク倉敷	読書感想文審査	30名
	学校図書館協議会第3回理事会	2月6日(月)	倉敷市立琴浦中学校	協議	28名
	倉敷	<p>反省と課題</p> <p>コロナ禍により、今年度も総会や研修会を開催できなかった。しかし、特段大きな問題もないので、行事の精選を行い、必要なことを必要な範囲で開催できるように、引き続き協議を進めていきたい。読書感想文コンクールについてあまりにも業務が多すぎる。小中学校をまとめて運営することに限界を感じるため、組織の改編を行いたい。文集の取りまとめについて、金額が大きく取り扱うことに不安を感じる。そのため、今年度は振込での支払いをお願いしたが、様々な理由により現金でしか払えない学校があり苦慮した。また、振込で支払っていただいた学校でも手数料の問題が多くあった。文集の販売について方法を検討していただきたい。また、文集の配達についても業者からの連絡がない、玄関までしか運べないなど有り得ないことがあったので、業者の選定をきちんと行い、各校へ配達まで業者で行っていただけるようにしていきたい。</p>			
浅口	図書館教育研究部夏期研修会	8月2日(火)	里庄町立里庄東小学校	講話「子どもたちの育ちと学びを豊かに～すずんで利用される学校図書館をめざして～」 講師 岡山市立吉備小学校 図書館司書 横山 由美恵先生	10名
		9月8日(木)	里庄町立里庄東小学校	浅口支部読書感想文審査会	24名
		10月5日(水)	ライフパーク倉敷	岡山県読書感想文コンクール審査会(1回目)	1名
		10月27日(木)	県生涯学習センター	岡山県読書感想文コンクール審査会(2回目)	1名
	浅口	<p>反省と課題</p> <p>夏の研修会では岡山市立吉備小学校 学校司書の横山由美恵先生の講話を聞いた。 まず、横山先生に、今まで働いてこられた学校図書館の様子を、具体的な写真をもとに紹介していただいた。どんなレイアウトでどんなコーナーを作れば子どもたちが積極的に図書館を利用したくなるのかよく分かり、大変参考になった。特に、電車好きの子どもたちのために、吊り輪や自分たちで作成した電車について調べた本を展示していたのが素晴らしい。次に、学校図書館の役割や授業との連携などを、岡山市の学校での豊富な実践をもとに、資料を使って教えていただいた。印象に残っているのは、子どもたちや教師のために「求められた資料は草の根を分けても探し出す」という姿勢だった。授業との連携において、子どもたちの「問い」を大事にする探求的な学習と、「もっと知りたい」「もっと調べたい」という主体的な学びを教師とともにつくるために、必要な資料はどんなことをしても用意しておくという司書の先生の心意気に感動させられた。 また、先生が「図書の日」に読み聞かせや紹介をされていた本も教えていただいた。2020年度に42冊というその本の多さに、横山先生の「多くの本を知ってほしい」という気持ちが込められていると強く感じた。その姿勢から、2学期以降、我々もさらに子どもたちに本をたくさん紹介していきたいと思える内容であった。加えて先生の講話には、例えばそら豆が出てくる本の紹介では、本物のそら豆と一緒に展示して実物にも触れることができるようにしておくことなどが紹介されており、環境作りの大切さも強く感じさせられるものであった。 夏休み明けには、読書感想文コンクールの審査会を感染対策を実施したうえで行った。学年が上がるにつれて文の質も高まり、児童の成長が感じられるものであった。</p>			
笠岡	読書感想文コンクール支部審査会	9月14日(水)	笠岡市立城見小学校	○岡山県読書感想文コンクールの支部審査	20名
	笠岡	<p>反省と課題</p> <p>今年度も読書感想文コンクールの支部審査については、感染症対策を行いながら予定通り実施した。</p>			
小田	小田郡学校図書館協議会(小学校)	5月2日(月)	矢掛町立矢掛小学校	・令和3年度事業報告 ・役員選出 ・令和4年度事業計画立案	9名
	小田郡学校図書館協議会総会並びに感想文審査会	9月8日(木)	矢掛町立三谷小学校	・令和3年度事業報告 ・令和4年度事業計画 ・予算決算報告 ・読書感想文の支部審査会	11名
	小田	<p>反省と課題</p> <p>○例年同様の活動を行った。 ○読書感想文については、支部内の各校で夏季休業中の課題に設定をしているが、年々出品数が少なくなっているため、県への出品数の上限に見合う数がそろいにくくなっている。</p>			

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
井原	読書感想文支部審査	9月12日(月)	井原市立荏原小学校	・令和4年度の活動計画についての協議 ・井原市学校図書館協議会の役員紹介 ・支部審査会 小学校低学年の部 小学校中学年の部 小学校高学年の部 中学校の部	20名
		9月下旬～10月上旬 10月19日(木) 1月13日(金) 1月下旬	各校 各校	・支部審査会での特選・入選の児童の表彰 ・読書感想文集の注文とりまとめ → 県事務局に申し込み ・読書感想文集・県出品の賞状等を各校に配付 ・県審査会での優秀賞・入選・佳作児童の表彰	
<p>反省と課題</p> <p>・岡山県の応募票を使うことや、応募票の添付の仕方、類別の違い等、出品に際して不十分な学校があった。より確実に周知できるようにする必要がある。</p> <p>・審査会で担当する学年を事前に伝えていたので、課題図書・指定図書を読むなどの準備をしていただくことができた。</p>					
総社	図書館教育班会				
	第1回図書館教育班会	5月6日(金)	総社中学校	年間活動計画の作成	13名
	市図書館との連絡会	6月23日(木)	総社市図書館	市図書館との情報交換	12名
	第2回図書館教育班会	8月5日(金)	総社北小学校	新刊を含む児童書等の選書会	12名
	第68回岡山県青少年読書感想文コンクール 総社支部審査会	9月12日(月)	維新小学校	読書感想文コンクール審査	23名
	学校司書部会				
	第1回学校司書部会	7月28日(木)	維新小学校	司書部会研修計画 司書部会総会オンライン参加	12名
	第2回学校司書部会	8月5日(金)	総社北小学校	学校司書業務マニュアル改訂について検討等	12名
	第3回学校司書部会	12月6日(火)	総社市図書館	県立図書館講師による「資料保存と修理」講習	10名
	第3回学校司書部会	12月6日(火)	総社市図書館	県立図書館講師による「資料保存と修理」講習	10名
	第4回学校司書部会	2月10日(金)	昭和小学校	OECシステム研修 今年度の反省、来年度の計画	12名
<p>反省と課題</p> <p>図書館教育班会</p> <p>・コロナ禍のため近年開催できていなかった総社市図書館と情報交換の場が持て、連携を図ることができた。</p> <p>・読書感想文コンクールには多くの児童・生徒の応募があり、厳正なる審査によって入賞作品を選出することができた。</p> <p>司書部会</p> <p>・業務マニュアル改訂を年間通して検討し、学校図書館システムを有効に活用できるよう研修を継続している。</p> <p>・オンラインにより司書研究協議会岡山大会・学校図書館協議会司書部会総会に全員参加し、取り組みについて視聴することができた。</p> <p>・県立図書館講師派遣による講習受講により資料保存と修理に対する意識と技術の確認と向上を図ることができた。</p> <p>・児童生徒の読書活動推進のため、情報交換や研修に努めた。</p> <p>・来年度も年4回は司書部会を行い、各校の連携を深め、有意義な研修を行っていきたい。</p>					

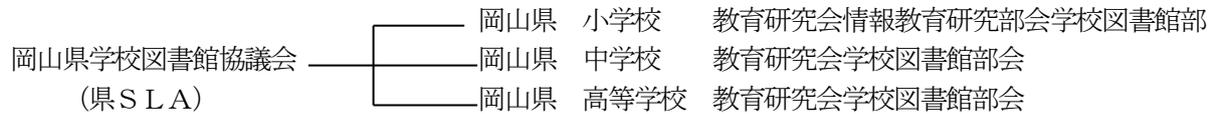
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
高梁	研修会	7月1日(金)	高梁市図書館	○年間計画の作成・読書感想文コンクールについての説明	13名
	読書感想文コンクール審査会	9月13日(火)	高梁市図書館	○読書感想文コンクール審査	23名
	研修会(学校司書部会との合同研修会)	2月2日(木)	高梁市図書館	○講義・演習 (講師) 高梁市 ICT 支援員 横山 弘毅氏 (内容) 学校図書館&読書推進の ICT 活用のヒント ○協議 ・部会ごとの情報交換等 ・図書館教育について ・今年度の取り組みの反省について ・第55回岡山県図書館教育研修大会について	20名
	反省と課題 ・第1回研修会は県協議会からの指示の伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や各校から提出される出品目録の記入について、県協議会から指示されたことをもとに各校へ依頼をおこなった。本年度は7月最初に行ったので、夏期休業の課題として早めに周知し、取り組めるように、研修会の開催をなるべく6月中には行えるよう配慮したい。 ・第1回研修会において読書感想文コンクールについての確認事項を確認することで、校内審査や書類の提出が適切になされるようになった。 ・感想文コンクール審査会の時間を短縮するために、第1回研修会に審査の担当学年を決めておいた。そのため夏休み中に課題図書や指定図書を読んで審査に臨むことができた。さらに、各校で審査作品を写真やスキャナで撮り、審査員全員が見ることができるホルダの中に作品をいれてもらい、事前に読んできてもらうようにした。(小学校のみ。小学校と中学校では出品数や内容等により審査にかかる時間が大きく異なるため、中学校では従来通りの当日作品を読み合う方法で行った。)小学校の部の審査時間は大幅に短縮された。しかし、事前に作品を読む時間をどう確保するのかという課題が残った。 ・ICTを読書活動・図書館教育に効果的に関連づけていく方法やタブレットで司書同士がつながって情報交換する方法などを教えていただき、読書活動を盛んにするヒントをたくさん見付けることができ、各校の読書活動を活発にする一助となる有意義な会となった。また、意見交換も活発に行われ、各校の読書活動の取り組みなどの情報共有もできた。				
新見	第1回 新見市学校図書館教育担当者会	6月21日(火)	阿新教育会館	本年度の活動計画、読書感想文コンクールの概要説明、予算案の説明	16名
	新見市読書感想文支部審査	9月16日(金)	阿新教育会館	読書感想文コンクール支部審査会	19名
	新見市読書感想文集の原稿作成	12月	各校	新見市読書感想文支部審査で特選、準特選に入った生徒の作品をパソコンでデータ打ちをする	
	新見市読書感想文集の原稿校正	1月	事務局	新見市読書感想文集の編集及び発行	
	新見市読書感想文集の配布	2月	事務局	新見市読書感想文集(第42集)を各小中学校・入賞者・図書館等に配付	
	新見市学校図書館協議会理事会及び研修会	2月20日(月)	正田公民館	本年度の活動の反省、来年度の学校図書館研究大会(高梁・新見大会)への協力依頼	10名
	第2回 新見市学校図書館教育担当者会	2月20日(月)	正田公民館	本年度の活動の反省、読書感想文集について、決算報告、来年度の学校図書館研究大会について	24名
	新見市学校図書館協議会会計監査会	3月	阿新教育会館	新見市学校図書館協議会会計の監査	3名
津山	津山市学校図書館協議会 第1回総会・研修会	7月5日(火)	リモート開催 (弥生小学校:役員のみ)	R3年度活動報告・決算報告、R3年度組織体制・活動計画・予算計画についての協議	39名
	図書選定会 中止	8月		児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成	
	津山市読書感想文コンクール審査会	9月6日(火)小 9月8日(木)中	津山市役所東庁舎	津山市内の児童・生徒の読書感想文の審査	36名
	図書選定会 中止	1月		児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成	
	津山市学校図書館協議会 第2回総会・研修会	1月24日(火)	書面開催 (弥生小学校:役員のみ)	活動の総括・来年度の研究活動の方向性や組織体制についての協議	50名程度(予定)
反省と課題 ・事務局次長と副事務局長の仕事の分担などを行い、本年度は会計と事務を分担して行った。 ・仕事内容の精選を行うため、データで要項を送り、各校で印刷に変更した。またリモート開催や書面開催を行った。移動時間が短縮されるので、よかった。 ・読書感想文に関する応募規定についての徹底を図りたい。					
苫田	総会・研修会	6月21日(火)	鏡野町中央公民館	事業・決算報告、事業・予算計画、読書感想文コンクールについての説明、各校の図書館利用について交流	10名
	読書感想文審査会	9月8日(木)	鏡野町中央公民館	小・中読書感想文の審査	10名
	研修会	2月28日(火)	鏡野町中央公民館	今年度の事業反省、読書感想文審査についての反省、各校の読書活動推進の取組を情報交流	10名
	反省と課題 例年通り読書感想文の審査と各校の取り組みの交流が行えた。(2月28日に今年度の事業反省をする予定。) 読書感想文の県審査の締め切りが年々早くなり、支部審査が日程的にきびしい。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
勝田	勝田郡学校図書館協議会総会、研修会	7月14日(木)	奈義小学校	令和3年度事業報告並びに決算報告 令和4年度事業計画並びに予算案 県学校図書館協議会報告 読書感想文審査会について	6名
	勝田郡読書感想文審査会(小学校)	9月6日(火)	奈義小学校	読書感想文審査	4名
	勝田郡読書感想文審査会(中学校)	9月16日(金)	奈義中学校	読書感想文審査	5名
<p>反省と課題 感想文審査会を目標に、各校で感想文に取り組むことが出来た。 課題図書、指定図書の出品が少なかった。 感想画は、教育課程の位置づけなども明確になっていない学校が多く、十分取り組むことが出来ていない。</p>					
久米	第1回岡山県事務局長会及び研修会	6月7日(火)	倉敷天城高校	事務連絡	1名
	久米郡学校図書館協議会総会・研修会	7月4日(月)	美咲町立加美小学校	令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度事業計画・予算案審議、読書感想文の応募についての確認	9名
	久米郡読書感想文審査会	9月13日(火)	美咲町役場	読書感想文支部審査(小学校、中学校)	13名
	第2回岡山県事務局長会及び研修会	1月11日(水)	ライフパーク倉敷	事務連絡	1名
<p>反省と課題 ・読書感想文の支部審査の応募数が少なかったり、審査基準に達していない作品があったりした。 ・書き方についての指導や校内での審査をきちんと行ってから、支部審査に持ってくるように伝えた。 ・県事務局が出してくださっている資料をもう少し整理をしてほしい。特に読書感想文についてはわかりにくかった。 ・事務局長会議等を倉敷で行うと県北から来ている人は遠いため、中間地点である御津町でしてほしい。</p>					
真庭	総会及び研修会	7月5日(火)	久世公民館	前年度事業報告、今年度役員選出、事業計画、予算案協議	28名
	読書感想文支部審査会	9月6日(火)	久世公民館	読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明	29名
<p>反省と課題 真庭支部の事務局はブロックごとの持ち回りで分担している。ブロック内で会計・審査会の役割を各校に割り振り、分担して行い、効率的に行うことができた。 各校の担当者や読書感想文の出品者名簿はサーバー内のファイルに直接入力してもらうようにし、効率的に事務局業務を行えた。 賞状の印刷をデータを活用して、各学校で印刷してもらったため、事務局の負担が減った。</p>					
美作・西粟倉	支部総会・研修会	7月8日(金)	書面開催	令和3年度事業・会計決算報告 令和4年度役員選出、事業計画、予算案、読書感想文コンクール等について	6名
	支部読書感想文審査会・研修会	9月15日(木)	美作市立美作中学校	読書感想文審査(中学校の部)	
	支部読書感想文審査会・研修会	9月20日(火)	美作市作東総合支所	読書感想文審査(小学校の部)	
<p>反省と課題 ・支部総会をコロナ禍のため昨年度に引き続き書面開催とした。読書感想文の審査の内容について、前年度の反省等を踏まえて引き継ぎ点があることから、集合して総会を開催する方が望ましい。 ・読書感想文の応募作品が減少傾向にある。児童・生徒数の減少もあるが、特に低学年について各校の様子を把握する必要がある。</p>					
備前	支部役員会	6月14日(火)	就実高校	(1) 令和3年度事業報告・決算報告について (2) 令和4年度役員案・活動方針・事業計画・予算案について (3) 事務局校・役員校・読書感想文審査校のローテーション・令和7年度以降の研究協議会発表校のローテーションについて	9名
	支部総会	同上	同上	同上	22名
	支部研究会	8月9日(火)	就実高校	研究発表：「創志学園高等学校における図書館の歩みと再生への道のり—2年後の新校舎完成に向けて—」 発表者：創志学園高等学校 教諭 原 彩乃 先生 講演：「書籍の形態の変化を考える—江戸の絵草子に触れてみよう—」 講師：就実大学人文科学部 表現文化学科 教授 中西 裕 先生	16名
	第1回司書部会研修会	4月27日(水)	岡山県立図書館	(1) 協議・連絡 (2) 学校図書館基本情報アンケートとりまとめ	29名
	第2回司書部会研修会	8月2日(火)	岡山高校	(1) 協議・連絡 (2) プチ紹介 岡山工業高校・岡山御津高校・倉敷翔南高校 (3) 研修「アイデアを貸してください！」	25名
	第3回司書部会研修会	11月30日(水)	高梁市立図書館	(1) 研修：図書館PR動画作成講座 (2) プチ紹介 玉野光南高校・岡山学芸館高校 (3) 協議・連絡	20名
	第4回司書部会研修会	2月16日(木)	東岡山工業高校	(1) 協議・連絡 (2) プチ紹介 (3) 研修「東岡工図書館の取り組み紹介と実地見学」	
	<p>反省と課題 不慣れな点が多く各校の皆様方にはご迷惑をおかけすることも多々あったと存じますが、先生方のご支援・ご協力のもと諸会議・研究会を無事実施できましたことに感謝の意を申し上げます。研究会は日程・行事等の関係で年に一度の開催となりましたが、16名の先生方のご参加を頂き夏休み中のゆったりとした時の中で非常に有意義な時間となったと感じます。学校図書館活動の活性化に向けて、次年度も事務局校としての役割を微力ではありますが務めさせていただきますと思います。</p>				

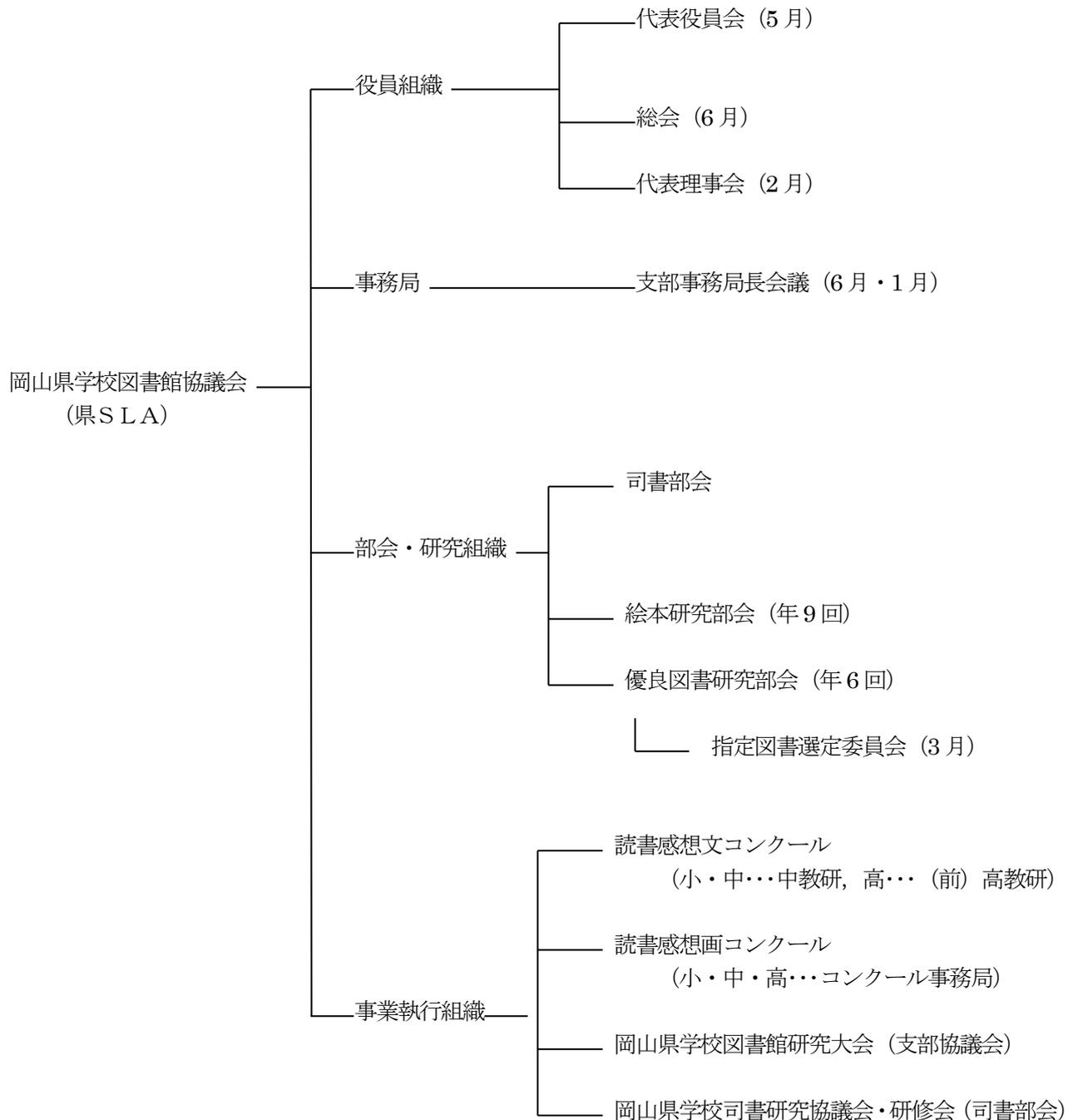
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
備中	第1回司書部会研修会	5月23日(月)	玉島高校	(1) 協議、連絡、報告 (2) 研修 ・事例発表「職員向けの情報発信 - Google Classroomを活用して-」 倉敷中央高校 ・事例発表「水工オンライン・ピブリオバトルの紹介 ~Zoomを活用した取り組み~」水島工業高校	24名
	第1回役員会	6月21日(火)	水島工業高校	(3) サポート校交流 (1) 令和3年度事業報告及び会計報告 (2) 令和4年度事業計画(案)及び予算(案) (3) 支部総会・研究協議会について	6名
	総会・研究協議会	6月21日(火)	水島工業高校	(1) 報告事項 ・令和3年度事業報告及び会計報告 ・令和4・5年度役員紹介 (2) 協議事項 ・令和4年度事業計画(案)及び予算(案) (3) 実践報告「図書館長から図書館課長へ ~2年3ヶ月の気づきと取組~」倉敷工業高校 教諭 高坂和男氏	36名
	第2回司書部会研修会	10月18日(火)	倉敷南高校	(4) 研究協議及び情報交換 (1) 協議、連絡、報告 (2) 研修 ・事例発表「岡山県立倉敷南高校図書館活動報告」倉敷南高校 ・事例発表「図書館からの情報発信と図書委員の活動紹介 - GoogleClassroom等を活用して」倉敷古城池高校	25名
	第3回司書部会研修会	1月30日(月)	高梁高校	(3) サポート校交流 (1) 協議、連絡、報告 (2) 研修「パワーポイントを使った動画編集」(実例報告と説明、実践) 高梁高校	23名
	第2回役員会	3月	書面開催	(3) サポート校交流 (1) 令和4年度事業報告及び会計報告 (2) 令和5年度支部総会・研究協議会について	
	図書委員会交流会	実施せず			
<p>反省と課題</p> <p>○今年度も新型コロナウイルスによる影響はありましたが、6月の役員会、総会、実践報告と年間3回の司書部会研修会が何とか実施できたことはなによりです。次年度以降も各校の御協力をいただきながら、様々な活動に取り組んでいきたいと思っています。</p>					
美作	第1回司書部会研修会(美作支部)	4月28日(木)	津山高校	令和4年度活動計画、図書委員会交流会について、協議連絡	9名
	第1回美作支部役員会・総会	5月13日(金)	津山高校	平成3年度事業報告、令和3年度会計決算報告、令和4年度事業計画案、令和4年度予算案、令和4年度美作地区図書委員会交流会案について	役員会 6名 総会 10名
	第2回美作支部役員会(美作支部)	7月4日(月)	津山高校	第2回研究協議会の研修内容について、第12回美作地区読後感想文コンクールについて	7名
	第2回司書部会研修会	7月26日(火)	津山市立図書館	図書委員会交流会について、協議連絡	9名
	図書委員会交流会	8月5日(金)	津山工業高校	(1) 各校委員会活動の紹介 (2) グループワーク：ポップ作り	生徒 27名 教員 12名
	第3回司書部会研修会(美作支部)	11月25日(金)	津山高校	研究協議会発表準備、水引き細工のしおり作り、図書委員会交流会アンケート結果について	8名
	第11回美作地区高校生読後感想文コンクール表彰式	12月10日(金)	津山高校	担当校講評、美作地区高校生読後感想文表彰、最優秀賞生徒による受賞の言葉	生徒 10名 教員 13名
	第2回美作支部総会・研究協議会	12月10日(金)	津山高校	令和5年度事業計画案、図書委員会交流会について、協議連絡 研修：講演「高校生への本の魅力の伝え方」ワークショップ「ピブリオバトル」 講師 高見 京子先生(全国SLA学校図書館スーパーバイザー)	13名
	第4回司書部会研修会(美作支部)	2月17日(金)	津山東高校	令和3年度活動総括、令和4年度活動計画、委員会交流会について、協議連絡	9名
<p>反省と課題</p> <p>① 図書委員会交流会：今年度は美作地区内の5校・27名の生徒が参加し、津山工業高校で各校委員会活動の紹介と本のポップ作りを行った。各校委員会活動の紹介では、当日参加できない学校の生徒も各校の委員会活動の紹介をまとめた模造紙を会場に設置することで、展示という形で関わる事ができた。本のポップ作りでは、ポップ作成のポイントについて、ワークシートを用いて説明した後に、個人でポップを作成し、3～4人のグループで互いに自身が作ったポップを紹介した。グループワークについて、生徒からは概ね好意的な意見が寄せられたが、他校の生徒と初めて顔を合わせて活動するという事で、なじみにくい生徒もいたようなので、生徒が打ち解けられるようなミニゲームなどを今後検討していきたい。委員会交流会で作成した本のポップは、後日各校図書館で展示を行う際に活用したほか、秋の読書週間に合わせて津山市立図書館で展示を行った。</p> <p>② 支部会研修会：今年度の研修会は高見京子先生(全国SLAスーパーバイザー)を講師としてお招きし、「高校生への本の魅力の伝え方」というテーマで講演会を実施した。講演では高見先生が在職中に司書教諭として取り組んでこられた「読書イベント」を紹介していただいた。講演の後、ワークショップとして教職員同士で4人ずつのグループに分かれて、「ピブリオバトル」を行った。「ピブリオバトル」は自分がおもしろいと思った本を選んで5分間で紹介し合い、質疑応答を経て一番読みたいと思った本を決めるという一種のコミュニケーションゲームである。教職員自身が本の紹介を通してお互いの興味関心を知る楽しさを体験することができ、有意義な時間となった。</p>					

岡山県学校図書館協議会組織図

1. 構成組織



2. 組織図



岡山県学校図書館協議会規約

第1条 本会は、岡山県学校図書館協議会という。

第2条 本会は、事務局を会長在任の学校内におく。

第3条 本会は、県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実、発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 県下学校図書館相互の連絡提携、情報交換
- (2) 学校図書館運営に関する研究会、講習会、展示会等の開催。
- (3) 学校図書館教育の研究
- (4) 読書指導の研究
- (5) 学校司書の研修と身分待遇の改善
- (6) 絵本・優良図書の研究
- (7) その他

2. 第1項(2)の事業の推進、及び(3)(4)の事業の援助を行うため、研究部会を設ける。

研究部会は、特に必要のない場合、適宜活動を休止することができる。

3. 第1項(5)の事業を行うため、司書部会を設ける。司書部会に関することは、別に規定を定める。

4. 第1項(6)の事業を行うため、絵本研究部会、優良図書研究部会、ニューメディア研究部会、読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は、別に定める。

第5条 本会は、岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条 本会加入の小・中学校においては郡市ごとに、高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに、支部協議会を設ける。

2. 支部協議会に会長を置く。また、必要に応じて副会長を置くことができる。

3. 支部協議会に支部事務局を設け、支部事務局長を置く。

4. 本会は、年に数回、支部事務局長会議を開催し、必要な書類の配布、事務連絡事項の伝達を行う。

5. その他、支部協議会に関する規定は、各支部協議会で適宜決める。

第7条 本会は、社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2. 本会の会長及び事務局長は、社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条 本会に次の役員を置き、任期は2カ年とする。ただし再任を妨げない。また、補欠役員の任期は、前任者の残留期間とする。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 代表理事
- (4) 理事
- (5) 監事

2. 役員の選出は次のとおりとする。

(1) 会長は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長のなかから選出される。

(2) 副会長は、会長にならなかった小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長をもって充てる。

(3) 代表理事は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・副副会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

(4) 理事は、代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5) 監事は、原則として事務局校の所在する支部内で、小教研・中教研から1名、高教研から1名選出する。

3. 本会の最小限の役員組織として、代表役員会を設ける。代表役員は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

4. 以上の役員については、年度当初の新旧代表役員会で選出され、総会において承認を得るものとする。但し、代表理事については、総会において決定・承認されるものとする。

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、会を代表し会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき

は会務を代理する。

- (3) 代表理事は、会務の重要事項を協議し決定する。
また、代表役員会で仮決定した事項について協議し、決定する。
- (4) 理事は、会務全般について協議し、代表理事会での決定を承認する。また、年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 代表役員は、本会の最小限の役員組織として、緊急を要する事項について協議し、仮決定する。
年度当初に開催する新旧代表役員会では、役員を選出等重要事項を仮決定する。

第10条 本会の、総会・代表理事会・代表役員会は毎年1回以上開催する。総会は、理事会をもってこれに代えることができる。

第11条 事務局には、事務局長、事務局次長、参事、事務職員等をおき、会務を処理する。

第12条 本会は、役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条 本会の経費は、構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規約施行は昭和25年から[推定])

… (中略) …

平成 8年 6月 4日 一部改正

平成11年 6月 3日 一部改正

平成14年 5月30日 一部改正

平成17年 6月 2日 一部改正

岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条 この部会は、岡山県学校図書館協議会規約第4条に基づいて設けられ、岡山県学校図書館協議会司書部会と称する。

第2条 この部会の事務局は、岡山県学校図書館協議会会長の在任の学校内におく。

第3条 この部会は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加
- (2) 各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流
- (3) 優れた実践の掘り起こしと、研究実践を広めるための活動
- (4) 学校司書の配置増と安定した雇用の確立のための活動

第5条 この部会は、岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条 この部会は、次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
部会を代表し、部会の運営にあたる。また、会計事務も担当する。
- (2) 副部会長 若干名
部会長を補佐し、部会長に事故のあるときにはこれに代わる。
- (3) 理事 若干名
理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。また、地区を代表して、部会との連絡と地区の運営にあたる。
- (4) 監事 2名
会計事務を監査し、総会に報告する。

第7条 役員は、次の方法によって定める。

- (1) 役員は、総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し、総会の承認を得る。
- (2) 部会長は、会員全体の中から選出する。
- (3) 副部会長は、校種別、地区別に選出する。
- (4) 理事は、校種別、地区別に選出する。
- (5) 監事は、原則として理事経験者の中から選出する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。欠員によって補充された役員の任期は、前役員の残任期間とする。

第9条 この部会は、年1回総会を開催する。開催が困難な場合には、会員の出席に替わる方法として臨時理事会兼総会を開催することができる。なお、理事会が必要と認めた場合、又は会員の3分の1以上から請求のあった時は、臨時総会を開催しなければならない。

2. 総会は、会員の過半数の出席（オンラインによる出席・出席者に議決を委任した会員を含む）をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。
3. 総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする。
 - ① 会則の改正
 - ② 役員を選出
 - ③ 事業計画並びに事業報告
 - ④ 予算案並びに決算の承認
 - ⑤ その他重要な事項

第10条 この部会は年3回理事会を開催する。なお、

理事の3分の1以上から請求のあった時は、臨時理事会を開催しなければならない。

2. 理事会は、役員過半数の出席をもって成立する。
3. 理事会では、各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか、総会の運営に関する事項、総会に附議する議題、研究協議会・研修会に関する事項等、司書部会に関する重要な事項を審議する。
4. 理事会は、次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は、文書持ち回りにより決議を行う。ただし、これらの決定については、次の総会において承認を得なければならない。
 - ① 役員補充
 - ② その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条 本会の経費は、会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし、当分の間会費は徴収しない。なお、研修に要する実費は、そのつど徴収することができる。

2. 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

本会則は、昭和50年4月1日から施行する。

平成15年7月24日 一部改正

平成18年7月26日 一部改正

令和4年7月28日 一部改正

岡山県学校図書館協議会 72年の歩み（略年表）

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1950	昭和25		(1) 東京				県SLA発足	尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1951	26		(2) 京都					尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1952	27		(3) 小田原			総会 久米井 東	「岡山学校図書館」 創刊9月20日付	尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1953	28		(4) 大分			総会 坂本 一郎	司書講習 (岡山大学)	尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1954	29		(5) 仙台			総会 尾野作次郎	司書教諭講習 (大阪学芸大学) 9名参加	尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 神崎 水島 進 (三井中)
1955	30		(6) 徳島		(1) 西大寺, 倉敷, 津山	松尾弥太郎	学校図書館法施行	尾野作次郎 (備山)	
1956	31		(7) 宇都宮		(2) 岡山, 倉敷, 津山	佐野 友彦		内藤 一人 (備山)	
1957	32		(8) 札幌		(3) 岡山	松尾 佐野 鈴木 芦谷		内藤 一人 (備山)	
1958	33		(9) 岡山		(4) 岡山	深川 恒喜		内藤 一人 (備山)	
1959	34		(10) 東京	(1) 萩	(5) 和気, 吉備, 英田	臼井 吉見 佐野 友彦	司書教諭講習 (岡山大学) 10周年	内藤 一人 (備山)	
1960	35		(11) 大阪		(6) 児島, 笠岡, 苫田	鈴木 英二		内藤 一人 (備山)	高祖 忠直 室山 三義 三谷 堅 (津一)
1961	36		(12) 新潟	(2) 広島	(7) 赤磐, 上房, 久米	松尾弥太郎		内藤 一人 (備山)	高祖 忠直 (深 柊) 室山 三義 (倉 東) 宮野辰右衛門
1962	37		(13) 松山		(8) 岡山	裏田 武夫		内藤 一人 (備山)	
1963	38			(3) 松江	(9) 玉野, 井原, 真庭	鈴木 英二 松尾弥太郎		内藤 一人 (備山)	柴部 武士 宮野辰右衛門 (岡北) 井上弥太郎
1964	39		(14) 成田		(10) 御津, 浅口, 勝山 (奈義)	佐野 友彦		内藤 一人 (備山)	三島 一夫 (深 柊) 神原 利一 (桑 田) 川部 濟
1965	40	2号		(4) 倉吉	(11) 児島, 新見, 阿哲, 英田	松尾弥太郎		内藤 一人 (備山)	
1966	41	3号	(15) 鹿児島		(12) 津山	松尾弥太郎		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柊) 神原 利一 (桑 田)
1967	42	4号		(5) 津山	(13) 津山	木村 毅		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柊) 神原 利一 (桑 田)
1968	43	5号	(16) 名古屋		(14) 矢掛	野地 潤家		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柊) 梶原良太郎 (岡北)
1969	44	6号		(6) 防府	(15) 岡山	相島 敏夫	20周年	板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1970	45	7号	(17) 山形		(16) 成羽			板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1971	46	8号		(7) 大竹	(17) 津山	岩田 斉		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (財 田) 広江 利夫 (操 南)
1972	47	9号	(18) 兵庫		(18) 玉野	芦谷 清		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 広江 利夫 (丸之内)
1973	48	10号		(8) 出雲	(19) 邑久	石森 延男		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1974	49	11号	(19) 東京		(20) 北房	谷川 徹三		金谷 達夫 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1975	50	12号		(9) 鳥取	(21) 苫田	滑川 道夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 坪井 隆二 (石井中)
1976	51	13号	(20) 岐阜		(22) 倉敷	戸川 幸夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1977	52	14号		(10) 倉敷	(23) 倉敷	外山滋比古		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞						
	大原 利貞						
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛					
岩本 俊一 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
竹内亥三美	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞					(1) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞					(2) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(3) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(4) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(5) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞	藤森 賢一				(6) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
	大熊 圭祐	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 竹内 虎男	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	神原 利一 川合 四良	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	梶原良太郎 未平 雅夫	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 相谷 道夫	板谷 二郎 横田 恭治		
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 吉富 進	板谷 二郎 横田 恭治	(1) 岡 山	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 高田 哲夫	(2) 玉 野	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 田口 重俊	(3) 倉 敷	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	堤 護	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	桐野 事雄 田口 重俊	(4) 津 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 田口 重俊	(5) 岡 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 河村 金二	(6) 玉 野	安原 みどり
須和田秀一 山崎 蕃	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 相谷 道男	金谷 達夫 徳永 優	(7) 倉 敷	片山 峰子
須和田秀一 瀬原 康宏	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 未平 雅夫	金谷 達夫 徳永 優	(8) 津 山	片山 峰子

西曆	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1978	昭和53	15号	(21)佐賀		(24)瀬戸	三木 卓	表彰式(感想文)	村井 董直(芳泉)	赤木 庚(妹尾小) 松本 猛(京山中)
1979	54	16号		(11)下関	(25)岡山	金田 春彦	30周年	村井 董直(芳泉)	新井 正志(枚石小) 森安 萌(旭中)
1980	55	17号	(22)盛岡		(26)新見	松島 栄一		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1981	56	18号		(12)広島	(27)久米	斉藤 実		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1982	57	19号	(23)伊勢		(28)和気	灰谷健次郎		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(旭中)
1983	58	20号		(13)浜田	(29)総社	松谷みよ子		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(福南中)
1984	59	21号	(24)山口		(30)高梁	高木 敏子		宮脇 律(芳泉)	渡辺 武士(庄内小) 森安 萌(福南中)
1985	60	22号		(14)高梁	(31)高梁(兼中国)	松山 善三		榎野 昭輝(芳泉)	渡辺 武士(庄内小) 黒住 郁雄(定守中)
1986	61	23号	(25)那覇		(32)真庭	倉本 聰		西田 譲(一宮)	森川 鐵也(馬屋上小) 村田 重臣(石井中)
1987	62	24号		(15)米子	(33)笠岡	宮城まり子		西田 譲(一宮)	古川 正治(加茂小) 岡島 将(興奈中)
1988	63	25号	(26)札幌		(34)備前	矢口 高雄		杉山 定雄(一宮)	田代 尚夫(平島小) 岡島 将(興奈中)
1989	平成元	26号		(16)宇部	(35)岡山	河合 雅雄	40周年	幾田 尚(西大寺)	長安早智子(芳泉小) 岡島 将(福南中)
1990	2	27号	(27)松江		(36)新見	柴田 一		幾田 尚(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1991	3	28号		(17)広島	(37)勝田	岩崎 京子	第11回学校司書全国研究集会(於岡山)	坪井 克己(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1992	4	29号	(28)福岡		(38)倉敷	福田襄之介		皆木 徹典(和気閑谷)	森谷 浩平(野谷小) 大月 要(丸之内中)
1993	5	30号		(18)益田	(39)御津	宮地 暢夫		皆木 徹典(和気閑谷)	長崎 幡子(加茂小) 平田嬉世子(中山中)
1994	6	31号	(29)秋田		(40)川上	富永 一朗		中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 白神 幸世(京山中)
1995	7	32号		(19)鳥取				中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 赤木 久児(藤田中)
1996	8	33号	(30)埼玉		(41)英田	あさのあつこ		中野 宏(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1997	9	34号		(20)岡山	(42)総社、真備(兼中国)	阿刀田 高		大山 晋右(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1998	10	35号	(31)金沢					鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
1999	11	36号		(21)岩国	(43)岡山	塩見 昇	50周年	鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
2000	12	37号	(32)奈良		(44)新見・阿哲	灰谷健次郎		川井章三郎(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 香川 璋子(高松中)
2001	13	38号		(22)広島				山根 健(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2002	14	39号	(33)横浜		(45)津山	後藤 竜二		大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2003	15	40号		(23)出雲				大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(福南中)
2004	16	41号	(34)ひこくわ		(46)井原、後月	佐々木正美		高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)
2005	17	42号		(24)倉吉				高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県 司 書 大 会	県 司 書 部 会 長
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	赤木 庚 山名 徳則	森安 萌 相谷 道男	村井 董 岡 直博	(9) 岡 山	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	新井 正志 三宅 敏文	森安 萌 相谷 道男	村井 董 岡 直博	(10) 玉 野	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 岡 博	(11) 倉 敷	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 大熊 圭祐	(12) 津 山	片山 峰子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(13) 岡 山	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(14) 玉 野	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	渡辺 武士 福岡トキコ	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 山吹 堯敏	(15) 倉 敷	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	山吹 堯敏	渡辺 武士 福岡トキコ	黒住 有雄 瀬戸川 宏	横野 昭輝 山吹 堯敏	(16) 津 山	守屋千冬子
岸田 崇	萩原 一之	佐伯 誠一	森川 鏡也 福岡トキコ	村田 重臣 白河左江子	西田 讓 服部 亮介	(17) 岡 山	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	藤本 善三	古川 正治 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	西田 讓 服部 亮介	(18) 玉 野	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	竹井 千庫	田代 尚夫 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	杉山 定雄 服部 亮介	(19) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	門野 茂蔵	田中 修二	長安早智子 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(20) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	波多野研爾	田中 修二	森谷 浩平 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(21) 岡 山	青江 暉子
広本 勝裕	田中 修二	石井 寛子	森谷 浩平 松浦 順子	岡島 将 坪井 敬也	坪井 克己 八木 和一	(22) 玉 野	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	阪田 俊介	森谷 浩平 岡崎 明宏	大月 要 坪井 敬也	皆木 徹典 若狭 真司	(23) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	後藤 信介	長崎 幡子 島田 保弘	平田嬉世子 岡田 敏雄	皆木 徹典 若狭 真司	(24) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	国富 浩二	畝岡 睦美	瀬戸川 宏 石川真佐代	白神 幸昌 岡田 敏雄 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(25) 岡 山	守屋千冬子
広本 勝裕	田辺 宏海	国富 浩二	瀬戸川 宏 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(26) 玉 野	守屋千冬子
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充 利守 雅行	中野 宏 佐守 謙一	(27) 倉 敷	佐藤 菊江
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充 利守 雅行	大山 晋右 佐守 謙一	(28) 津 山	佐藤 菊江
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 脩篤	(29) 岡 山	小野 暁子
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 脩篤	(30) 玉 野	小野 暁子
桑木 一郎	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 利守 雅行 原 清行	川井 章三郎 尾崎 寛子	(31) 倉 敷	小野 暁子 鹿野 恵子
大滝 一登	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	綿谷 佳男 利守 雅行 原 清行	山根 健 細川 直子	(32) 津 山	鹿野 恵子
大滝 一登	有松 幹雄	行藤 潔	料治 育子 原野おどり	綿谷 佳男 利守 雅行 海野 行晴	大嶋 俊宣 三宅 博己	(33) 岡 山	鹿野 恵子 岡本信二郎
大滝 一登	三宅 博己	深見 啓行	料治 育子 高橋おどり	綿谷 佳男 利守 雅行 海野 行晴	大嶋 俊宣 深見 啓行	(34) 玉 野	岡本信二郎
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	(35) 倉 敷	岡本信二郎 宇原 郁世
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	研修会(倉敷)	宇原 郁世

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
2006	18	43号	(35)郡山					山下 滋 (倉敷青陵)	岡本 利和 (御南中) 竹内 裕子 (可知小)
2007	19	44号		(25)岡山	(47)岡山	高畑 勲		永井 裕 (倉敷青陵)	河本 雅明 (建部中) 竹内 裕子 (可知小)
2008	20	45号	(36)熊本					高木二三男 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2009	21	46号		(26)下関	(48)鏡野	今江 祥智		赤木 圭介 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2010	22	47号	(37)静岡					坂江 誠 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2011	23	48号		(27)広島	(49)矢掛	赤木かみ子		岡野 貴司 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2012	24	49号	(38)米子					中桐 哲則 (玉島)	山本 健五 (御津中) 服部由利子 (古都小)
2013	25	50号		(28)浜田	(50)吉備中央	田澤 雄作		國府島貞司 (玉島)	大川 泰栄 (上道中) 服部由利子 (東壽小)
2014	26	51号	(39)甲府					藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2015	27	52号		(29)倉敷	(51)倉敷	小嶋 光信		藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2016	28	53号	(40)神戸					福田 邦男 (倉敷古城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2017	29	54号		(30)米子	(52)津山	平田オリザ		福田 邦男 (倉敷古城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2018	30	55号	(41)富山高岡					土家 槇夫 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 藤井 隆 (高松中)
2019	1	56号		(31)山口	(53)岡山	村中李衣		高槻 信博 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 水畑 法生 (岡北中)
2020	2	57号	(42)高松 誌上開催					鳥越 信行 (倉敷南)	森 淳 (岡南小) 青木 伸晃 (操南中)
2021	3	58号		(32)広島	(54)真庭 誌面開催	湯澤美紀		鳥越 信行 (倉敷南)	森 淳 (岡南小) 青木 伸晃 (操南中)
2022	4	59号	(43)オンラ イン開催					藤井 省吾 (倉敷天城)	松原 弘 (高島小) 中田 隆宏 (妹尾中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
大滝 一登 高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	岡本 利和 利守 雅行 有友 雅人	山下 滋 井上 裕子	(36) 岡 山	景山 美香 坂口 桂蔵
高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	河本 雅明 利守 雅行 有友 雅人	永井 裕 井上 裕子	研修会 (津山)	坂口 桂蔵
高尾 敏也 武田 祥江	志部 雄介	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	高木 二三男 藤田 京子	(37) 倉 敷	坂口 桂蔵 池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	永山 整	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	赤木 圭介 藤田 京子	研修会 (玉野)	池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	坂江 誠 小野 恭子	(38) 岡 山	池田 桂子 二部野陽子
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	岡野 貴司 小野 恭子	研修会 (岡山)	二部野陽子
乙倉 寛 石本康一郎	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	中桐 哲則 尾崎 寛子	(39) 倉 敷	二部野陽子 米倉 弥生
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	大川 泰栄 宗實恵利子 利守 雅行	國府島 貞司 尾崎 寛子	研修会 (津山)	米倉 弥生
辻田 詔子 須藤由美江	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 岡田恵利子 利守 雅行	藤井 健平 柳井 典子	(40) 岡 山	米倉 弥生 原 弘江
森川 悟 新田 治彦	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 永守 志帆 金田 益美	藤井 健平 柳井 典子	研修会 (玉野)	原 弘江
岡本 里香 三宅 健夫	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 永守 志帆 金田 益美	福田 邦男 児島 真理子	(41) 倉 敷	原 弘江 西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 仁科 恵子 佐伯 詩帆	福田 邦男 太田 淳	研修会 (倉敷)	西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	藤井 隆 仁科 恵子 佐伯 詩帆	土家 横夫 大口 千恵子	(42) 岡 山	西村 百代 成本 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	水畑 法生 笹野 恭代 海野 行晴	高槻 信博 大口 千恵子	研修会 (岡山)	成本 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	平松 玲子	(なし)	森 淳 早川 夕加里 武田 綾子	青木 伸晃 笹野 恭代 海野 行晴	鳥越 信行 高橋 綾美	(43) 倉 敷	成本 由貴 大橋 昭子
大塚 崇史 後藤 直之	平松 玲子	(なし)	森 淳 早川 夕加里 武田 綾子	青木 伸晃 池田 麻子 湯浅 憲一	鳥越 信行 高橋 綾美	研修会 (津山)	大橋 昭子
大塚 崇史 大賀 俊彦	坂井 昌子	(なし)	松原 弘 古田 彩歌 本間 早紀 副島 佳成子	中田 隆宏 池田 麻子 湯浅 憲一	藤井 省吾 小野 貴子	(44) 岡 山	大橋 昭子 大西 結美

岡山県学校図書館研究集録（第 59 号）

発 行 日 2023 年 3 月 31 日

発 行 所 岡山県学校図書館協議会事務局
〒710-0132
岡山県倉敷市藤戸町天城 269
岡山県立倉敷天城高等学校内
TEL (086)428-1251

発行責任者 岡山県学校図書館協議会会長
藤井 省吾